

令和 2 年度

南相馬市公営企業会計
決算審査意見書

南相馬市監査委員

3 監 第 7 4 号
令和3年8月23日

南相馬市長 **門馬 和夫** 様

南相馬市監査委員 **小 澤 政 光**

南相馬市監査委員 **鈴 木 昌 一**

令和2年度南相馬市各公営企業会計決算審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定により審査に付された令和2年度南相馬市公営企業会計決算について審査した結果、その意見を次のとおり提出します。

目 次

| | |
|----------------|---|
| 第1 審査の対象 | 1 |
| 第2 審査の期間 | 1 |
| 第3 審査の方法 | 1 |
| 第4 審査の結果 | 1 |
| 第5 審査の概要 | 1 |

【水道事業会計】

| | |
|----------------------|----|
| 1 業務の実績 | 5 |
| 2 予算の執行状況 | 6 |
| 3 経営成績 | 9 |
| 4 財政状態 | 11 |
| 5 経営分析 | 14 |
| 6 む す び | 14 |
| 付表 1 業務実績表 | 19 |
| 付表 2 損益計算年度比較表 | 20 |
| 付表 3 比較損益計算書 | 21 |
| 付表 4 比較貸借対照表 | 22 |
| 付表 5 経営分析比較表 | 24 |

【病院事業会計】

| | |
|----------------------|----|
| 1 業務の実績 | 31 |
| 2 予算の執行状況 | 33 |
| 3 経営成績 | 36 |
| 4 財政状態 | 39 |
| 5 経営分析 | 41 |
| 6 む す び | 41 |
| 付表 1 業務実績表 | 45 |
| 付表 2 損益計算年度比較表 | 48 |
| 付表 3 比較損益計算書 | 50 |
| 付表 4 比較貸借対照表 | 52 |
| 付表 5 経営分析比較表 | 58 |

【工業用水道事業会計】

| | | |
|------|-----------|----|
| 1 | 業務の実績 | 69 |
| 2 | 予算の執行状況 | 69 |
| 3 | 経営成績 | 71 |
| 4 | 財政状態 | 72 |
| 5 | 経営分析 | 74 |
| 6 | むすび | 74 |
| 付表 1 | 損益計算年度比較表 | 78 |
| 付表 2 | 比較損益計算書 | 79 |
| 付表 3 | 比較貸借対照表 | 80 |
| 付表 4 | 経営分析比較表 | 82 |

【下水道事業会計】

| | | |
|------|-----------|-----|
| 1 | 業務の実績 | 89 |
| 2 | 予算の執行状況 | 90 |
| 3 | 経営成績 | 94 |
| 4 | 財政状態 | 95 |
| 5 | 経営分析 | 98 |
| 6 | むすび | 99 |
| 付表 1 | 損益計算年度比較表 | 102 |
| 付表 2 | 比較損益計算書 | 103 |
| 付表 3 | 比較貸借対照表 | 104 |
| 付表 4 | 経営分析比較表 | 106 |

凡 例

- 1 金額の千円単位は、原則として四捨五入している。
- 2 比率(%)は、原則として表示単位未満を四捨五入している。
- 3 構成比(%)は、合計が100となるように一部調整している。
- 4 「ポイント」とは、パーセンテージ間の単純差引数値である。
- 5 各符号の用法は、次のとおりである。
(0.0) 該当数字はあるが、表示単位未満のもの
(・) 該当数字がないか、または算出不能のもの
() 減少または損失を意味する

令和2年度 南相馬市公営企業会計決算審査意見

第1 審査の対象

- 1 令和2年度南相馬市水道事業会計
- 2 令和2年度南相馬市病院事業会計
- 3 令和2年度南相馬市工業用水道事業会計
- 4 令和2年度南相馬市下水道事業会計

第2 審査の期間

令和3年7月15日から令和3年8月16日まで

第3 審査の方法

決算審査にあたっては、市長から提出のあった決算書類が、その事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているか否かを検証するために、会計帳簿及び証拠書類等との照合を行い、かつ、関係書類並びに帳簿記録等について当局の説明を求め、審査を実施した。

第4 審査の結果

審査に付された決算書類及び決算附属書類は、関係法令に準拠して作成されており、経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認められた。

また、予算執行及び関連する事務の処理は、おおむね適正に行われているものと認められた。しかしながら、病院事業会計において、小高診療所資本的支出建設改良費（税抜き）252,411,755円は、予算執行明細に従えば、貸借対照表の有形固定資産勘定に土地38,586,300円、建設仮勘定213,825,455円とすべきところ、決算書固定資産明細書のとおり土地45,435,300円、建物10,800,000円、建設仮勘定196,176,455円に仕訳計上されていた。

第5 審査の概要

各事業会計別の予算執行状況、経営成績及び財政状態については、次の記述のとおりである。

水道事業会計

1 業務の実績

(1) 普及率

令和2年度末における普及率は、対計画給水人口で76.3%、また、対総人口で83.5%となっている。普及の状況を元年度と比較すると次のとおりである。

| 区分 | 給水人口 | 給水戸数 | 計画給水人口 に対する普及率 | 総人口 に対する普及率 |
|-------|---------|---------|-------------------|----------------|
| 令和2年度 | 40,418人 | 17,947戸 | 76.3% | 83.5% |
| 令和元年度 | 39,388人 | 17,142戸 | 69.7% | 80.3% |
| 差引 | 1,030人 | 805戸 | 6.6 | 3.2 |
| 増減率 | 2.6% | 4.7% | - | - |

また、予算に示す年度末給水戸数は17,986戸で、この計画に対し39戸(0.2%)の減となっている。

なお、令和2年度末給水人口は40,418人で、元年度に比べ、1,030人増加しているが、その主な要因は、小高簡易水道(北部・西部)特別会計分が新たに加わったことによるものである。

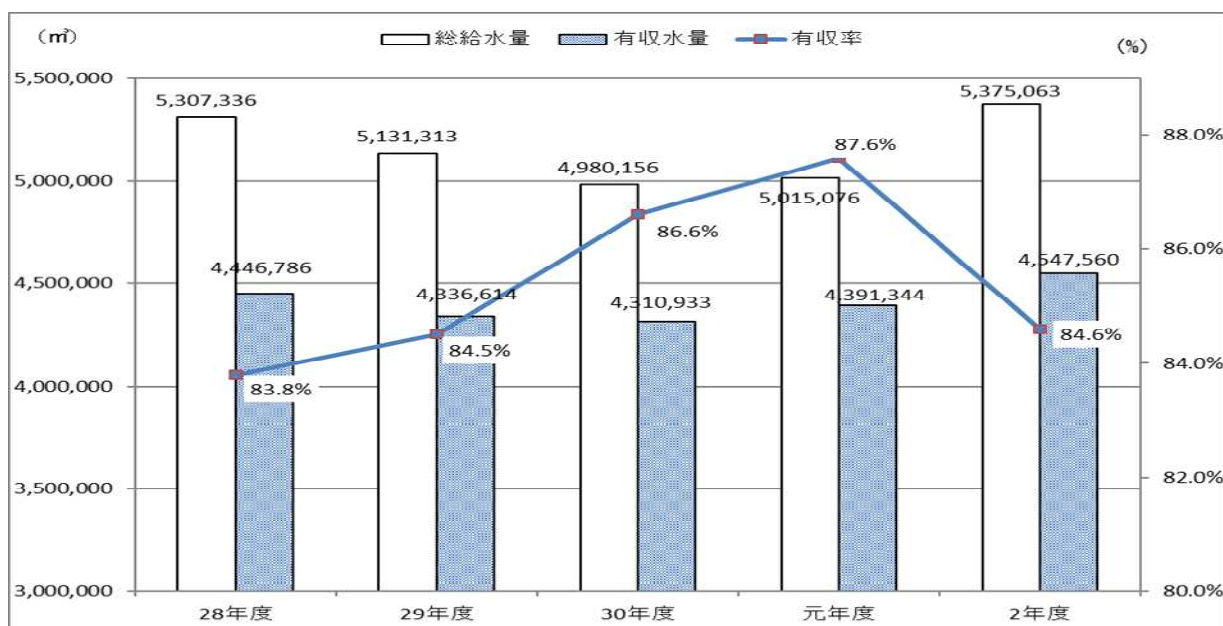
(2) 給水状況

総給水量は5,375,063^mで、業務予定の5,392,792^mに対して17,729^m(0.3%)の減となっており、元年度実績と比較して359,987^m(7.2%)の増となっている。

また、有収水量は、給水需要及び給水人口の増により元年度と比較して156,216^m(3.6%)の増加となった一方、有収率は、令和3年2月福島沖地震による漏水事故等のため3.0ポイントの減になっている。

なお、過去3か年の総給水量などの実績は、次のとおりである。

| 区分 \ 年度 | 2 | 元 | 30 |
|-------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| 総給水量 (A) | 5,375,063 ^m | 5,015,076 ^m | 4,980,156 ^m |
| 有収水量 (B) | 4,547,560 ^m | 4,391,344 ^m | 4,310,933 ^m |
| 有収率 (B)/(A) | 84.6% | 87.6% | 86.6% |
| 一人一日平均給水量 | 364 | 348 | 346 |



(3) 施設の利用状況

施設の利用率は、負荷率と最大稼働率とに分けることができるが、負荷率は85.0%で令和元年度と比較して1.3ポイントの増、最大稼働率は60.3%と元年度と比較して0.9ポイントの増、施設利用率は51.2%と元年度と比較して1.5ポイントの増となっている。

また、一日平均給水量は、14,726m³で元年度の13,703m³と比較して1,023m³(7.5%)の増となっている。なお、過去3か年の一日給水能力などの実績は、次のとおりである。

(単位：m³ %)

| 区分 | 年度 | 2 | 元 | 30 |
|------------|----|--------|--------|--------|
| 一日給水能力(A) | | 28,736 | 27,570 | 27,570 |
| 一日最大給水量(B) | | 17,331 | 16,373 | 15,952 |
| 一日平均給水量(C) | | 14,726 | 13,703 | 13,644 |
| 負荷率(C/B) | | 85.0 | 83.7 | 85.5 |
| 最大稼働率(B/A) | | 60.3 | 59.4 | 57.9 |
| 施設利用率(C/A) | | 51.2 | 49.7 | 49.5 |

2 予算の執行状況

(1) 収益的収入及び支出

《収益的収入》

(単位：円 %)

| 区分 科目 | 予算現額 | 決算額 | 差引増減 | 執行率 | 構成比率 |
|------------|---------------|---------------|------------|-------|-------|
| 原町水道事業収益 | 1,129,640,000 | 1,138,296,250 | 8,656,250 | 100.8 | 82.1 |
| 営業収益 | 1,032,081,000 | 1,031,364,258 | 716,742 | 99.9 | 74.4 |
| 営業外収益 | 96,442,000 | 105,816,908 | 9,374,908 | 109.7 | 7.6 |
| 特別利益 | 1,117,000 | 1,115,084 | 1,916 | 99.8 | 0.1 |
| 小高簡易水道事業収益 | 240,923,000 | 247,621,460 | 6,698,460 | 102.8 | 17.9 |
| 営業収益 | 136,645,000 | 141,398,688 | 4,753,688 | 103.5 | 10.2 |
| 営業外収益 | 54,939,000 | 53,902,409 | 1,036,591 | 98.1 | 3.9 |
| 特別利益 | 49,339,000 | 52,320,363 | 2,981,363 | 106.0 | 3.8 |
| 収益的収入合計 | 1,370,563,000 | 1,385,917,710 | 15,354,710 | 101.1 | 100.0 |

決算額には、仮受消費税及び地方消費税103,632,960円、還付消費税及び地方消費税6,109,555円を含む。

《収益的支出》

(単位：円 %)

| 科目 | 区 分 | 予 算 現 額 | 決 算 額 | 不 用 額 | 執行率 | 構 成 比 率 |
|------------|-----|---------------|-------------|------------|------|---------|
| 原町水道事業費用 | | 786,364,400 | 747,735,435 | 38,628,965 | 96.9 | 77.6 |
| 営業費用 | | 771,624,400 | 736,349,877 | 35,274,523 | 95.4 | 76.4 |
| 営業外費用 | | 11,238,000 | 11,235,681 | 2,319 | 1.5 | 1.2 |
| 特別損失 | | 502,000 | 149,877 | 352,123 | 0.0 | 0.0 |
| 予備費 | | 3,000,000 | 0 | 3,000,000 | 0.0 | 0.0 |
| 小高簡易水道事業費用 | | 231,811,900 | 216,327,385 | 15,484,515 | 93.3 | 22.4 |
| 営業費用 | | 207,066,900 | 192,703,416 | 14,363,484 | 93.1 | 20.0 |
| 営業外費用 | | 23,643,000 | 23,585,383 | 57,617 | 99.8 | 2.5 |
| 特別損失 | | 102,000 | 38,586 | 63,414 | 37.8 | 0.0 |
| 予備費 | | 1,000,000 | 0 | 1,000,000 | 0.0 | 0.0 |
| 収益的支出合計 | | 1,018,176,300 | 964,062,820 | 54,113,480 | 94.7 | 100.0 |

決算額には、仮払消費税及び地方消費税28,337,296円、消費税及び地方消費税納付額1,004,500円を含む。

収益的収入の決算額は、1,385,917,710円で予算現額1,370,563,000円に対して15,354,710円(1.1%)の収入増となっており、収入増の主なものは、原町水道事業で加入金6,094,000円、長期前受金戻入9,034,899円などである。

また、収益的支出の決算額は、964,062,820円で予算現額1,018,176,300円に対して94.7%の執行率で、不用額は54,113,480円となっている。不用額の主なものは、原町水道事業で、原水及び浄水費17,674,394円、配水及び給水費9,445,647円などである。

(2) 資本的收入及び支出

《資本的收入》

(単位：円%)

| 区 分 科 目 | 予 算 現 額 | 決 算 額 | 差 引 増 減 | 執 行 率 | 構 成 比 率 |
|---------------|-------------|-------------|-------------|-------|------------|
| 原町水道事業資本的收入 | 319,492,000 | 201,378,200 | 118,113,800 | 63.0 | 61.8 |
| 他会計補助金 | 176,634,000 | 111,118,000 | 65,516,000 | 62.9 | 34.1 |
| 国庫補助金 | 85,022,000 | 35,481,000 | 49,541,000 | 41.7 | 10.9 |
| 他会計負担金 | 12,093,000 | 12,205,900 | 112,900 | 100.9 | 3.7 |
| 工事負担金 | 45,742,000 | 42,573,300 | 3,168,700 | 93.1 | 13.1 |
| 固定資産売却代金 | 1,000 | 0 | 1,000 | 0.0 | 0.0 |
| 小高簡易水道事業資本的收入 | 162,381,000 | 124,671,000 | 37,710,000 | 76.8 | 38.2 |
| 企業債 | 30,400,000 | 5,600,000 | 24,800,000 | 18.4 | 1.7 |
| 他会計補助金 | 71,082,000 | 62,402,000 | 8,680,000 | 87.8 | 19.1 |
| 他会計負担金 | 3,358,000 | 3,245,000 | 113,000 | 96.6 | 1.0 |
| 工事負担金 | 34,586,000 | 30,470,000 | 4,116,000 | 88.1 | 9.4 |
| 固定資産売却代金 | 1,000 | 0 | 1,000 | 0.0 | 0.0 |
| 出資金 | 22,954,000 | 22,954,000 | 0 | 100.0 | 7.0 |
| 資本的收入合計 | 481,873,000 | 326,049,200 | 155,823,800 | 67.7 | 100.0 |

《資本の支出》

(単位：円%)

| 区 分 科 目 | 予 算 現 額 | 決 算 額 | 翌年度繰越額 | 不 用 額 | 執 行 率 | 構 成 比 率 |
|---------------|---------------|---------------|-------------|------------|-------|------------|
| 原町水道事業資本の支出 | 1,313,520,000 | 1,116,183,207 | 152,806,000 | 44,530,793 | 85.0 | 82.1 |
| 建設改良費 | 1,259,433,000 | 1,065,096,792 | 152,806,000 | 41,530,208 | 84.6 | 78.3 |
| 企業債償還金 | 51,087,000 | 51,086,415 | 0 | 585 | 100.0 | 3.8 |
| 予備費 | 3,000,000 | 0 | 0 | 3,000,000 | 0.0 | 0.0 |
| 小高簡易水道事業資本の支出 | 264,177,000 | 243,916,906 | 0 | 20,260,094 | 92.3 | 17.9 |
| 建設改良費 | 149,921,000 | 132,046,783 | 0 | 17,874,217 | 88.1 | 9.7 |
| 企業債償還金 | 112,056,000 | 111,870,123 | 0 | 185,877 | 99.8 | 8.2 |
| 予備費 | 2,200,000 | 0 | 0 | 2,200,000 | 0.0 | 0.0 |
| 資本の支出合計 | 1,577,697,000 | 1,360,100,113 | 152,806,000 | 64,790,887 | 86.2 | 100.0 |

決算額には、仮払消費税及び地方消費税108,751,426円を含む。

資本的收入の決算額は、326,049,200円で予算現額481,873,000円に対し67.7%の執行率となっている。また、資本的支出の決算額は、1,360,100,113円で予算現額1,577,697,000円に対し86.2%の執行率で、翌年度繰越額152,806,000円を差し引いた不用額は64,790,887円となっている。不用額の主なものは、原町水道事業の原水及び浄水設備費17,545,373円、配水設備費23,572,100円などである。

なお、資本的收入額が資本的支出額に不足する額1,034,050,913円は、2年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額81,767,969円、減債積立金51,086,415円、過年度分損益勘定留保資金610,767,015円及び2年度分損益勘定留保資金290,429,514円で補てんされている。

(3) その他

予算第5条には、企業債の借入目的、限度額等が定められており、2年度の借入額は、5,600,000円であった。

企業債の借入状況

| 起債の目的 | 限度額 | 借入額 |
|---------|-------------|------------|
| 配水管布設事業 | 30,400,000円 | 5,600,000円 |

令和2年度末の企業債の概況は、次表のとおりである。

企業債の概況

| 区 分 | 元年度末残高 | 2年度借入高 | 2年度償還高 | 2年度末残高 |
|----------|----------------|------------|--------------|----------------|
| 原町水道事業 | 518,359,404円 | 0円 | 51,086,415円 | 467,272,989円 |
| 小高簡易水道事業 | 915,383,489円 | 5,600,000円 | 111,870,123円 | 809,113,366円 |
| 合 計 | 1,433,742,893円 | 5,600,000円 | 162,956,538円 | 1,276,386,355円 |

予算第6条には、一時借入金金の限度額が100,000,000円と定められているが、2年度中の借入は行われなかった。

予算第7条には、予定支出の各項の経費の金額を流用することができる場合を定められているが、営業費用から営業外費用へ、1,679,000円の流用が行われた。

予算第8条には、流用を制限された職員給与費が115,751,000円と定められており、その支出額は112,269,931円となっている。なお、本条に抵触する流用はなかった。

予算第9条には、一般会計からの補助を受ける金額が125,916,000円と定められているが、その補助金額は173,520,000円となっている。元年度からの繰越分が増加となっている。

予算第10条には、たな卸資産の購入限度額が7,534,000円と定められており、その購入実績は5,456,220円で執行率72.4%となっている。

3 経営成績

(1) 経営の概要

本年度の経営成績は、総収益1,276,182,039円に対して総費用936,591,138円で、差し引き339,590,901円の純利益が生じている。

元年度と比較すると、付表2及び3のとおりであるが、総収益で133,381,927円(11.7%)の増、総費用109,531,563円(13.2%)の増となっている。

なお、企業活動の経済性を示す収益率については、次のとおりである。

・ 営業収支比率 $\frac{\text{営業収益}}{\text{営業費用}} \times 100 = 119.1\%$ (元年度 127.6%)

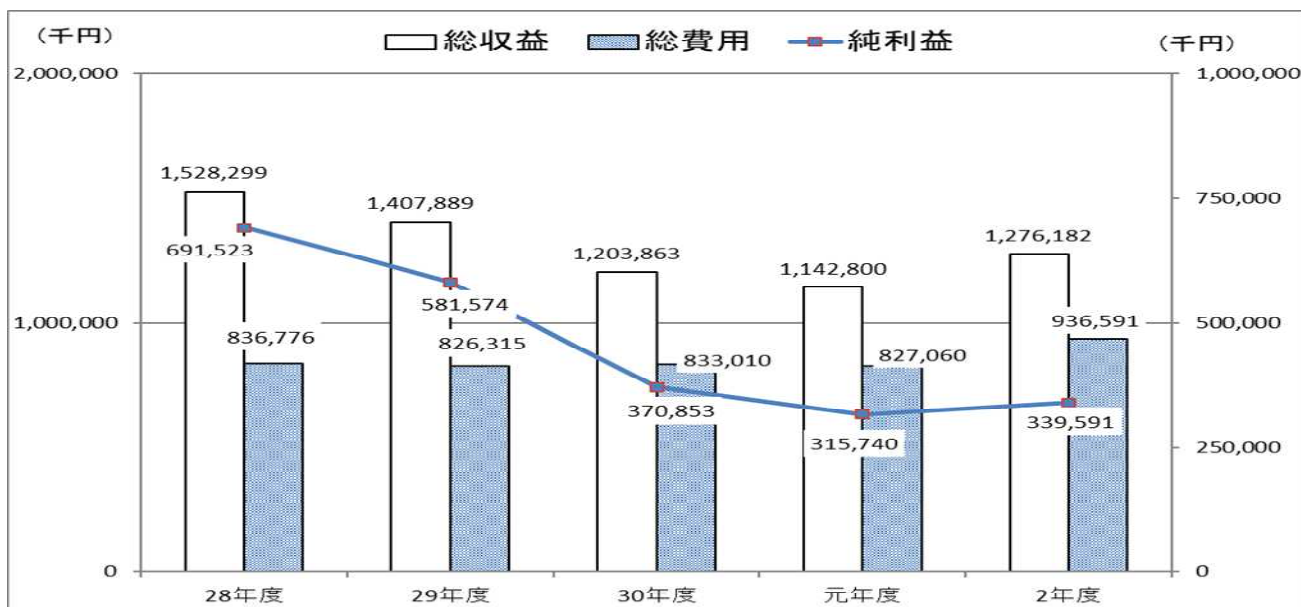
・ 総収支比率 $\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100 = 136.3\%$ (元年度 138.2%)

さらに、有収水量 1 m³当たりの供給単価と給水原価を元年度と比較すると次のとおりである。

(単位：円%)

| 区 分 | 令和2年度 | 令和元年度 | 前年度対比 | 備 考 |
|---------------|--------|--------|-------|---------------------------------|
| 供給単価(A) | 217.00 | 218.31 | 99.4 | 給水収益 / 年間有収水量 |
| 給水原価(B) | 181.05 | 170.86 | 106.0 | 経常費用 - 受託工事費 - 長期前受金戻入 / 年間有収水量 |
| 供給利益(A) - (B) | 35.95 | 47.45 | 75.8 | |

供給単価は、元年度と比較して1.31円（0.6％）の減少、給水原価は、元年度と比較して10.19円（6.0％）増加している。この結果、供給単価が給水原価を上回り、1 m³当たりの供給利益は35.95円となり、元年度と比較して11.5円（24.2％）減少している。その主な要因は、営業費用のうち、小高簡易水道（北部・西部）特別会計の減価償却費分が加わったことや、元年度の建設改良費の増に伴う償却資産分が増加したことによるものである。



(2) 収益について

営業収益

営業収益の総額は、1,072,680,600円で元年度と比較して51,651,595円（5.1％）の増で、総収益に占める割合は、84.1％（元年度89.3％）となっている。これは、主に給水収益28,106,824円（2.9％）が増加したことによるものである。

また、人口1人当たりの給水収益などについては次のとおりである。

（単位：円 人 %）

| 区分 | 令和2年度 | | 令和元年度 | | 比較増減 | 前年度対比 |
|-----------|---------------|-------|---------------|-------|------------|-------|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | | |
| 給水収益 | 986,802,072 | 92.0 | 958,695,248 | 93.9 | 28,106,824 | 102.9 |
| 受託業務収益 | 17,908,428 | 1.7 | 16,535,657 | 1.6 | 1,372,771 | 108.3 |
| 他会計負担金 | 66,804,400 | 6.2 | 44,651,600 | 4.4 | 22,152,800 | 149.6 |
| 国庫補助金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| その他の営業収益 | 1,165,700 | 0.1 | 1,146,500 | 0.1 | 19,200 | 101.7 |
| 国庫委託金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| 営業収益計 | 1,072,680,600 | 100.0 | 1,021,029,005 | 100.0 | 51,651,595 | 105.1 |
| 給水人口 | 40,418 | - | 39,388 | - | 1,030 | 102.6 |
| 一人当たり給水収益 | 24,415 | - | 24,340 | - | 75 | 100.3 |

水道料金の収入状況については、次のとおりである。収入済額は、1,049,191,337円で元年度と比較して43,599,145円（4.3％）の増で、収入未済額は、39,248,418円で元年度と比較して1,349,625円（3.6％）の増となっており、収入率は、96.4％で元年度と比較して0.1ポイント増となっている。

営業外収益

営業外収益の総額は、150,065,992円で元年度と比較して39,345,718円(35.5%)の増で、総収益に占める割合は11.8% (元年度9.7%) となっている。これは、長期前受金戻入36,645,627 (48.0%) が増加したことなどによるものである。

特別利益

特別利益の総額は、53,435,447円で元年度と比較して42,384,614円 (383.5%) の増となっている。これは、その他特別利益 (原子力損害賠償金) が増加したことによるものである。

営業費用

営業費用の総額は、900,732,949円で元年度と比較して100,705,891円(12.6%)の増で、総費用に占める割合は、96.2% (元年度96.7%) となっている。これは、原水及び浄水費23,383,257円 (20.8%)、減価償却費77,941,716円 (20.0%)、資産減耗費11,952,323円 (96.3%) が増加したことなどによるものである。

なお、職員給与費は、112,222,144円で元年度と比較して2,353,761円(2.1%)増加しており、営業費用に占める割合は12.5% (元年度13.7%) となっている。これは給料、手当、報酬、法定福利費、退職給与金が増加したことによるものである。

営業外費用

営業外費用の総額は、35,686,678円で元年度と比較して8,992,507円 (33.7%) の増で、総費用に占める割合は、3.8% (元年度3.2%) となっている。これは、支払利息及び企業債取扱諸費6,878,348円(30.3%)、消費税及び地方消費税4,271,700円が増加したことによるものである。

特別損失

特別損失の総額は、171,511円で元年度と比較して166,835円 (49.3%) の減となっている。これは、過年度損益修正損が減少したことによるものである。

4 財政状態

2年度における資産、負債及び資本の変動状況は、付表4に示すとおりである。資産の総額と負債及び資本の合計は、15,979,888,156円で元年度と比較して1,521,470,926円 (10.5%) の増となっている。

(1) 資産

固定資産

固定資産は、11,179,608,198円で元年度と比較して1,794,486,669円 (19.1%) の増で、資産総額に占める割合は、70.0% (元年度64.9%) となっている。これは、構築物1,148,224,348 (14.6%)、機械及び装置439,788,447円 (48.3%)、車輛運搬具19,545,870円 (337.5%) が増加したことなどによるものである。

流動資産

流動資産は、4,800,279,958円で元年度と比較して273,015,743円 (5.4%) の減で、資産総額に占める割合は、30.0% (元年度35.1%) となっている。これは、現金・預金233,616,297円 (4.9%)、前払金61,460,000円 (59.3%) が減少したことなどによるものである。

水道料金不納欠損処分額は37件 (14人) 104,204円 (元年度43件 (全て事業者) 1,074,864円) で元年度と比較して970,660円 (90.3%) の減となっている。

(2) 負債・資本

負債

負債は、4,564,375,847円で元年度と比較して1,130,773,014円(32.9%)の増で、負債・資本合計に占める割合は、28.6%(元年度23.7%)となっている。これは、固定負債の企業債321,553,868円(40.8%)、流動負債の企業債50,947,168円(44.1%)が増加したことなどによるものである。

資本

資本は、11,415,512,309円で元年度と比較して390,697,912円(3.5%)の増で、負債・資本合計に占める割合は、71.4%(元年度76.3%)となっている。これは、利益剰余金287,200,593円(7.1%)が増加したことによるものである。

(3) 資金の状況

キャッシュ・フロー計算書

(単位:円)

| 項 目 | 令和2年度 | 令和元年度 | 比較増減 |
|----------------------------|---------------|---------------|-------------|
| 1. 業務活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 当年度純利益 | 339,590,901 | 315,740,537 | 23,850,364 |
| 減価償却費 | 467,249,493 | 389,307,777 | 77,941,716 |
| 繰延勘定償却費 | 0 | 0 | 0 |
| 貸倒引当金の増減額(は減少) | 229,032 | 648,763 | 877,795 |
| 退職給付引当金の増減額(は減少) | 16,984,908 | 5,872,000 | 22,856,908 |
| 賞与引当金の増減額(は減少) | 162,000 | 347,000 | 185,000 |
| 法定福利費引当金の増減額(は減少) | 22,000 | 179,000 | 157,000 |
| 修繕引当金の増減額(は減少) | 0 | 0 | 0 |
| 長期前受金戻入額 | 113,067,419 | 76,421,792 | 36,645,627 |
| 受取利息及び配当金 | 868,142 | 775,645 | 92,497 |
| 支払利息 | 29,544,814 | 22,666,466 | 6,878,348 |
| 固定資産除却損 | 24,359,464 | 12,179,641 | 12,179,823 |
| 有形固定資産売却損益(は益) | 0 | 227,500 | 227,500 |
| 過年度損益修正損益(は益) | 0 | 9,987,000 | 9,987,000 |
| 未収金の増減額(は増加) | 13,994,862 | 21,305,451 | 35,300,313 |
| 未払金の増減額(は減少) | 28,491,619 | 27,063,388 | 1,428,231 |
| たな卸資産の増減額(は増加) | 117,880 | 560,105 | 677,985 |
| 消費税特定収入圧縮記帳に伴う金額修正 | 26,983,457 | 8,162,610 | 18,820,847 |
| 特定収入消費税雑収益計上分控除 | 7,037 | 37,296 | 30,259 |
| その他流動資産の増減額 | | | |
| 前払費用の増減額(は増加) | 195,194 | 73,621 | 121,573 |
| その他流動負債の増減額 | | | |
| 預り金の増減額(は減少) | 3,120,037 | 2,694,598 | 425,439 |
| 小 計 | 691,512,947 | 604,486,058 | 87,026,889 |
| 利息及び配当金の受取額 | 868,142 | 775,645 | 92,497 |
| 利息の支払額 | 29,544,814 | 22,666,466 | 6,878,348 |
| 業務活動によるキャッシュ・フロー | 662,836,275 | 582,595,237 | 80,241,038 |
| 2. 投資活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | 1,088,392,149 | 737,153,669 | 351,238,480 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 0 | 577,500 | 577,500 |
| 国庫補助金による収入 | 35,481,000 | 29,824,000 | 5,657,000 |
| 他会計補助金による収入 | 173,520,000 | 16,654,000 | 156,866,000 |
| 工事負担金による収入 | 73,043,300 | 37,625,000 | 35,418,300 |
| 他会計補助金の返還による支出 | 0 | 0 | 0 |
| 他会計負担金による収入 | 15,450,900 | 10,762,400 | 4,688,500 |
| 出資金による収入 | 22,954,000 | 0 | 22,954,000 |
| 未収金の増減額(は増加) | 34,514,500 | 22,361,600 | 12,152,900 |
| 未払金の増減額(は減少) | 3,027,100 | 2,573,722 | 5,600,822 |
| 前払金の増減額(は増加) | 61,460,000 | 81,670,000 | 143,130,000 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 744,024,549 | 743,168,647 | 855,902 |
| 3. 財務活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入 | 5,600,000 | 5,300,000 | 300,000 |
| 建設改良費等の財源に充てるための企業債償還による支出 | 160,128,538 | 113,004,864 | 47,123,674 |
| その他の企業債償還による支出 | 2,828,000 | 0 | 2,828,000 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 157,356,538 | 107,704,864 | 49,651,674 |
| 資金増加額 | 238,544,812 | 268,278,274 | 29,733,462 |
| 資金期首残高 | 4,790,104,197 | 5,053,453,956 | 263,349,759 |
| 資金期末残高 | 4,551,559,385 | 4,785,175,682 | 233,616,297 |

資金は貸借対照表の資産のうち、現金・預金と一致する。

令和元年度資金期末残高と2年度資金期首残高の差異4,928,151円は、元年度小高簡易水道(北部・西部)特別会計からの繰越金で、2年度に引き継がれたことによるものである。

2年度末における資金（預金・現金）の残高は、4,551,559,385円で、年度期間中に238,544,812円減（元年度268,278,274円減）となっている。これは、当年度純利益や減価償却費等の内部留保資金など業務活動によるもので662,836,275円増加する一方、有形固定資産の取得や未収金の増加など投資活動によるもので744,024,549円、企業債償還など財務活動によるもので157,356,538円減少したことによるものである。

5 経営分析

企業の財政状態及び経営成績に対する判断の方法として経営分析があるが、これを付表5に示したので参照されたい。その概要については、次のとおりである。

（1）構成比率

自己資本構成比率は、総資本に対する自己資本の割合である。企業経営上は、この比率が高い方が良いとされ、当年度は89.39%（元年度90.55%）で1.16ポイント下回っているのは、負債が増加したことなどによるものである。

（2）財務比率

短期的支払能力を判定する流動比率1,287.45%（元年度1,456.19%）は、200%以上が理想比率とされ、また、当座資産と流動負債の対比から支払能力を判定する酸性試験比率1,271.95%（元年度1,422.16%）は、通常100%以上であることを理想としているが、これらの比率はいずれも高い数値となっている。

（3）回転率

未収金回転率19.05回転（元年度18.01回転）が1.04ポイント上回っているのは、営業収益が増加したことによるものである。

（4）収益率

総収益対総費用比率136.26%（元年度138.18%）が1.92ポイント下回っているのは、総費用が増加したことによるものである。

経営資本営業利益率は、本来の営業活動に投下されている経営資本と、本来の営業活動から生み出される営業利益の比率であり、この比率は高い方が良いとされ、当年度は1.10%（元年度1.55%）で0.45ポイント下回っているのは、固定資産が増加したことなどによるものである。

6 むすび

令和2年度より南相馬市水道事業会計は、簡易水道事業を公営企業化し統合した。新たな水道事業における決算の概要は、以上の記述のとおりである。

業務実績をみると、給水戸数は17,947戸で、元年度と比較して805戸(4.7%)増加し、給水人口は40,418人で、元年度と比較して1,030人(2.6%)増加している。また、給水量は5,375,063m³で元年度と比較して359,987m³(7.2%)増加している。有収水量は4,547,560m³で元年度と比較して156,216m³(3.6%)増加しており、給水量に占める有収水量の割合を示す有収率は84.6%となり、元年度の87.6%と比較して3.0ポイント減少している。

また、経営成績をみると、総収益は1,276,182,039円となり、元年度と比較して133,381,927円(11.7%)の増加となった。この主な要因は、営業収益の給水収益28,106,824円(2.9%)

が増加し、営業外収益の長期前受金戻入 36,645,627 円（48.0%）が増加し、また、特別利益のその他特別利益（原子力損害賠償金）51,859,337 円（3,290.3%）が増加したことなどによるものである。

総費用は 936,591,138 円となり、元年度と比較して 109,531,563 円（13.2%）の増加となった。この主な要因は、営業費用の原水及び浄水費 23,383,2579 円（20.8%）が増加し、減価償却費 77,941,716 円（20.0%）が増加したことなどによるものであり、その結果、収支差引 339,590,901 円の当年度純利益が生じた。

水道事業の経営成績は、水道料金収入で元年度を上回り、継続的に純利益を計上しており経営はおおむね良好と認められる。

令和 2 年度は、原町水道事業において、大谷浄水場電気計装設備更新工事、経年管更新事業や配水管敷設事業等を実施し、小高水道事業においては、経年管更新事業や配水管敷設事業等を実施した。

南相馬市水道事業は、人口減少社会の到来に伴う料金収入の減少や老朽化した施設の更新需要の増大、新型コロナウイルス感染拡大に伴う影響などにより、今後水道事業を取り巻く環境は相当厳しいものとなると想定される。

しかしながら、水道は市民生活や経済活動において不可欠なライフラインである。水道事業の使命である将来にわたり安全な水を安定して供給し続けるため、令和 3 年 2 月策定の「南相馬市水道ビジョン」に基づき、計画的かつ効率的財政運営や事業経営に努められたい。

水道事業会計付表

付 表 1

業 務 実 績 表

| 項目 | 年度等 単 位 | 2 | 元 | 30 | 前年度 対 比 | す う 勢 比 率 | | 備 考 |
|------------------------------------|----------------|-----------|-----------|-----------|------------|-----------|-------|----------------------------|
| | | | | | | 2 | 元 | |
| 原町・小高区人口 | 人 | 48,431 | 49,051 | 49,659 | 98.7 | 97.5 | 98.8 | 年度末現在 |
| 計画給水人口 | 人 | 53,000 | 56,500 | 56,500 | 93.8 | 93.8 | 100.0 | |
| 現在給水人口 | 人 | 40,418 | 39,388 | 39,393 | 102.6 | 102.6 | 100.0 | 年度末現在 |
| 給水普及率 | % | 83.5 | 80.3 | 79.3 | 103.9 | 105.2 | 101.2 | 年度末現在 |
| 給水戸数 | 戸 | 17,947 | 17,142 | 16,879 | 104.7 | 106.3 | 101.6 | 年度末現在 |
| 水源取水量 | m ³ | 5,585,707 | 5,218,608 | 5,151,327 | 107.0 | 108.4 | 101.3 | 年間総量 |
| ろ過水量 | m ³ | 2,992,751 | 2,844,691 | 2,631,513 | 105.2 | 113.7 | 108.1 | 年間総量 |
| 給水量 | m ³ | 5,375,063 | 5,015,076 | 4,980,156 | 107.2 | 107.9 | 100.7 | 年間総量 |
| 有収水量 | m ³ | 4,547,560 | 4,391,344 | 4,310,933 | 103.6 | 105.5 | 101.9 | 年間総量 |
| 有収率 | % | 84.6 | 87.6 | 86.6 | 96.6 | 97.7 | 101.2 | |
| 導・送水管延長 | m | 19,441 | 17,716 | 17,716 | 109.7 | 109.7 | 100.0 | 年度末現在 |
| 配水管延長 | m | 432,440 | 431,832 | 430,935 | 100.1 | 100.3 | 100.2 | 年度末現在 |
| 1 m ³ 当たり総収益 | 円 | 268.88 | 257.72 | 273.29 | 104.3 | 98.4 | 94.3 | (注1) / 有収水量 |
| 1 m ³ 当たり総費用 | 円 | 205.95 | 188.34 | 193.23 | 109.4 | 106.6 | 97.5 | 総費用 / 有収水量 |
| 1 m ³ 当たり給水収益 (供給単価) | 円 | 217.00 | 218.31 | 224.62 | 99.4 | 96.6 | 97.2 | 給水収益 / 有収水量 |
| 1 m ³ 当たり給水原価 | 円 | 181.05 | 170.86 | 174.66 | 106.0 | 103.7 | 97.8 | (注2) -長期 前受金戻入 /有収水量 |

給水普及率 = 現在給水人口 ÷ 原町区・小高区人口 × 100

すう勢比率は、平成30年度を100とした数値である。

(注1) 総収益 - 受託工事収益

(注2) 経常費用 - 受託工事費

損 益 計 算 年 度 比 較 表

(単位：円 %)

| 科目 | 年度等 | | 30 | 前 年 度 対 比 | す う 勢 比 率 | |
|-------------|---------------|---------------|---------------|--------------|-----------|-------|
| | 2 | 元 | | | 2 | 元 |
| 営 業 収 益 | 1,072,680,600 | 1,021,029,005 | 1,050,142,084 | 105.1 | 102.1 | 97.2 |
| 営 業 外 収 益 | 150,065,992 | 110,720,274 | 127,983,216 | 135.5 | 117.3 | 86.5 |
| 特 別 利 益 | 53,435,447 | 11,050,833 | 25,738,166 | 483.5 | 207.6 | 42.9 |
| 総 収 益 | 1,276,182,039 | 1,142,800,112 | 1,203,863,466 | 111.7 | 106.0 | 94.9 |
| 営 業 費 用 | 900,732,949 | 800,027,058 | 803,287,109 | 112.6 | 112.1 | 99.6 |
| 営 業 外 費 用 | 35,686,678 | 26,694,171 | 29,428,538 | 133.7 | 121.3 | 90.7 |
| 特 別 損 失 | 171,511 | 338,346 | 294,710 | 50.7 | 58.2 | 114.8 |
| 総 費 用 | 936,591,138 | 827,059,575 | 833,010,357 | 113.2 | 112.4 | 99.3 |
| 当 年 度 純 損 益 | 339,590,901 | 315,740,537 | 370,853,109 | 107.6 | 91.6 | 85.1 |

すう勢比率は、平成30年度を100とした数値である。

比較損益計算書

(単位：円 %))

| 科目 | 年度等 | 2 | | 元 | | 比較増減 (A) - (B) | 前年度 対比 |
|-------------------|---------------|---------------|-------------|---------------|------------|-------------------|-----------|
| | | 金額(A) | 構成比 | 金額(A) | 構成比 | | |
| 営業 収 益 | 給水収益 | 986,802,072 | 92.0 | 958,695,248 | 89.4 | 28,106,824 | 102.9 |
| | 受託業務収益 | 17,908,428 | 1.7 | 16,535,657 | 1.5 | 1,372,771 | 108.3 |
| | 他会計負担金 | 66,804,400 | 6.2 | 44,651,600 | 4.2 | 22,152,800 | 149.6 |
| | 国庫補助金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | その他の営業収益 | 1,165,700 | 0.1 | 1,146,500 | 0.1 | 19,200 | 101.7 |
| | 国庫委託金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | 合計 | 1,072,680,600 | 100.0 | 1,021,029,005 | 95.2 | 51,651,595 | 105.1 |
| 営業 費 用 | 原水及び浄水費 | 135,651,913 | 15.1 | 112,268,656 | 12.5 | 23,383,257 | 120.8 |
| | 配水及び給水費 | 95,351,315 | 10.6 | 102,856,863 | 11.4 | 7,505,548 | 92.7 |
| | 業務費 | 47,589,770 | 5.2 | 60,958,973 | 6.8 | 13,369,203 | 78.1 |
| | 総係費 | 130,530,994 | 14.5 | 122,227,648 | 13.6 | 8,303,346 | 106.8 |
| | 減価償却費 | 467,249,493 | 51.9 | 389,307,777 | 43.2 | 77,941,716 | 120.0 |
| | 資産減耗費 | 24,359,464 | 2.7 | 12,407,141 | 1.5 | 11,952,323 | 196.3 |
| | 合計 | 900,732,949 | 100.0 | 800,027,058 | 89.0 | 100,705,891 | 112.6 |
| 営業損益 | 171,947,651 | - | 221,001,947 | - | 49,054,296 | 77.8 | |
| 営業 外 収 益 | 受取利息及び配当金 | 868,142 | 0.6 | 775,645 | 0.5 | 92,497 | 111.9 |
| | 加入金 | 29,604,000 | 19.8 | 28,903,000 | 19.3 | 701,000 | 102.4 |
| | 他会計補助金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | 長期前受金戻入 | 113,067,419 | 75.3 | 76,421,792 | 50.9 | 36,645,627 | 148.0 |
| | 雑収益 | 6,526,431 | 4.3 | 4,619,837 | 3.1 | 1,906,594 | 141.3 |
| | 消費税及び地方消費税還付金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | 合計 | 150,065,992 | 100.0 | 110,720,274 | 73.8 | 39,345,718 | 135.5 |
| 営業 外 費 用 | 支払利息及び企業債取扱諸費 | 29,544,814 | 82.8 | 22,666,466 | 63.5 | 6,878,348 | 130.3 |
| | 繰延勘定償却 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | 雑支出 | 1,870,164 | 5.2 | 4,027,705 | 11.3 | 2,157,541 | 46.4 |
| | 消費税及び地方消費税 | 4,271,700 | 12.0 | 0 | 0.0 | 4,271,700 | 皆増 |
| | 合計 | 35,686,678 | 100.0 | 26,694,171 | 74.8 | 8,992,507 | 133.7 |
| 経常損益 | 286,326,965 | - | 305,028,050 | - | 18,701,085 | 93.9 | |
| 特別利益 | 53,435,447 | - | 11,050,833 | - | 42,384,614 | 483.5 | |
| 特別損失 | 171,511 | - | 338,346 | - | 166,835 | 50.7 | |
| 当年度純損益 | 339,590,901 | - | 315,740,537 | - | 23,850,364 | 107.6 | |

比較貸借対照表

(単位：円 %))

| 科目 | 年度等 | 2 | | 元 | | 比較増減 (A) - (B) | 前年度 対比 | |
|---------|----------------|----------------|----------------|---------------|---------------|-------------------|---------------|-------|
| | | 金額(A) | 構成比 | 金額(A) | 構成比 | | | |
| 資産 | 固定資産 | 土地 | 246,241,549 | 1.5 | 229,400,667 | 1.6 | 16,840,882 | 107.3 |
| | | 建物 | 144,713,004 | 0.9 | 129,366,776 | 0.9 | 15,346,228 | 111.9 |
| | | 構築物 | 9,011,234,188 | 56.4 | 7,863,009,840 | 54.4 | 1,148,224,348 | 114.6 |
| | | 機械及び装置 | 1,351,247,568 | 8.5 | 911,459,121 | 6.3 | 439,788,447 | 148.3 |
| | | 車両運搬具 | 25,337,112 | 0.2 | 5,791,242 | 0.0 | 19,545,870 | 437.5 |
| | | 工具、器具及び備品 | 19,153,627 | 0.1 | 13,565,233 | 0.1 | 5,588,394 | 141.2 |
| | | リース資産 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | 建設仮勘定 | 380,679,550 | 2.4 | 231,527,050 | 1.6 | 149,152,500 | 164.4 |
| | | 計 | 11,178,606,598 | 70.0 | 9,384,119,929 | 64.9 | 1,794,486,669 | 119.1 |
| | 無形固定資産 | 1,001,600 | 0.0 | 1,001,600 | 0.0 | 0 | 100.0 | |
| | 固定資産計 | 11,179,608,198 | 70.0 | 9,385,121,529 | 64.9 | 1,794,486,669 | 119.1 | |
| | 流動資産 | 現金・預金 | 4,551,559,385 | 28.4 | 4,785,175,682 | 33.1 | 233,616,297 | 95.1 |
| | | 未収金 | 191,810,082 | 1.2 | 170,237,740 | 1.2 | 21,572,342 | 112.7 |
| 貯蔵品 | | 13,300,688 | 0.1 | 13,007,670 | 0.1 | 293,018 | 102.3 | |
| 前払費用 | | 1,369,803 | 0.0 | 1,174,609 | 0.0 | 195,194 | 116.6 | |
| 前払金 | | 42,240,000 | 0.3 | 103,700,000 | 0.7 | 61,460,000 | 40.7 | |
| 未収収益 | | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - | |
| その他流動資産 | | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - | |
| 流動資産計 | | 4,800,279,958 | 30.0 | 5,073,295,701 | 35.1 | 273,015,743 | 94.6 | |
| 繰延勘定 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - | | |
| 資産合計 | 15,979,888,156 | 100.0 | 14,458,417,230 | 100.0 | 1,521,470,926 | 110.5 | | |

| 科目 | | 年度等 | 2 | | 元 | | 比較増減 | 前年度 |
|---------|---------|----------------|---------------|----------------|---------------|---------------|-------------|-------|
| | | | 金額(A) | 構成比 | 金額(B) | 構成比 | (A)-(B) | 対比 |
| 負債 | 固定負債 | 企業債 | 1,109,792,680 | 6.9 | 788,238,812 | 5.5 | 321,553,868 | 140.8 |
| | | 他会計借入金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | リース債務 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | 引当金 | 212,132,405 | 1.3 | 229,117,313 | 1.6 | 16,984,908 | 92.6 |
| | | その他固定負債 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | 計 | 1,321,925,085 | 8.2 | 1,017,356,125 | 7.1 | 304,568,960 | 129.9 |
| | 流動負債 | 一時借入金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | 企業債 | 166,593,675 | 1.0 | 115,646,507 | 0.8 | 50,947,168 | 144.1 |
| | | 他会計借入金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | リース債務 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | 未払金 | 131,025,946 | 0.8 | 160,778,708 | 1.1 | 29,752,762 | 81.5 |
| | | 未払費用 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | 前受金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| 前受収益 | | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - | |
| 資本の部 | 引当金 | 8,865,000 | 0.1 | 8,725,000 | 0.1 | 140,000 | 101.6 | |
| | 預り金 | 66,366,125 | 0.4 | 63,246,088 | 0.4 | 3,120,037 | 104.9 | |
| | その他流動負債 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - | |
| | 計 | 372,850,746 | 2.3 | 348,396,303 | 2.4 | 24,454,443 | 107.0 | |
| | 繰延収益 | 2,869,600,016 | 18.0 | 2,067,850,405 | 14.3 | 801,749,611 | 138.8 | |
| 負債合計 | | 4,564,375,847 | 28.6 | 3,433,602,833 | 23.7 | 1,130,773,014 | 132.9 | |
| 資本 | | 7,050,591,128 | 44.1 | 6,947,467,416 | 48.1 | 103,123,712 | 101.5 | |
| 剰余金 | 資本剰余金 | 24,668,703 | 0.1 | 24,295,096 | 0.2 | 373,607 | 101.5 | |
| | 利益剰余金 | 4,340,252,478 | 27.2 | 4,053,051,885 | 28.0 | 287,200,593 | 107.1 | |
| | 計 | 4,364,921,181 | 27.3 | 4,077,346,981 | 28.2 | 287,574,200 | 107.1 | |
| 資本合計 | | 11,415,512,309 | 71.4 | 11,024,814,397 | 76.3 | 390,697,912 | 103.5 | |
| 負債・資本合計 | | 15,979,888,156 | 100.0 | 14,458,417,230 | 100.0 | 1,521,470,926 | 110.5 | |

經營分析比較表

(單位：%，回)

| 分析項目 | 算式 | 2 | 元 | 30 | |
|--------------|---|---|----------|----------|-------|
| 構成比率 | 1 固定資産構成比率 | $\frac{\text{固定資産}}{\text{總資産}} \times 100$ | 69.96 | 64.91 | 63.36 |
| | | (總資産 = 固定資産 + 流動資産 + 繰延勘定) | | | |
| | 2 固定負債構成比率 | $\frac{\text{固定負債}}{\text{總資本}} \times 100$ | 8.27 | 7.04 | 7.88 |
| | | (總資本 = 負債 + 資本) | | | |
| 3 自己資本構成比率 | $\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{繰延収益}}{\text{總資本}} \times 100$ | 89.39 | 90.55 | 89.54 | |
| | | | | | |
| 4 固定資産対長期資本比 | $\frac{\text{固定資産}}{\text{固定負債} + \text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}} \times 100$ | 71.63 | 66.51 | 65.04 | |
| | | | | | |
| 5 固定比率 | $\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{繰延収益}} \times 100$ | 78.26 | 71.68 | 70.77 | |
| | | | | | |
| 6 流動比率 | $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$ | 1,287.45 | 1,456.19 | 1,419.80 | |
| | | | | | |
| 7 酸性試験比率 | $\frac{\text{現金預金} + (\text{未収金} - \text{貸倒引当金})}{\text{流動負債}} \times 100$ | 1,271.95 | 1,422.16 | 1,409.81 | |
| | | | | | |
| 8 現金比率 | $\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$ | 1,220.75 | 1,373.49 | 1,375.53 | |
| | | | | | |
| 9 總資本回轉率 | $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{平均總資本}}$ | 0.07 | 0.07 | 0.07 | |
| | | | | | |
| 10 自己資本回轉率 | $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{平均自己資本}}$ | 0.10 | 0.09 | 0.10 | |
| | | | | | |
| 11 固定資産回轉率 | $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{平均固定資産}}$ | 0.10 | 0.11 | 0.12 | |
| | | | | | |
| 12 流動資産回轉率 | $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{平均流動資産}}$ | 0.22 | 0.20 | 0.20 | |
| | | | | | |
| 13 現金預金回轉率 | $\frac{\text{当年度支出額}}{\text{平均現金預金}}$ | 0.54 | 0.50 | 0.40 | |
| | | | | | |
| 14 未収金回轉率 | $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{平均営業未収金}}$ | 19.05 | 18.01 | 17.21 | |
| | | | | | |
| 15 貯蔵品回轉率 | $\frac{\text{期首貯} + \text{当年度購入額} + \text{当年度発生額} - \text{期末貯}}{\text{平均貯蔵品}}$ | 0.35 | 0.84 | 0.39 | |
| | | | | | |

| 説 | 明 |
|----|--|
| 1 | 資産総額に対する固定資産の百分率で、公営企業においては流動資産の額が小さいため、この率は必然的に大きくなる。 |
| 2 | 総資本に占める固定負債の百分率で、公営企業の場合は、設備投資を全面的に企業債に依存しているため、この率は大きくなる。 |
| 3 | 総資本に占める自己資本の割合を示すものであり、この比率が高いほど経営が安定している。 |
| 4 | 固定資産のうち、自己資本（自己資本金＋剰余金）と長期借入金（借入資本金＋固定負債）によって調達されている部分がどれだけあるかを示すのであり、一般に100%以下、かつ低いことが望ましい。 |
| 5 | 自己資本金に対する固定資産の百分率で、一般に100%以下が望ましいとされているが、公営企業のように設備投資を企業債に依存する企業では、この率は必然的に大きくなる。 |
| 6 | 流動比率は、1年以内に現金化できる資産と、1年以内に返済すべき負債とを比較するもので、短期支払能力を判定するために利用される。 |
| 7 | 流動資産のうち現金預金及び未収金などの当座資産と流動負債を対比させたもので、通常100%以上であれば良いとされている。 |
| 8 | 流動負債に対する現金預金の百分率で、当座の支払能力をみるために計算される。 |
| 9 | 総資本が1年間に何回転したかを表すもので、資本の利用度を表すものである。したがって、この率は、高いほうが良い。 |
| 10 | 資本金が1年間に何回転したかを表すもので、資本金の利用度を表すものである。 |
| 11 | 固定資産が1年間に何回転したかを表すもので、固定資産の利用度を表すものである。 |
| 12 | 流動資産が1年間に何回転したかを表すものである。 |
| 13 | 現金預金が1年間に何回転したかを表すものである。この率が大きくなることは、それだけ現金預金保有高が経営規模に比して小さいことを示す。 |
| 14 | 未収金が1年間に何回転したかを表すものである。 |
| 15 | 貯蔵品が1年間に何回転したかを表すものである。 |

（注）算式に用いた用語は次のとおりである。

・平均＝（期首＋期末）／2

| 分析項目 | | 算式 | 2 | 元 | 30 |
|------|----------------|---|--|--------------|--------------|
| 16 | 減価償却率 | 当年度減価償却費 | | | |
| | | $\frac{\text{期末償却資産} + \text{当年度減価償却費}}{\{\text{期末償却資産} = \text{固定資産} - (\text{土地} + \text{建設仮勘定})\}}$ | 0.04 | 0.04 | 0.04 |
| 収益率 | 17 総資本利益率 | $\frac{\text{当年度純利益}}{\text{平均総資本}} \times 100$ | 2.23 | 2.20 | 2.61 |
| | | 18 総収益対総費用比率 | $\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$ | 136.26 | 138.18 |
| | 19 営業収益対営業費用比率 | $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{営業費用} - \text{受託工事費用}} \times 100$ | 119.09 | 127.62 | 130.73 |
| | 20 経営資本営業利益率 | $\frac{\text{営業利益}}{\text{経営資本}} \times 100$ (経営資本 = 総資本 - (建設仮勘定 + 投資その他の資産 + 繰延勘定)) | 1.10 | 1.55 | 1.76 |
| その他 | 21 利子負担率 | $\frac{\text{支払利息} + \text{企業債取扱諸費}}{\text{企業債} + \text{長期借入金} + \text{一時借入金} + \text{リース債務}} \times 100$ | 2.31 | 2.51 | 2.49 |
| | | 22 職員一人当たり営業収益 | $\frac{\text{営業収益}}{\text{損益勘定所属職員数}}$ | 千円 71,512 | 千円 72,931 |

| 説 | 明 |
|----|--|
| 16 | 償却資産が1年間にどれだけ償却されているかを表すものである。 |
| 17 | 総資本の何%に当たる利益を上げたか、つまり企業の収益性を表すものである。損失が生じた場合は負数()となる。 |
| 18 | 総収益が総費用の何%に当たるかを表すものである。 |
| 19 | 営業収益が営業費用の何%に当たるかを表すものである。 |
| 20 | 経営資本営業利益率は、本来の営業活動に投下されている経営資本と、本来の営業活動から生み出される営業利益の比率であり、この比率は高い方が良い。 |
| 21 | 損益計算書が示す借入資本利子と、貸借対照表に示された借入資本金とを比較することにより、利子率を計算したものである。 |
| 22 | 職員一人当たりどの位の営業収益を上げたかを表すものである。 |

(注) 算式に用いた用語は次のとおりである。

・平均 = (期首+期末) / 2

病 院 事 業 会 計

1 業務の実績

令和2年度における総合病院の診療状況は、年間延数で入院患者50,336人、外来患者66,684人となり、予算に示す業務予定に対しては、入院患者696人(1.4%)の増、外来患者2,097人(3.0%)の減となっている。また、元年度と比較して、入院患者12,412人(19.8%)の減、外来患者14,075人(17.4%)の減となっている。一日平均では、入院患者が137.9人、外来患者が274.4人となっており、元年度と比較して、入院患者が33.5人の減、外来患者が62.1人の減となっている。なお、外来・入院患者比率は、132.5%と元年度(128.7%)と比較して3.8ポイント上回っている。

小高診療所の診療状況は、年間延数で外来患者4,103人となり、予算に示す業務予定に対しては215人(5.5%)の増となっている。また、元年度と比較して、1,009人(32.6%)の増となっている。一日平均では、16.9人となっており、元年度と比較して、2.8人の減となっている。なお、診療所は令和元年8月開所であることから、元年度分を小高病院と合算し比較すると、282人(6.4%)の減となり、一日平均では、1.8人の減となっている。

各科別患者数を元年度と比較すると次のようになっている。

| 区 分 | 年 間 延 人 数 | | | 前 年 度 対 比 | 一 日 平 均 | 利 用 割 合 | |
|-----|-----------|-----------|---------|--------------|---------|---------|-------|
| | 令 和 2 年 度 | 令 和 元 年 度 | 比 較 増 減 | | | | |
| 入 院 | 内 科 | 6,268 | 9,966 | 3,698 | 62.9 | 17.2 | 12.5 |
| | 脳 神 経 内 科 | 192 | 1,164 | 972 | 16.5 | 0.5 | 0.4 |
| | 循 環 器 内 科 | 14,802 | 14,408 | 394 | 102.7 | 40.6 | 29.4 |
| | 呼 吸 器 内 科 | 3,433 | 3,091 | 342 | 111.1 | 9.4 | 6.8 |
| | 消 化 器 内 科 | 3,149 | 2,690 | 459 | 117.1 | 8.6 | 6.3 |
| | 血 液 内 科 | 192 | 41 | 151 | 468.3 | 0.5 | 0.4 |
| | 小 児 科 | 269 | 234 | 35 | 115.0 | 0.7 | 0.5 |
| | 外 科 | 3,940 | 4,770 | 830 | 82.6 | 10.8 | 7.8 |
| | 整 形 外 科 | 716 | 7,202 | 6,486 | 9.9 | 2.0 | 1.4 |
| | 脳 神 経 外 科 | 13,928 | 15,964 | 2,036 | 87.2 | 38.2 | 27.7 |
| | 産 婦 人 科 | 3,447 | 3,218 | 229 | 107.1 | 9.4 | 6.8 |
| | 計 | 50,336 | 62,748 | 12,412 | 80.2 | 137.9 | 100.0 |

総合病院

(単位：人%)

| 区 | 分 | 年間延人数 | | | 前年度 対比 | 一日平均 | 利用割合 |
|-------|------------|--------|--------|--------|-----------|-------|-------|
| | | 令和2年度 | 令和元年度 | 比較増減 | | | |
| 外来 | 内科 | 7,420 | 6,676 | 744 | 111.1 | 30.5 | 11.1 |
| | 麻酔科 | 11 | 14 | 3 | 78.6 | 0.0 | 0.0 |
| | 脳神経内科 | 1,375 | 2,172 | 797 | 63.3 | 5.7 | 2.1 |
| | 循環器内科 | 12,941 | 14,323 | 1,382 | 90.4 | 53.3 | 19.4 |
| | 呼吸器内科 | 3,434 | 3,233 | 201 | 106.2 | 14.1 | 5.2 |
| | 消化器内科 | 5,276 | 5,074 | 202 | 104.0 | 21.7 | 7.9 |
| | 血液内科 | 1,302 | 1,209 | 93 | 107.7 | 5.4 | 2.0 |
| | 小児科 | 3,737 | 6,415 | 2,678 | 58.3 | 15.4 | 5.6 |
| | 小児外科 | 1 | 3 | 2 | 33.3 | 0.0 | 0.0 |
| | 外科 | 4,957 | 5,853 | 896 | 84.7 | 20.4 | 7.5 |
| | 心臓血管外科 | 623 | 750 | 127 | 83.1 | 2.6 | 0.9 |
| | 整形外科 | 6,353 | 9,664 | 3,311 | 65.7 | 26.1 | 9.5 |
| | 心療内科 | 17 | 88 | 71 | 19.3 | 0.1 | 0.0 |
| | 脳神経外科 | 5,148 | 5,903 | 755 | 87.2 | 21.2 | 7.7 |
| | 泌尿器科 | 2,474 | 2,538 | 64 | 97.5 | 10.2 | 3.7 |
| | 産婦人科 | 6,631 | 6,328 | 303 | 104.8 | 27.3 | 9.9 |
| | 眼科 | 4 | 5 | 1 | 80.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 皮膚科 | 1,355 | 3,556 | 2,201 | 38.1 | 5.6 | 2.0 |
| | 耳鼻咽喉科 | 1,314 | 1,566 | 252 | 83.9 | 5.4 | 2.0 |
| | リハビリテーション科 | 789 | 3,676 | 2,887 | 21.5 | 3.2 | 1.2 |
| リウマチ科 | 1,522 | 1,709 | 187 | 89.1 | 6.3 | 2.3 | |
| 在宅診療科 | 0 | 4 | 4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | |
| | 計 | 66,684 | 80,759 | 14,075 | 82.6 | 274.4 | 100.0 |

小高診療所

(単位：人%)

| 区 | 分 | 年間延人数 | | | 前年度 対比 | 一日平均 | 利用割合 |
|----|----|-------|-------|-------|-----------|------|-------|
| | | 令和2年度 | 令和元年度 | 比較増減 | | | |
| 外来 | 内科 | 4,103 | 3,094 | 1,009 | 132.6 | 16.9 | 100.0 |
| | 外科 | 0 | 0 | 0 | - | 0.0 | 0.0 |
| | 計 | 4,103 | 3,094 | 1,009 | 132.6 | 16.9 | 100.0 |

元年度分については、令和元年8月1日開所のため8か月分である。

2 予算の執行状況

(1) 収益的収入及び支出

《収益的収入》

(単位：円 %)

| 区 分 科 目 | 予 算 現 額 | 決 算 額 | 差 引 増 減 | 執行率 | 構 成 比 率 |
|------------|---------------|---------------|-------------|-------|------------|
| 総合病院事業収益 | 4,595,641,000 | 4,831,822,940 | 236,181,940 | 105.1 | 98.2 |
| 医 業 収 益 | 3,187,470,000 | 3,269,950,548 | 82,480,548 | 102.6 | 66.5 |
| 医 業 外 収 益 | 1,327,369,000 | 1,481,033,120 | 153,664,120 | 111.6 | 30.1 |
| 特 別 利 益 | 80,802,000 | 80,839,272 | 37,272 | 100.0 | 1.6 |
| 小高診療所事業収益 | 101,624,000 | 88,646,801 | 12,977,199 | 87.2 | 1.8 |
| 医 業 収 益 | 19,636,000 | 21,795,858 | 2,159,858 | 111.0 | 0.4 |
| 医 業 外 収 益 | 79,033,000 | 63,895,624 | 15,137,376 | 80.8 | 1.3 |
| 特 別 利 益 | 2,955,000 | 2,955,319 | 319 | 100.0 | 0.1 |
| 収益的収入合計 | 4,697,265,000 | 4,920,469,741 | 223,204,741 | 104.8 | 100.0 |

決算額には、仮受消費税及び地方消費税27,865,851円を含む。

《収益的支出》

(単位：円 %)

| 区 分 科 目 | 予 算 現 額 | 決 算 額 | 不 用 額 | 執行率 | 構 成 比 率 |
|------------|---------------|---------------|-------------|------|------------|
| 総合病院事業費用 | 5,038,442,000 | 4,839,129,061 | 199,312,939 | 96.0 | 97.6 |
| 医 業 費 用 | 4,731,447,000 | 4,572,820,409 | 158,626,591 | 96.6 | 92.2 |
| 医 業 外 費 用 | 196,194,000 | 184,235,577 | 11,958,423 | 93.9 | 3.7 |
| 特 別 損 失 | 82,283,000 | 82,073,075 | 209,925 | 99.7 | 1.7 |
| 予 備 費 | 28,518,000 | 0 | 28,518,000 | 0.0 | 0.0 |
| 小高診療所事業費用 | 140,536,000 | 118,230,062 | 22,305,938 | 84.1 | 2.4 |
| 医 業 費 用 | 104,023,000 | 97,673,476 | 6,349,524 | 93.9 | 2.0 |
| 医 業 外 費 用 | 25,819,000 | 19,861,361 | 5,957,639 | 76.9 | 0.4 |
| 特 別 損 失 | 696,000 | 695,225 | 775 | 99.9 | 0.0 |
| 予 備 費 | 9,998,000 | 0 | 9,998,000 | 0.0 | 0.0 |
| 収益的支出合計 | 5,178,978,000 | 4,957,359,123 | 221,618,877 | 95.7 | 100.0 |

決算額には、仮払消費税及び地方消費税111,375,604円を含む。

収益的収入の決算額は、4,920,469,741円で予算現額4,697,265,000円に対して223,204,741円(4.8%)の収入増となっており、その主な要因は、総合病院の医業収益のうち、入院収益54,865,702円、外来収益17,369,025円が増となったことなどによるものである。

収益的支出の決算額は、4,957,359,123円で予算現額5,178,978,000円に対して95.7%の執行率で、不用額は221,618,877円となっている。なお、不用額の主なものは、総合病院の医業費用のうち給与費53,388,784円、経費82,541,675円などである。

(2) 資本的収入及び支出

《資本的収入》

(単位：円 %)

| 区 分 科 目 | 予 算 現 額 | 決 算 額 | 差 引 増 減 | 執行率 | 構 成 比 率 |
|------------|-------------|-------------|-------------|-------|------------|
| 総合病院資本的収入 | 407,660,000 | 407,405,000 | 255,000 | 99.9 | 75.3 |
| 企業債 | 79,900,000 | 79,700,000 | 200,000 | 99.7 | 14.7 |
| 出資金 | 284,089,000 | 284,089,000 | 0 | 100.0 | 52.5 |
| 補助金 | 43,671,000 | 43,616,000 | 55,000 | 99.9 | 8.1 |
| 小高診療所資本的収入 | 269,734,000 | 133,882,000 | 135,852,000 | 49.6 | 24.7 |
| 企業債 | 259,200,000 | 121,200,000 | 138,000,000 | 46.8 | 22.4 |
| 出資金 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 100.0 | 0.2 |
| 補助金 | 9,504,000 | 11,652,000 | 2,148,000 | 122.6 | 2.1 |
| 固定資産売却代金 | 30,000 | 30,000 | 0 | 100.0 | 0.0 |
| 資本的収入合計 | 677,394,000 | 541,287,000 | 136,107,000 | 79.9 | 100.0 |

決算額には、仮受消費税及び地方消費税2,727円を含む。

《資本的支出》

(単位：円 %)

| 区 分 科 目 | 予 算 現 額 | 決 算 額 | 翌年度繰越額 | 不 用 額 | 執行率 | 構 成 比 率 |
|------------|-------------|-------------|------------|------------|-------|------------|
| 総合病院資本的支出 | 605,673,000 | 605,406,421 | 0 | 266,579 | 100.0 | 68.7 |
| 建設改良費 | 123,683,000 | 123,418,350 | 0 | 264,650 | 99.8 | 14.0 |
| 企業債償還金 | 473,528,000 | 473,527,001 | 0 | 999 | 100.0 | 53.7 |
| 長期貸付金 | 8,460,000 | 8,460,000 | 0 | 0 | 100.0 | 1.0 |
| 基金造成費 | 2,000 | 1,070 | 0 | 930 | 53.5 | 0.0 |
| 小高診療所資本的支出 | 325,631,000 | 275,288,500 | 31,900,000 | 18,442,500 | 84.5 | 31.3 |
| 建設改良費 | 324,131,000 | 273,788,500 | 31,900,000 | 18,442,500 | 84.5 | 31.1 |
| 企業債償還金 | 1,500,000 | 1,500,000 | 0 | 0 | 100.0 | 0.2 |
| 資本的支出合計 | 931,304,000 | 880,694,921 | 31,900,000 | 18,709,079 | 94.6 | 100.0 |

決算額には、仮払消費税及び地方消費税32,596,595円を含む。

資本的収入の決算額は、541,287,000円で予算現額677,394,000円に対して136,107,000円(20.1%)の収入減となっており、その主な要因は、小高診療所の企業債138,000,000円が減となったことなどによるものである。

資本的支出の決算額は、880,694,921円で予算現額931,304,000円に対して94.6%の執行率で、翌年度繰越額31,900,000円を差し引いた不用額は18,709,079円となっている。不用額の主なものは、小高診療所の建設改良費のうち、建物建設費18,441,800円などである。

なお、資本的収入額が資本的支出額に不足する額339,407,921円は、2年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額2,747,737円、過年度分損益勘定留保資金336,660,184円で補てんされている。

その他

予算第5条には、債務負担行為をすることができる事項、期間及び限度額が定められているが、予算に定められた事項、期間及び限度額の範囲で行われている。

| 事 項 | 期 間 | 限度額 |
|----------------------|--------------------|-------------|
| 令和2年度医師修学資金貸付金 | 令和3年度から 令和7年度まで | 14,100,000円 |
| 令和2年度専門医研修資金貸付金 | 令和3年度から 令和6年度まで | 10,560,000円 |
| 令和2年度医師修学資金（臨時特例）貸付金 | 令和3年度から 令和7年度まで | 28,800,000円 |
| 医療材料等定数管理業務委託 | 令和3年度から 令和5年度まで | 21,226,000円 |
| 検体検査業務委託 | 令和3年度から 令和7年度まで | 受託業者との契約額 |
| 院内保育所管理運営業務委託 | 令和3年度から 令和5年度まで | 受託業者との契約額 |

予算第6条には、企業債の借入目的、限度額等が定められており、2年度の借入額は、200,900,000円であった。

企業債の借入状況

| 起債の目的 | 限度額 | 借入額 |
|----------------------------|--------------|-------------|
| 総合病院 病院事業債 （建物附属設備更新事業） | 32,700,000円 | 32,700,000円 |
| 総合病院 病院事業債 （医療機器整備事業） | 47,200,000円 | 47,000,000円 |
| 小高診療所 病院事業債 （土地購入） | 38,500,000円 | 38,500,000円 |
| 小高診療所 病院事業債 （建物建設事業） | 220,700,000円 | 82,700,000円 |

2年度末の企業債の概況は、次表のとおりである。

企業債の概況

（単位：円）

| 区 分 | | 元年度末残高 | 2年度借入高 | 2年度償還高 | 2年度末残高 |
|------|-------|---------------|-------------|-------------|---------------|
| 企業債 | 総合病院 | 3,252,810,462 | 79,700,000 | 473,527,001 | 2,858,983,461 |
| | 小高診療所 | 3,000,000 | 0 | 1,500,000 | 1,500,000 |
| | 合計 | 3,255,810,462 | 79,700,000 | 475,027,001 | 2,860,483,461 |
| 起債前借 | 総合病院 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 小高診療所 | 0 | 121,200,000 | 0 | 121,200,000 |
| | 合計 | 0 | 121,200,000 | | 121,200,000 |

予算第7条には、一時借入金の限度額が400,000,000円と定められており、本年度中の借入は行われなかった。なお、起債前借121,200,000円は、企業債の前借によるもので、実質的には企業債であるため、予算第7条の一時借入金の限度額の制約は受けない。

予算第8条には、流用を制限された職員給与費が2,598,592,000円と定められており、その支出額は2,543,920,127円となっている。また、交際費については予算965,000円に対して、その支出額は521,103円となっている。

予算第9条には、一般会計からの補助を受ける金額が35,794,000円と定められているが、その補助金額は32,584,000円となっている。

予算第10条には、たな卸資産の購入限度額が487,896,000円と定められており、その購入実績は451,184,445円となっている。

3 経営成績

(1) 経営の概要

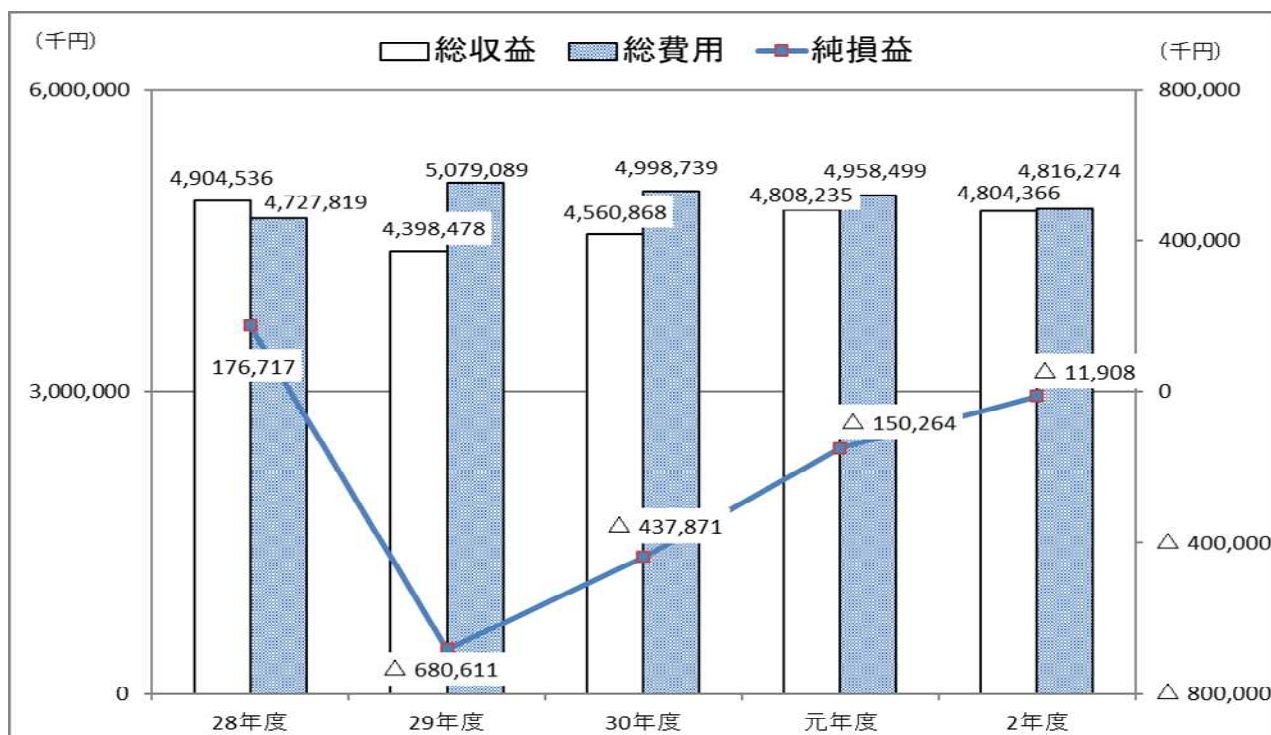
2年度の経営成績は、総合病院で総収益4,804,366,191円に対して総費用4,816,274,439円で差し引き11,908,248円の純損失が生じている。小高診療所では、総収益88,237,699円に対して総費用118,453,173円で差し引き30,215,474円の純損失が生じている。

これを元年度と比較すると付表2及び3のとおりである。総合病院では、総収益で3,868,370円(0.1%)減少し、総費用で142,225,043円(2.9%)減少した。小高診療所では、総収益で14,038,552円(13.7%)減少し、総費用で227,373,948円(65.7%)減少した。

これにより、令和2年度末の総合病院未処理欠損金は1,320,848,292円、小高診療所未処分利益剰余金は728,221,515円、病院事業会計として、当年度末処理欠損金592,626,777円となっている。

- 総合病院 -

- ・ 医業収支比率 $\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100 = 72.6\%$ (前年度 82.0%)
- ・ 総収支比率 $\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100 = 99.8\%$ (前年度 97.0%)



- 小高診療所 -

・ 医業収支比率 $\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100 = 22.2\%$ (前年度 22.6%)

・ 総収支比率 $\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100 = 74.5\%$ (前年度 95.3%)

(2) 収益について

医業収益

総合病院医業収益の総額は、3,245,418,917円で元年度と比較して618,797,812円(16.0%)の減となり、総収益に占める割合は、67.6%(元年度80.4%)となっている。これは、入院収益478,256,875円(18.7%)、外来収益123,544,622円(12.1%)が減少したことなどによるものである。

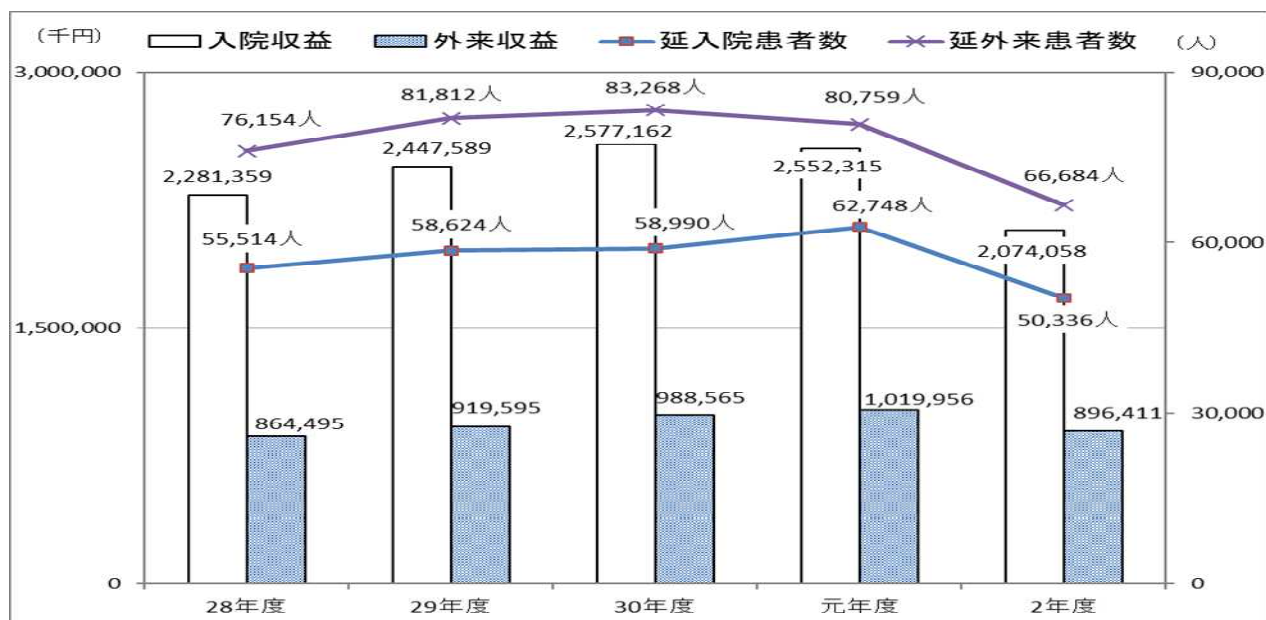
小高診療所医業収益の総額は、21,417,488円で元年度と比較して5,109,100円(31.3%)の増となり、総収益に占める割合は、24.3%(元年度15.9%)となっている。これは、外来収益4,210,210円(31.4%)、その他医業収益898,890円(31.0%)が増加したことによるものである。なお、元年度分を小高病院と合算し比較すると、医業収益の総額では1,024,374円(4.6%)、外来収益1,266,666円(6.7%)の減、その他医業収益で242,292円(6.8%)の増となる。

なお、患者一人一日当たりの診療収入等については、次のとおりである。

総合病院

(単位：円 人 %)

| 区分 | 年度等 | 令和2年度 | | 令和元年度 | | 比較増減 | 前年度対比 |
|---------------|-----|---------------|-------|---------------|-------|-------------|-------|
| | | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | | |
| 入院収益 | | 2,074,058,238 | 69.8 | 2,552,315,113 | 71.4 | 478,256,875 | 81.3 |
| 外来収益 | | 896,411,473 | 30.2 | 1,019,956,095 | 28.6 | 123,544,622 | 87.9 |
| 計 | | 2,970,469,711 | 100.0 | 3,572,271,208 | 100.0 | 601,801,497 | 83.2 |
| 延入院患者数 | | 50,336 | 43.0 | 62,748 | 43.7 | 12,412 | 80.2 |
| 延外来患者数 | | 66,684 | 57.0 | 80,759 | 56.3 | 14,075 | 82.6 |
| 計 | | 117,020 | 100.0 | 143,507 | 100.0 | 26,487 | 81.5 |
| 患者一人一日当たり診療収入 | 入院 | 41,204 | - | 40,676 | - | 528 | 101.3 |
| | 外来 | 13,443 | - | 12,630 | - | 813 | 106.4 |



小高診療所

(単位：円 人 %)

| 区分 | 令和2年度 | | 令和元年度 | | 比較増減 | 前年度対比 |
|---------------|------------|-------|------------|-------|-----------|-------|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | | |
| 外来収益 | 17,616,014 | 100.0 | 13,405,804 | 100.0 | 4,210,210 | 131.4 |
| 計 | 17,616,014 | 100.0 | 13,405,804 | 100.0 | 4,210,210 | - |
| 延外来患者数 | 4,103 | 100.0 | 3,094 | 100.0 | 1,009 | 132.6 |
| 計 | 4,103 | 100.0 | 3,094 | 100.0 | 1,009 | - |
| 患者一人一日当たり診療収入 | 4,293 | - | 4,333 | - | 40 | 99.1 |

元年度分については、令和元年8月1日開所のため8か月分である。

医業外収益

総合病院医業外収益の総額は、1,478,109,134円で元年度と比較して553,270,475円(59.8%)増となり、総収益に占める割合は、30.8%(元年度19.2%)となっている。これは、補助金584,003,280円(314.4%)が増加したことなどによるものである。

小高診療所医業外収益の総額は、63,864,892円で元年度と比較して22,102,971円(25.7%)減となり、総収益に占める割合は、72.4%(元年度84.1%)となっている。これは、長期前受金戻入28,666,941円(91.9%)が減少したことなどによるものである。

特別利益

総合病院特別利益の総額は、80,838,140円で元年度と比較して61,658,967円(321.5%)の増となり、総収益に占める割合は、1.7%(元年度0.4%)となっている。

小高診療所の特別利益の総額は2,955,319円で元年度と比較して皆増となり、総収益に占める割合は、3.3%となっている。

医業費用

総合病院医業費用の総額は、4,467,619,189円で元年度と比較して245,307,149円(5.2%)の減となり、総費用に占める割合は、92.8%(元年度95.0%)となっている。これは、給与費58,569,580円(2.3%)、材料費157,798,742円(19.8%)、減価償却費19,103,156円(4.3%)が減少したことなどによるものである。

小高診療所医業費用の総額は、96,316,994円で元年度と比較して247,087,927円(72.0%)の減となり、総費用に占める割合は、81.3%(元年度99.3%)となっている。これは、令和元年度に小高病院に係る特別損失の固定資産除却損として計理すべきであったものを、小高診療所分で計理したため資産減耗費(固定資産除却分)264,172,002円が減少したことになったものである。

医業外費用

総合病院医業外費用の総額は、266,584,011円で元年度と比較して49,815,884円(23.0%)の増となり、総費用に占める割合は、5.5%(元年度4.4%)となっている。これは、支払利息及び企業債取扱諸費10,225,053円(19.5%)が減少したものの、院内保育施設費54,312,985円(皆増)が増加したことなどによるものである。

小高診療所医業外費用の総額は、21,440,954円で元年度と比較して19,018,754円(785.2%)の増となり、総費用に占める割合は、18.1%(元年度0.7%)となっている。これは、雑損失19,010,930円(791.3%)が増加したことなどによるものである。

特別損失

総合病院特別損失の総額は、82,071,239円で元年度と比較して53,266,222円(184.9%)の増となっている。

小高診療所特別損失の総額は695,225円(皆増)の増となっている。

診療報酬未収金(個人分)についての不納欠損額は、総合病院45件1,584,512円、小高診療所処分なし。

4 財政状態 (総合病院・診療所合計)

2年度における資産・負債及び資本の変動状況は、付表4に示すとおりである。資産の総額と負債及び資本の合計は10,429,479,087円で元年度と比較して9,830,654円(0.1%)の増となっている。

(1) 資産

固定資産

固定資産は、7,779,659,621円で元年度と比較して76,855,659円(1.0%)の減となり、資産総額に占める割合は、74.6%(元年度75.4%)となっている。これは、建設仮勘定で196,176,455円(皆増)が増加したものの、減価償却などにより、建物147,756,451円(2.4%)、器機備品175,271,911円(19.1%)が減少したことなどによるものである。

流動資産

流動資産は、2,649,819,466円で元年度と比較して86,686,313円(3.4%)の増となり、資産総額に占める割合は、25.4%(元年度24.6%)となっている。現金預金29,912,253円(2.1%)、未収金58,715,482円(5.4%)が増加したことなどによるものである。

(2) 負債・資本

負債

負債は、6,606,191,577円で元年度と比較して233,134,624円(3.4%)の減となり、負債・資本合計に占める割合は、63.3%(元年度65.6%)となっている。これは、流動負債の一時借入金121,200,000円(皆増)が増加したものの、固定負債の企業債371,263,129円(13.4%)などが減少したことなどによるものである。

資本

資本は、3,823,287,510円で元年度と比較して242,965,278円(6.8%)の増となり、負債・資本合計に占める割合は、36.7%(元年度34.4%)となっている。これは、資本金285,089,000円(7.4%)が増加したことによるものである。

(3) 資金の状況

キャッシュ・フロー計算書

(単位：円)

| 項 目 | 令和2年度 | 令和元年度 | 比較増減 |
|------------------------|---------------|---------------|-------------|
| 1. 業務活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 当年度純利益 | 42,123,722 | 423,160,047 | 381,036,325 |
| 減価償却費 | 439,107,711 | 467,151,780 | 28,044,069 |
| 固定資産除却費 | 10,649,225 | 265,002,952 | 254,353,727 |
| 貸倒引当金の増減額(は減少) | 1,584,512 | 5,665,829 | 7,250,341 |
| 退職給付引当金の増減額(は減少) | 25,811,880 | 20,502,260 | 5,309,620 |
| 賞与引当金の増減額(は減少) | 11,689,216 | 23,015,833 | 34,705,049 |
| 長期前受金戻入額 | 114,243,612 | 253,990,711 | 139,747,099 |
| 受取利息及び配当金 | 16,568 | 17,632 | 1,064 |
| 支払利息 | 42,167,682 | 52,408,578 | 10,240,896 |
| 未収金の増減額(は増加) | 57,130,970 | 86,902,325 | 29,771,355 |
| 棚卸資産の増減額(は増加) | 911,854 | 10,093,094 | 9,181,240 |
| 未払金の増減額(は減少) | 56,122,124 | 812,000 | 56,934,124 |
| その他の流動資産の増減額(は増加) | 1,029,568 | 232,524 | 797,044 |
| その他の流動負債の増減額(は減少) | 29,723,201 | 348,108 | 29,375,093 |
| 有形固定資産売却益(は減少) | 142,775 | 0 | 142,775 |
| 小 計 | 378,877,420 | 79,538,243 | 299,339,177 |
| 受取利息及び配当金 | 16,568 | 17,632 | 1,064 |
| 利息の支払額 | 42,167,682 | 52,408,578 | 10,240,896 |
| 業務活動によるキャッシュ・フロー | 336,726,306 | 27,147,297 | 309,579,009 |
| 2. 投資活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出 | 364,610,255 | 43,550,000 | 321,060,255 |
| 有形固定資産及び無形固定資産の売却による収入 | 27,273 | 0 | 27,273 |
| 国庫補助金による収入 | 22,000,000 | 0 | 22,000,000 |
| 県補助金による収入 | 33,268,000 | 0 | 33,268,000 |
| 他会計負担金による収入 | 0 | 2,722,000 | 2,722,000 |
| 長期貸付金による支出 | 8,460,000 | 8,460,000 | 0 |
| 基金造成による支出 | 1,070 | 1,000 | 70 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 317,776,052 | 49,289,000 | 268,487,052 |
| 3. 財務活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 建設改良企業債による収入 | 79,700,000 | 41,800,000 | 37,900,000 |
| 建設改良企業債の償還による支出 | 475,027,001 | 489,815,496 | 14,788,495 |
| 一時借入金の借入による収入 | 121,200,000 | 0 | 121,200,000 |
| 他会計からの出資による収入 | 285,089,000 | 297,735,000 | 12,646,000 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 10,961,999 | 150,280,496 | 161,242,495 |
| 資金増加額 | 29,912,253 | 172,422,199 | 202,334,452 |
| 資金期首残高 | 1,457,065,836 | 1,629,488,035 | 172,422,199 |
| 資金期末残高 | 1,486,978,089 | 1,457,065,836 | 29,912,253 |

資金は貸借対照表の資産のうち、現金・預金と一致する

2年度末における資金(預金・現金)の残高は、1,486,978,089円で、年度期間中に29,912,253円増(元年度172,422,199円減)となっている。これは、有形固定資産の取得など投資活動によるもので317,776,052円減少したものの、減価償却費等の内部留保資金など業務活動によるものが336,726,306円、企業債の借入償還など財務活動によるもので10,961,999円が増加したことによるものである。

5 経営分析

企業の財政状態及び経営成績に対する判断の方法として経営分析があるが、これを付表5に示したので参照されたい。その概要については、次のとおりである。

(1) 構成比率

自己資本構成比率は、総資本に対する自己資本の割合である。企業経営上は、この比率が高い方が良いとされ、令和元年度は、総合病院60.08%、小高診療所が86.73%である。病院事業は、建設投資の財源の多くを企業債により調達しているため、比率が低くなる。

(2) 財務比率

短期支払能力を判定する流動比率は、令和元年度は、総合病院140.89%、小高診療所676.56%である。200%以上が理想比率とされているが、病院事業は建設投資の財源の多くを企業債により調達しているため、流動負債に計上される企業債の償還金が大きく、比率は低くなる。また、当座資金と流動負債の対比から支払能力を判定する酸性試験比率は、総合病院138.37%、小高診療所676.51%となっている。比率は、通常100%以上であることを理想としている。

(3) 回転率

未収金回転率（総合病院5.35回、小高診療所5.01回）が元年度と比較して総合病院が下回っているのは、医業収益が元年度と比べ減少したことなどによるものである。

(4) 収益率

総収益対総費用比率（総合病院99.75%、小高診療所74.49%）が元年度と比較して総合病院が上回っているのは、医業収益は減少したものの医業外収益及び特別利益が増加したことなどによるものである。

経営資本営業利益率（総合病院 14.35%、小高診療所 4.84%）は、本来の営業活動に投下されている経営資本と、本来の営業活動から生み出される営業利益の比率であり、この比率は高い方が良いとされている。総合病院が元年度を下回っているのは、医業収益が減少したことによるものである。

6 むすび

令和2年度南相馬市病院事業会計における決算の概要については、以上の記述のとおりである。

業務実績をみると、総合病院の入院患者数は延べ50,336人で元年度と比較して12,412人（19.8%）減少し、外来患者数は延べ66,684人で元年度と比較して14,075人（17.4%）減少している。また、一日平均患者数は入院が137.9人で元年度と比較して33.5人（19.6%）の減少となり、外来が274.4人で元年度と比較して62.1人（18.5%）の減少となった。患者一人一日当たり診療収入は入院で529円（1.3%）増加し、外来で813円（6.4%）増加している。

小高診療所の外来患者数は延べ4,103人で元年度と比較して282人（6.4%）減少し、一日平均患者数は16.9人で元年度と比較して1.8人（9.6%）減少した。

経営成績では、総合病院の総収益は4,804,366,191円となり元年度と比較して3,868,370円（0.1%）の減少となった。この主な要因は、医業外収益において補助金584,003,280円（314.4%）が増加し、特別利益61,658,967円（421.5%）増加したものの、医業収益において入院収益478,256,875円（18.7%）が減少し、外来収益123,544,622円（12.1%）が減少したこと

になどよるものである。一方、総費用は4,816,274,439円となり、元年度と比較して142,225,043円(2.9%)減少となった。この主な要因は、医業外費用において院内保育施設費が54,312,985円(皆増)増加し、特別損失53,266,222円(284.9%)増加したものの、医業費用において材料費157,798,742円(19.8%)減少し、給与費58,569,580円が減少したことなどによるものである。

医業収支を見ると、1,222,200,272円費用が収益を上回っており、元年度よりも373,490,663円(44.0%)損失が増加している。これは、新型コロナウイルス感染症及び整形外科常勤勤務医師の不在の影響などによるものと考えられる。

総合病院事業収支を見ると、新型コロナウイルス感染症対策に伴う補助金等により、損失は、11,908,248円に留まっており、元年度と比較すると138,356,673円(92.1%)損失が減少している。

小高診療所の総収益は88,237,669円となり、元年度と比較して14,038,552円(13.7%)の減少となった。この主な要因は、医業収益において外来収益4,210,210円(31.4%)、医業外収益において補助金7,156,000円(13.9%)、特別利益2,955,318円(皆増)が増加したものの、長期前受金戻入28,666,941円(91.9%)が減少したことなどによるものである。一方、総費用は118,453,173円となり、元年度と比較して227,373,948円(65.7%)の減少となった。この主な要因は、医業費用において給与費28,326,551円(58.7%)、医業外費用において雑損失19,010,930円(791.3%)が増加したものの、資産減耗費264,146,131円(99.9%)が減少したことなどによるものである。その結果、収支差引30,215,474円の2年度純損失となった。

総合病院は、令和2年度当初から新型コロナウイルス感染症対策を最優先する方針を定め、地域の医療機関との連携のもと、4月14日には敷地内に発熱トリアージ外来を設置し、感染が疑われる発熱者を一元的に診察することで、地域医療機関による通常診療をサポートした。

また、9月からは県の要請を受けて陽性患者の入院受け入れを行っている。コロナ禍での医療の確保をはじめ、地域における基幹的な公的病院としての役割と公営企業としての経済性の発揮に期待するものである。

小高診療所は、令和3年度に新たな診療施設が開所する予定であり、在宅診療・遠隔診療など、小高区地域の状況に応じた医療の充実と持続可能な医療体制の整備を望むものである。

病院事業会計付表

付 表 1 (総合病院)

業 務 実 績 表

| 項目 | 年度等 | 単 位 | 2 | 元 | 30 | 前年度 対 比 | す う 勢 比 率 | | 備 考 |
|------------------------------|-----|---------|-----------|-----------|--------|------------|-----------|--------------------------------------|---|
| | | | | | | | 2 | 元 | |
| 病 床 利 用 率 | % | | 60.0 | 74.5 | 70.3 | 80.5 | 85.3 | 106.0 | $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$ |
| 一 日 平 均 患 者 数 | 入 院 | 人 | 137.9 | 171.4 | 161.6 | 80.5 | 85.3 | 106.1 | $\frac{\text{年延入院患者数}}{365(366)}$ |
| | 外 来 | 人 | 274.4 | 336.5 | 341.3 | 81.5 | 80.4 | 98.6 | $\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{診療日数}}$ |
| 外 来 ・ 入 院 患 者 数 比 率 | % | | 132.5 | 128.7 | 141.2 | 103.0 | 93.8 | 91.1 | $\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延入院患者数}} \times 100$ |
| 職 員 一 人 一 日 当 た り 患 者 数 | 総 数 | 人 | 30.6 | 46.8 | 44.2 | 65.4 | 69.2 | 105.9 | $\frac{\text{年延入院外来患者数}}{\text{年延職員数}}$ |
| | 入 院 | 人 | 13.2 | 20.5 | 18.3 | 64.4 | 72.1 | 112.0 | $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延職員数}}$ |
| | 外 来 | 人 | 17.4 | 26.3 | 25.9 | 66.2 | 67.2 | 101.5 | $\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延職員数}}$ |
| 患 者 一 人 一 日 当 た り 診 療 収 入 | 総 額 | 円 | 25,384 | 24,893 | 25,065 | 102.0 | 101.3 | 99.3 | $\frac{\text{入院外来収益}}{\text{年延入院外来患者数}}$ |
| | 入 院 | 円 | 41,204 | 40,676 | 43,688 | 101.3 | 94.3 | 93.1 | $\frac{\text{入院収益}}{\text{年延入院患者数}}$ |
| | 外 来 | 円 | 13,443 | 12,630 | 11,872 | 106.4 | 113.2 | 106.4 | $\frac{\text{外来収益}}{\text{年延外来患者数}}$ |
| 職 員 一 人 一 日 当 た り 診 療 収 入 | 円 | 776,593 | 1,164,747 | 1,108,746 | 66.7 | 70.0 | 105.1 | $\frac{\text{入院外来収益}}{\text{年延職員数}}$ | |
| 患 者 一 人 一 日 当 た り 薬 品 費 | 総 額 | 円 | 3,302 | 3,253 | 3,278 | 101.5 | 100.7 | 99.2 | $\frac{\text{薬品費}}{\text{年延入院外来患者数}}$ |
| | 投 薬 | 円 | 661 | 620 | 564 | 106.6 | 117.2 | 109.9 | $\frac{\text{投薬薬品費}}{\text{年延入院外来患者数}}$ |
| | 注 射 | 円 | 2,641 | 2,633 | 2,714 | 100.3 | 97.3 | 97.0 | $\frac{\text{注射薬品費}}{\text{年延入院外来患者数}}$ |
| 投 薬 薬 品 使 用 効 率 | % | | 120.0 | 130.7 | 154.9 | 91.8 | 77.5 | 84.4 | $\frac{\text{投薬薬品収入}}{\text{投薬用薬品払出原価}} \times 100$ |

すう勢比率は、平成30年度を100とした数値である。

| 項目 | 年度等 | 単 位 | 2 | 元 | 30 | 前年度 対 比 | す う 勢 比 率 | | 備 考 |
|---|-----------------------------|--------|--------|--------|--------|------------|-----------|-------|---|
| | | | | | | | 2 | 元 | |
| 注 射 薬 品 使 用 効 率 | % | | 116.2 | 109.4 | 102.0 | 106.2 | 113.9 | 107.3 | $\frac{\text{注射薬品収入}}{\text{注射用薬品払出原価}} \times 100$ |
| 医 療 材 料 消 費 率 | % | | 21.6 | 22.3 | 22.9 | 96.9 | 94.3 | 97.4 | $\frac{\text{医療材料費}}{\text{入院外来収益}} \times 100$ |
| 診 療 収 入 に 対 する 割 合 | 投 薬 ・ 注 射 収 入 | % | 15.2 | 14.8 | 14.5 | 102.7 | 104.8 | 102.1 | $\frac{\text{投薬注射収入}}{\text{入院外来収益}} \times 100$ |
| | 検 査 収 入 | % | 10.3 | 9.6 | 9.6 | 107.3 | 107.3 | 100.0 | $\frac{\text{検査収入}}{\text{入院外来収益}} \times 100$ |
| | X 線 収 入 | % | 6.5 | 5.9 | 5.9 | 110.2 | 110.2 | 100.0 | $\frac{\text{X線収入}}{\text{入院外来収益}} \times 100$ |
| 医 業 収 益 に 対 する 医 療 材 料 費 等 の 割 合 | 医 療 材 料 費 | % | 18.9 | 20.3 | 21.1 | 93.1 | 89.6 | 96.2 | $\frac{\text{医療材料費}}{\text{医業収益}} \times 100$ |
| | 職 員 給 与 費 | % | 66.6 | 57.7 | 58.2 | 115.4 | 114.4 | 99.1 | $\frac{\text{職員給与費}}{\text{医業収益}} \times 100$ |
| 検 査 の 状 況 | 患 者 1 0 0 人 当 たり 検 査 件 数 | 件 | 522.2 | 523.9 | 515.6 | 99.7 | 101.3 | 101.6 | $\frac{\text{年間検査件数}}{\text{年延入院外来患者数}} \times 100$ |
| | 患 者 1 0 0 人 当 たり X 線 件 数 | 件 | 29.4 | 30.2 | 30.6 | 97.4 | 96.1 | 98.7 | $\frac{\text{年間X線件数}}{\text{年延入院外来患者数}} \times 100$ |
| | 検 査 技 師 一 人 当 たり 検 査 件 数 | 件 | 61,103 | 81,728 | 79,732 | 74.8 | 76.6 | 102.5 | $\frac{\text{年間検査件数}}{\text{年度末検査技師数}}$ |
| | X 線 技 師 一 人 当 たり X 線 件 数 | 件 | 3,127 | 3,938 | 3,958 | 79.4 | 79.0 | 99.5 | $\frac{\text{年間X線件数}}{\text{年度末X線技師数}}$ |
| | 検 査 技 師 一 人 当 たり 検 査 収 入 | 千円 | 30,555 | 37,301 | 37,330 | 81.9 | 81.9 | 99.9 | $\frac{\text{検査収入}}{\text{年度末検査技師数}}$ |
| | X 線 技 師 一 人 当 たり X 線 収 入 | 千円 | 17,509 | 19,221 | 19,223 | 91.1 | 91.1 | 100.0 | $\frac{\text{X線収入}}{\text{年度末X線技師数}}$ |
| 病 床 1 0 0 床 当 たり 職 員 数 | 人 | | 142 | 133 | 142 | 106.8 | 100.0 | 93.7 | $\frac{\text{年度末職員数}}{\text{年度末病床数}} \times 100$ |

付 表 1 (小高診療所)

業 務 実 績 表

| 項目 | 年度等 | 単 位 | 2 | 元 | 30 | 前 年 度 対 比 | す う 勢 比 率 | | 備 考 | |
|-------------------------------|-------------------|-------------|---------|---------|-------|-----------------------|-----------------------|---|---|--|
| | | | | | | | 2 | 元 | | |
| 一日平均患者数 | 外 来 | 人 | 16.9 | 19.7 | 0.0 | 85.8 | - | - | 年延外来患者数 | |
| | | | | | | | | | 診療日数 | |
| 職員一人一日 当たり患者数 | 外 来 | 人 | 42.7 | 128.9 | 0.0 | 33.1 | - | - | 年延外来患者数 | |
| | | | | | | | | | 年延職員数 | |
| 患者一人一日 当たり診療収入 | 外 来 | 円 | 4,293 | 4,333.0 | 0.0 | 99.1 | - | - | 外来収益 | |
| | | | | | | | | | 年延外来患者数 | |
| 職員一人一日 当たり診療収入 | | 円 | 183,500 | 558,583 | 0.0 | 32.9 | - | - | 外来収益 | |
| | | | | | | | | | 年延職員数 | |
| 患者一人一日 当たり薬品費 | | 総額 | 円 | 282 | 274.0 | 0.0 | 102.9 | - | - | 薬品費 |
| | | 投薬 | 円 | 0.5 | 5 | 0.0 | 10.0 | - | - | 年延外来患者数 |
| | | | | | | | | | | 注射 |
| 年延外来患者数 | | | | | | | | | | |
| 投薬薬品使用効率 | | % | 1400.0 | 81.3 | 0.0 | 1,722.0 | - | - | $\frac{\text{投薬薬品収入}}{\text{投薬用薬品払出原価}} \times 100$ | |
| 注射薬品使用効率 | | % | 105.0 | 13.6 | 0.0 | 772.1 | - | - | $\frac{\text{注射薬品収入}}{\text{注射用薬品払出原価}} \times 100$ | |
| 医療材料消費率 | | % | 8.7 | 8.3 | 0.0 | 104.8 | - | - | $\frac{\text{医療材料費}}{\text{外来収益}} \times 100$ | |
| 診療収入に 対する割合 | | 投薬・注射 収入 | % | 7.0 | 1.0 | 0.0 | 700.0 | - | - | $\frac{\text{投薬注射収入}}{\text{外来収益}} \times 100$ |
| | | 検査収入 | % | 11.2 | 12.9 | 0.0 | 86.8 | - | - | $\frac{\text{検査収入}}{\text{外来収益}} \times 100$ |
| | | X線収入 | % | 0.3 | 0.0 | 0.0 | 皆増 | - | - | $\frac{\text{X線収入}}{\text{入院外来収益}} \times 100$ |
| 医業収益に 対する医療 材料費等の 割合 | | 医療材料費 | % | 7.2 | 6.9 | 0.0 | 104.3 | - | - | $\frac{\text{医療材料費}}{\text{医業収益}} \times 100$ |
| | | 職員給与費 | % | 240.3 | 295.6 | 0.0 | 81.3 | - | - | $\frac{\text{職員給与費}}{\text{医業収益}} \times 100$ |
| 検査の状況 | 患者100人 当たり検査件数 | 件 | 17.9 | 11.5 | 0.0 | 155.7 | - | - | 年間検査件数 | |
| | | | | | | | | | 年延外来患者数 | |
| 検査の状況 | 患者100人 当たりX線件数 | 件 | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 皆増 | - | - | 年間X線件数 | |
| | | | | | | | | | 年延入院外来患者数 | |

付 表 2 (総合病院)

損 益 計 算 年 度 比 較 表

(単 位 : 円 %)

| 項目 | 年度等 2 | 元 | 30 | 前 年 度 対 比 | す う 勢 比 率 | |
|-------------|---------------|---------------|---------------|--------------|-----------|---------|
| | | | | | 2 | 元 |
| 医 業 収 益 | 3,245,418,917 | 3,864,216,729 | 3,850,429,188 | 84.0 | 84.3 | 100.4 |
| 医 業 外 収 益 | 1,478,109,134 | 924,838,659 | 709,989,687 | 159.8 | 208.2 | 130.3 |
| 特 別 利 益 | 80,838,140 | 19,179,173 | 448,906 | 421.5 | 18007.8 | 4,272.4 |
| 総 収 益 | 4,804,366,191 | 4,808,234,561 | 4,560,867,781 | 99.9 | 105.3 | 105.4 |
| 医 業 費 用 | 4,467,619,189 | 4,712,926,338 | 4,766,298,856 | 94.8 | 93.7 | 98.9 |
| 医 業 外 費 用 | 266,584,011 | 216,768,127 | 225,981,196 | 123.0 | 118.0 | 95.9 |
| 特 別 損 失 | 82,071,239 | 28,805,017 | 6,459,003 | 284.9 | 1270.6 | 446.0 |
| 総 費 用 | 4,816,274,439 | 4,958,499,482 | 4,998,739,055 | 97.1 | 96.3 | 99.2 |
| 当 年 度 純 損 益 | 11,908,248 | 150,264,921 | 437,871,274 | 7.9 | 2.7 | 34.3 |

すう勢比率は、平成30年度を100とした数値である。

付 表 2 (小高診療所)

損 益 計 算 年 度 比 較 表

(単位：円 %)

| 項目 | 年度 | | 30 | 前 年 度 対 比 | す う 勢 比 率 | |
|-------------|-------------|-------------|----|--------------|-----------|---|
| | 2 | 元 | | | 2 | 元 |
| 医 業 収 益 | 21,417,488 | 16,308,388 | 0 | 131.3 | - | - |
| 医 業 外 収 益 | 63,864,892 | 85,967,863 | 0 | 74.3 | - | - |
| 特 別 利 益 | 2,955,319 | 0 | 0 | 皆増 | - | - |
| 総 収 益 | 88,237,699 | 102,276,251 | 0 | 86.3 | - | - |
| 医 業 費 用 | 96,316,994 | 343,404,921 | 0 | 28.0 | - | - |
| 医 業 外 費 用 | 21,440,954 | 2,422,200 | 0 | 885.2 | - | - |
| 特 別 損 失 | 695,225 | 0 | 0 | 皆増 | - | - |
| 総 費 用 | 118,453,173 | 345,827,121 | 0 | 34.3 | - | - |
| 当 年 度 純 損 益 | 30,215,474 | 243,550,870 | 0 | 12.4 | - | - |

付 表 3 (総合病院)

比較損益計算書

(単位 : 円 %)

| 科目 | 年度等 | 2 | | 元 | | 比較増減 (A) - (B) | 前年度 対 比 |
|--------|---------------|---------------|-------------|---------------|-------------|-----------------------|------------|
| | | 金額 (A) | 構成比 | 金額 (B) | 構成比 | | |
| 医業収益 | 入院収益 | 2,074,058,238 | 63.9 | 2,552,315,113 | 66.0 | 478,256,875 | 81.3 |
| | 外来収益 | 896,411,473 | 27.6 | 1,019,956,095 | 26.4 | 123,544,622 | 87.9 |
| | その他医業収益 | 274,949,206 | 8.5 | 291,945,521 | 7.6 | 16,996,315 | 94.2 |
| | 合 計 | 3,245,418,917 | 100.0 | 3,864,216,729 | 100.0 | 618,797,812 | 84.0 |
| 医業費用 | 給与費 | 2,479,837,665 | 55.5 | 2,538,407,245 | 53.9 | 58,569,580 | 97.7 |
| | 材料費 | 640,329,443 | 14.3 | 798,128,185 | 16.9 | 157,798,742 | 80.2 |
| | 経費 | 889,745,004 | 19.9 | 900,983,536 | 19.1 | 11,238,532 | 98.8 |
| | 減価償却費 | 430,115,497 | 9.6 | 449,218,653 | 9.5 | 19,103,156 | 95.7 |
| | 資産減耗費 | 12,709,352 | 0.3 | 2,177,124 | 0.1 | 10,532,228 | 583.8 |
| | 研究研修費 | 14,882,228 | 0.4 | 24,011,595 | 0.5 | 9,129,367 | 62.0 |
| | 合 計 | 4,467,619,189 | 100.0 | 4,712,926,338 | 100.0 | 245,307,149 | 94.8 |
| 医業損益 | 1,222,200,272 | - | 848,709,609 | - | 373,490,663 | 144.0 | |
| 医業外収益 | 受取利息配当金 | 5,268 | 0.0 | 4,673 | 0.0 | 595 | 112.7 |
| | 他会計補助金 | 32,584,000 | 2.2 | 16,836,000 | 1.8 | 15,748,000 | 193.5 |
| | 補助金 | 769,778,440 | 52.1 | 185,775,160 | 20.1 | 584,003,280 | 414.4 |
| | 負担金交付金 | 473,710,546 | 32.0 | 460,938,971 | 49.9 | 12,771,575 | 102.8 |
| | 院内保育施設収益 | 56,095,836 | 3.8 | 0 | 0.0 | 56,095,836 | 皆増 |
| | 長期前受金戻入 | 111,711,912 | 7.6 | 219,516,293 | 23.7 | 107,804,381 | 50.9 |
| | その他医業外収益 | 34,223,132 | 2.3 | 41,767,562 | 4.5 | 7,544,430 | 81.9 |
| | 合 計 | 1,478,109,134 | 100.0 | 924,838,659 | 100.0 | 553,270,475 | 159.8 |
| 医業外費用 | 支払利息及び企業債取扱諸費 | 42,140,136 | 15.8 | 52,365,189 | 24.2 | 10,225,053 | 80.5 |
| | 院内保育施設費 | 54,312,985 | 20.4 | 0 | 0.0 | 54,312,985 | 皆増 |
| | 雑損失 | 170,130,890 | 63.8 | 164,402,938 | 75.8 | 5,727,952 | 103.5 |
| | 合 計 | 266,584,011 | 100.0 | 216,768,127 | 100.0 | 49,815,884 | 123.0 |
| 経常損益 | 10,675,149 | - | 140,639,077 | - | 129,963,928 | 7.6 | |
| 特別利益 | 80,838,140 | - | 19,179,173 | - | 61,658,967 | 421.5 | |
| 特別損失 | 82,071,239 | - | 28,805,017 | - | 53,266,222 | 284.9 | |
| 当年度純損益 | 11,908,248 | - | 150,264,921 | - | 138,356,673 | 7.9 | |

付 表 3 (小高診療所)

比較損益計算書

(単位:円%)

| 科目 | 年度 | 2 | | 元 | | 比較増減 (A) - (B) | 前年度 対比 |
|-------------|---------------------------|------------|-------|-------------|-------|-------------------|-----------|
| | | 金額(A) | 構成比 | 金額(A) | 構成比 | | |
| 医業収益 | 外 来 収 益 | 17,616,014 | 82.3 | 13,405,804 | 82.2 | 4,210,210 | 131.4 |
| | そ の 他 医 業 収 益 | 3,801,474 | 17.7 | 2,902,584 | 17.8 | 898,890 | 131.0 |
| | 合 計 | 21,417,488 | 100.0 | 16,308,388 | 100.0 | 5,109,100 | 131.3 |
| 医業費用 | 給 与 費 | 76,611,126 | 79.6 | 48,284,575 | 14.1 | 28,326,551 | 158.7 |
| | 材 料 費 | 1,535,562 | 1.6 | 1,118,491 | 0.3 | 417,071 | 137.3 |
| | 経 費 | 15,131,763 | 15.7 | 22,252,913 | 6.5 | 7,121,150 | 68.0 |
| | 減 価 償 却 費 | 2,925,872 | 3.0 | 7,472,137 | 2.2 | 4,546,265 | 39.2 |
| | 資 産 減 耗 費 | 25,871 | 0.0 | 264,172,002 | 76.9 | 264,146,131 | 0.0 |
| | 研 究 研 修 費 | 86,800 | 0.1 | 104,803 | 0.0 | 18,003 | 82.8 |
| | 合 計 | 96,316,994 | 100.0 | 343,404,921 | 100.0 | 247,087,927 | 28.0 |
| 医 業 損 益 | | 74,899,506 | - | 327,096,533 | - | 252,197,027 | 22.9 |
| 医業外収益 | 受 取 利 息 配 当 金 | 11,300 | 0.0 | 6,692 | 0.0 | 4,608 | 168.9 |
| | 他 会 計 補 助 金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | 補 助 金 | 58,615,000 | 91.8 | 51,459,000 | 59.8 | 7,156,000 | 113.9 |
| | 負 担 金 交 付 金 | 2,241,000 | 3.5 | 2,385,000 | 2.8 | 144,000 | 94.0 |
| | 長 期 前 受 金 戻 入 | 2,531,700 | 4.0 | 31,198,641 | 36.3 | 28,666,941 | 8.1 |
| | そ の 他 医 業 外 収 益 | 465,892 | 0.7 | 918,530 | 1.1 | 452,638 | 50.7 |
| | 合 計 | 63,864,892 | 100.0 | 85,967,863 | 100.0 | 22,102,971 | 74.3 |
| 医業外費用 | 支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費 | 27,546 | 0.1 | 19,722 | 0.8 | 7,824 | 139.7 |
| | 雑 損 失 | 21,413,408 | 99.9 | 2,402,478 | 99.2 | 19,010,930 | 891.3 |
| | 合 計 | 21,440,954 | 100.0 | 2,422,200 | 100.0 | 19,018,754 | 885.2 |
| 経 常 損 益 | | 32,475,568 | - | 243,550,870 | - | 211,075,302 | 13.3 |
| 特 別 利 益 | | 2,955,319 | - | 0 | - | 2,955,319 | 皆増 |
| 特 別 損 失 | | 695,225 | - | 0 | - | 695,225 | 皆増 |
| 当 年 度 純 損 益 | | 30,215,474 | - | 243,550,870 | - | 213,335,396 | 12.4 |

付 表 4 (総合病院・小高診療所合計)

比較貸借対照表

(単位 : 円 %)

| 科目 | | 年度 | 2 | | 元 | | 比較増減 (A) - (B) | 前年度 対 比 |
|------------------|------------------|---------------|----------------|---------------|---------------|------------|-----------------------|------------|
| | | | 金額 (A) | 構成比 | 金額 (B) | 構成比 | | |
| 資 産 の 部 | 固 定 資 産 | 有 土 地 | 558,510,038 | 5.4 | 513,074,738 | 5.0 | 45,435,300 | 108.9 |
| | | 形 建 物 | 6,084,394,898 | 58.3 | 6,232,151,349 | 59.8 | 147,756,451 | 97.6 |
| | | 固 構 築 物 | 20,614,353 | 0.2 | 22,919,666 | 0.2 | 2,305,313 | 89.9 |
| | | 定 器 械 備 品 | 743,687,844 | 7.1 | 918,959,755 | 8.8 | 175,271,911 | 80.9 |
| | | 資 車 輛 運 搬 具 | 2,340,189 | 0.0 | 3,934,998 | 0.0 | 1,594,809 | 59.5 |
| | | 産 建 設 仮 勘 定 | 196,176,455 | 1.9 | 0 | 0.0 | 196,176,455 | 皆増 |
| | | 計 | 7,605,723,777 | 72.9 | 7,691,040,506 | 73.8 | 85,316,729 | 98.9 |
| | 産 無 形 固 定 資 産 | 1,350,807 | 0.0 | 1,350,807 | 0.0 | 0 | 100.0 | |
| | 投 資 そ の 他 の 資 産 | 172,585,037 | 1.7 | 164,123,967 | 1.6 | 8,461,070 | 105.2 | |
| | 固 定 資 産 計 | 7,779,659,621 | 74.6 | 7,856,515,280 | 75.4 | 76,855,659 | 99.0 | |
| | 流 動 資 産 | 現 金 預 金 | 1,486,978,089 | 14.3 | 1,457,065,836 | 14.0 | 29,912,253 | 102.1 |
| | 未 収 金 | 1,138,349,354 | 10.9 | 1,079,633,872 | 10.4 | 58,715,482 | 105.4 | |
| | 貯 蔵 品 | 20,357,778 | 0.2 | 21,269,632 | 0.2 | 911,854 | 95.7 | |
| | 前 払 費 用 | 4,030,230 | 0.0 | 5,091,413 | 0.0 | 1,061,183 | 79.2 | |
| 前 払 金 | 104,015 | 0.0 | 0 | 0.0 | 104,015 | 皆増 | | |
| そ の 他 流 動 資 産 | 0 | 0.0 | 72,400 | 0.0 | 72,400 | 皆減 | | |
| 流 動 資 産 計 | 2,649,819,466 | 25.4 | 2,563,133,153 | 24.6 | 86,686,313 | 103.4 | | |
| 資 産 合 計 | 10,429,479,087 | 100.0 | 10,419,648,433 | 100.0 | 9,830,654 | 100.1 | | |

| 科目 | | 年度 | 2 | | 元 | | 比較増減 | 前年度 |
|-------------------------|----------------|---------------|----------------|---------------|---------------|-------------|-------------|-------|
| | | | 金額(A) | 構成比 | 金額(B) | 構成比 | (A) - (B) | 対比 |
| 負債 ・ 資本 の 部 | 固定負債 | 企業債 | 2,409,520,332 | 23.1 | 2,780,783,461 | 26.7 | 371,263,129 | 86.6 |
| | | 他会計借入金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | リース債務 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | 引当金 | 130,124,444 | 1.2 | 104,312,564 | 1.0 | 25,811,880 | 124.7 |
| | | 計 | 2,539,644,776 | 24.3 | 2,885,096,025 | 27.7 | 345,451,249 | 88.0 |
| | 流動負債 | 一時借入金 | 121,200,000 | 1.2 | 0 | 0.0 | 121,200,000 | 皆増 |
| | | 企業債 | 450,963,129 | 4.3 | 475,027,001 | 4.5 | 24,063,872 | 94.9 |
| | | 他会計借入金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | リース債務 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | 未払金 | 384,586,521 | 3.7 | 328,464,397 | 3.1 | 56,122,124 | 117.1 |
| | | 前受金 | 30,952,784 | 0.3 | 0 | 0.0 | 30,952,784 | 皆増 |
| | | 引当金 | 136,135,221 | 1.3 | 147,824,437 | 1.4 | 11,689,216 | 92.1 |
| | | その他流動負債 | 35,866,907 | 0.3 | 37,096,490 | 0.4 | 1,229,583 | 96.7 |
| | 計 | 1,159,704,562 | 11.1 | 988,412,325 | 9.4 | 171,292,237 | 117.3 | |
| | 繰延収益 | 2,906,842,239 | 27.9 | 2,965,817,851 | 28.5 | 58,975,612 | 98.0 | |
| | 負債合計 | 6,606,191,577 | 63.3 | 6,839,326,201 | 65.6 | 233,134,624 | 96.6 | |
| | 資本金 | 4,149,599,151 | 39.8 | 3,864,510,151 | 37.1 | 285,089,000 | 107.4 | |
| | 剰余金 | 資本剰余金 | 266,315,136 | 2.6 | 266,315,136 | 2.6 | 0 | 100.0 |
| | | 利益剰余金 | 592,626,777 | 5.7 | 550,503,055 | 5.3 | 42,123,722 | 107.7 |
| 計 | | 326,311,641 | 3.1 | 284,187,919 | 2.7 | 42,123,722 | 114.8 | |
| 資本合計 | 3,823,287,510 | 36.7 | 3,580,322,232 | 34.4 | 242,965,278 | 106.8 | | |
| 負債・資本合計 | 10,429,479,087 | 100.0 | 10,419,648,433 | 100.0 | 9,830,654 | 100.1 | | |

比較貸借対照表

(単位 : 円 %)

| 科目 | | 年度 | 2 | | 元 | | 比較増減 (A) - (B) | 前年度 対 比 |
|------------------|------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-------------|-----------------------|------------|
| | | | 金額 (A) | 構成比 | 金額 (B) | 構成比 | | |
| 資 産 の 部 | 固 定 資 産 | 土 地 | 354,859,602 | 4.1 | 354,859,602 | 4.0 | 0 | 100.0 |
| | | 有 形 建 物 | 6,025,001,748 | 69.4 | 6,181,026,499 | 70.1 | 156,024,751 | 97.5 |
| | | 構 築 物 | 20,614,353 | 0.2 | 22,919,666 | 0.3 | 2,305,313 | 89.9 |
| | | 器 械 備 品 | 743,451,344 | 8.6 | 918,329,083 | 10.4 | 174,877,739 | 81.0 |
| | | 車 輛 運 搬 具 | 2,258,693 | 0.0 | 3,683,454 | 0.0 | 1,424,761 | 61.3 |
| | | 建 設 仮 勘 定 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | 計 | 7,146,185,740 | 82.3 | 7,480,818,304 | 84.8 | 334,632,564 | 95.5 |
| | 無 形 固 定 資 産 | 1,249,607 | 0.0 | 1,249,607 | 0.0 | 0 | 100.0 | |
| | 投 資 そ の 他 の 資 産 | 172,585,037 | 2.0 | 164,123,967 | 1.9 | 8,461,070 | 105.2 | |
| | 固 定 資 産 計 | 7,320,020,384 | 84.3 | 7,646,191,878 | 86.7 | 326,171,494 | 95.7 | |
| | 現 金 預 金 | 268,668,885 | 3.1 | 126,047,365 | 1.4 | 142,621,520 | 213.1 | |
| | 未 収 金 | 1,073,629,706 | 12.4 | 1,022,307,154 | 11.6 | 51,322,552 | 105.0 | |
| | 貯 蔵 品 | 20,272,757 | 0.2 | 21,176,644 | 0.2 | 903,887 | 95.7 | |
| 前 払 費 用 | 4,030,230 | 0.0 | 5,091,413 | 0.1 | 1,061,183 | 79.2 | | |
| 前 払 金 | 104,015 | 0.0 | 0 | 0.1 | 104,015 | 皆増 | | |
| そ の 他 流 動 資 産 | 0 | 0.0 | 72,400 | 0.0 | 72,400 | 皆減 | | |
| 流 動 資 産 計 | 1,366,705,593 | 15.7 | 1,174,694,976 | 13.3 | 192,010,617 | 116.3 | | |
| 資 産 合 計 | | | 8,686,725,977 | 100.0 | 8,820,886,854 | 100.0 | 134,160,877 | 98.5 |

| 科目 | | 年度 | 2 | | 元 | | 比較増減 | 前年度 |
|---------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-------------|-------------|-------|
| | | | 金額(A) | 構成比 | 金額(B) | 構成比 | (A)-(B) | 対比 |
| 負債・資本の部 | 固定負債 | 企業債 | 2,409,520,332 | 27.7 | 2,779,283,461 | 31.5 | 369,763,129 | 86.7 |
| | | 他会計借入金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | リース債務 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | 引当金 | 88,501,337 | 1.0 | 63,763,323 | 0.7 | 24,738,014 | 138.8 |
| | | 計 | 2,498,021,669 | 28.7 | 2,843,046,784 | 32.2 | 345,025,115 | 87.9 |
| | 流動負債 | 一時借入金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | 企業債 | 449,463,129 | 5.2 | 473,527,001 | 5.4 | 24,063,872 | 94.9 |
| | | 他会計借入金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | リース債務 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | 未払金 | 320,950,679 | 3.7 | 313,244,508 | 3.6 | 7,706,171 | 102.5 |
| | | 前受金 | 30,952,784 | 0.4 | 0 | 0.0 | 30,952,784 | 皆増 |
| | | 引当金 | 133,686,828 | 1.5 | 140,099,310 | 1.6 | 6,412,482 | 95.4 |
| | | その他流動負債 | 34,997,206 | 0.4 | 36,400,409 | 0.4 | 1,403,203 | 96.1 |
| | | 計 | 970,050,626 | 11.2 | 963,271,228 | 11.0 | 6,779,398 | 100.7 |
| | 繰延収益 | 2,846,597,089 | 32.8 | 2,914,693,001 | 33.0 | 68,095,912 | 97.7 | |
| | 負債合計 | 6,314,669,384 | 72.7 | 6,721,011,013 | 76.2 | 406,341,629 | 94.0 | |
| | 資本金 | 3,584,804,885 | 41.3 | 3,300,715,885 | 37.4 | 284,089,000 | 108.6 | |
| | 剰余金 | 資本剰余金 | 108,100,000 | 1.2 | 108,100,000 | 1.2 | 0 | 100.0 |
| | | 利益剰余金 | 1,320,848,292 | 15.2 | 1,308,940,044 | 14.8 | 11,908,248 | 100.9 |
| 計 | | 1,212,748,292 | 14.0 | 1,200,840,044 | 13.6 | 11,908,248 | 101.0 | |
| 資本合計 | 2,372,056,593 | 27.3 | 2,099,875,841 | 23.8 | 272,180,752 | 113.0 | | |
| 負債・資本合計 | 8,686,725,977 | 100.0 | 8,820,886,854 | 100.0 | 134,160,877 | 98.5 | | |

付 表 4 (小高診療所)

比較貸借対照表

(単位 : 円 %)

| 科目 | | 年度 | 2 | | 元 | | 比較増減 (A) - (B) | 前年度 対 比 |
|------------------|------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-------------|-----------------------|------------|
| | | | 金 額 (A) | 構 成 比 | 金 額 (A) | 構 成 比 | | |
| 資 産 の 部 | 固 定 資 産 | 有 土 地 | 203,650,436 | 11.7 | 158,215,136 | 9.9 | 45,435,300 | 128.7 |
| | | 形 建 物 | 59,393,150 | 3.4 | 51,124,850 | 3.2 | 8,268,300 | 116.2 |
| | | 固 構 築 物 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | 定 器 械 備 品 | 236,500 | 0.0 | 630,672 | 0.0 | 394,172 | 37.5 |
| | | 資 車 輛 運 搬 具 | 81,496 | 0.0 | 251,544 | 0.0 | 170,048 | 32.4 |
| | | 産 建 設 仮 勘 定 | 196,176,455 | 11.3 | 0 | 0.0 | 196,176,455 | 皆増 |
| | | 産 計 | 459,538,037 | 26.4 | 210,222,202 | 13.1 | 249,315,835 | 218.6 |
| | 無 形 固 定 資 産 | 101,200 | 0.0 | 101,200 | 0.0 | 0 | 100.0 | |
| | 投 資 そ の 他 の 資 産 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - | |
| | 固 定 資 産 計 | 459,639,237 | 26.4 | 210,323,402 | 13.1 | 249,315,835 | 218.5 | |
| | 流 動 資 産 | 流 現 金 預 金 | 1,218,309,204 | 69.9 | 1,331,018,471 | 83.3 | 112,709,267 | 91.5 |
| | | 未 収 金 | 64,719,648 | 3.7 | 57,326,718 | 3.6 | 7,392,930 | 112.9 |
| | | 資 貯 蔵 品 | 85,021 | 0.0 | 92,988 | 0.0 | 7,967 | 91.4 |
| そ の 他 流 動 資 産 | | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - | |
| 流 動 資 産 計 | | 1,283,113,873 | 73.6 | 1,388,438,177 | 86.9 | 105,324,304 | 92.4 | |
| 資 産 合 計 | | 1,742,753,110 | 100.0 | 1,598,761,579 | 100.0 | 143,991,531 | 109.0 | |

| 科目 | | 年度 | 2 | | 元 | | 比較増減 | 前年度 |
|---------|---------|---------------|-------------|---------------|-------------|-------------|-------------|-------|
| | | | 金額(A) | 構成比 | 金額(A) | 構成比 | (A) - (B) | 対比 |
| 負債 | 固定負債 | 企業債 | 0 | 0.0 | 1,500,000 | 0.1 | 1,500,000 | 皆減 |
| | | 他会計借入金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | リース債務 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | 引当金 | 41,623,107 | 2.4 | 40,549,241 | 2.5 | 1,073,866 | 102.6 |
| | | 計 | 41,623,107 | 2.4 | 42,049,241 | 2.6 | 426,134 | 99.0 |
| | 流動負債 | 一時借入金() | 121,200,000 | 7.0 | 0 | 0.0 | 121,200,000 | 皆増 |
| | | 企業債 | 1,500,000 | 0.1 | 1,500,000 | 0.1 | 0 | 100.0 |
| | | 他会計借入金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | リース債務 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | 未払金 | 63,635,842 | 3.6 | 15,219,889 | 1.0 | 48,415,953 | 418.1 |
| 資本 | 引当金 | 2,448,393 | 0.1 | 7,725,127 | 0.5 | 5,276,734 | 31.7 | |
| | その他流動負債 | 869,701 | 0.0 | 696,081 | 0.0 | 173,620 | 124.9 | |
| | 計 | 189,653,936 | 10.8 | 25,141,097 | 1.6 | 164,512,839 | 754.4 | |
| の | 繰延収益 | 60,245,150 | 3.5 | 51,124,850 | 3.2 | 9,120,300 | 117.8 | |
| | 負債合計 | 291,522,193 | 16.7 | 118,315,188 | 7.4 | 173,207,005 | 246.4 | |
| 部 | 資本金 | 564,794,266 | 32.4 | 563,794,266 | 35.3 | 1,000,000 | 100.2 | |
| | 剰余金 | 資本剰余金 | 158,215,136 | 9.1 | 158,215,136 | 9.9 | 0 | 100.0 |
| | | 利益剰余金 | 728,221,515 | 41.8 | 758,436,989 | 47.4 | 30,215,474 | 96.0 |
| | | 計 | 886,436,651 | 50.9 | 916,652,125 | 57.3 | 30,215,474 | 96.7 |
| 資本合計 | | 1,451,230,917 | 83.3 | 1,480,446,391 | 92.6 | 29,215,474 | 98.0 | |
| 負債・資本合計 | | 1,742,753,110 | 100.0 | 1,598,761,579 | 100.0 | 143,991,531 | 109.0 | |

付 表 5 (総合病院)

経営分析比較表

(単位：%, 回)

| 分析項目 | | 算式 | 2 | 元 | 30 |
|------|--------------|---|--------|--------|--------|
| 構成比率 | 1 固定資産構成比率 | $\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}} \times 100$ (総資産 = 固定資産 + 流動資産 + 繰延勘定) | 84.27 | 86.68 | 86.43 |
| | 2 固定負債構成比率 | $\frac{\text{固定負債}}{\text{総資本}} \times 100$ (総資本 = 負債 + 資本) | 28.76 | 32.23 | 34.93 |
| | 3 自己資本構成比率 | $\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{繰延収益}}{\text{総資本}} \times 100$ | 60.08 | 56.85 | 54.64 |
| 財務比率 | 4 固定資産対長期資本比 | $\frac{\text{固定資産}}{\text{固定負債} + \text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}} \times 100$ | 94.86 | 97.31 | 96.50 |
| | 5 固定比率 | $\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{繰延収益}} \times 100$ | 140.27 | 152.48 | 158.20 |
| | 6 流動比率 | $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$ | 140.89 | 121.95 | 130.04 |
| | 7 酸性試験比率 | $\frac{\text{現金預金} + (\text{未収金} - \text{貸倒引当金})}{\text{流動負債}} \times 100$ | 138.37 | 119.21 | 126.27 |
| | 8 現金比率 | $\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$ | 27.70 | 13.09 | 29.81 |
| | 9 総資本回転率 | $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{平均総資本}}$ | 0.37 | 0.43 | 0.40 |
| | 10 自己資本回転率 | $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{平均自己資本}}$ | 1.45 | 1.91 | 1.90 |
| | 11 固定資産回転率 | $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{平均固定資産}}$ | 0.43 | 0.49 | 0.47 |
| 回転率 | 12 流動資産回転率 | $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{平均流動資産}}$ | 2.55 | 3.17 | 2.63 |
| | 13 現金預金回転率 | $\frac{\text{当年度支出額}}{\text{平均現金預金}}$ | 32.28 | 29.50 | 13.96 |
| | 14 未収金回転率 | $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{平均営業未収金}}$ | 5.35 | 5.98 | 5.79 |
| | 15 貯蔵品回転率 | $\frac{\text{期首貯} + \text{当年度購入額} + \text{当年度発生額} - \text{期末貯}}{\text{平均貯蔵品}}$ | 19.78 | 18.81 | 16.10 |

| 説 | 明 |
|----|---|
| 1 | 資産総額に対する固定資産の百分率で、公営企業においては流動資産の額が小さいため、この率は必然的に大きくなる。 |
| 2 | 総資本に占める固定負債の百分率で、公営企業の場合は、設備投資を全面的に企業債に依存しているため、この率は大きくなる。 |
| 3 | 総資本に占める自己資本の割合を示すものであり、この比率が高いほど経営が安定している。 |
| 4 | 固定資産のうち、自己資本（自己資本金＋剰余金）と長期借入金（借入資本金＋固定負債）によって調達されている部分がどれだけあるかを示すものであり、一般に100%以下、かつ低いことが望ましい。 |
| 5 | 自己資本金に対する固定資産の百分率で、一般に100%以下が望ましいとされているが、公営企業のように設備投資を企業債に依存する企業では、この率は必然的に大きくなる。 |
| 6 | 流動比率は、1年以内に現金化できる資産と、1年以内に返済すべき負債とを比較するもので、短期支払能力を判定するために利用される。 |
| 7 | 流動資産のうち現金預金及び未収金などの当座資産と流動負債を対比させたもので、通常100%以上であれば良いとされている。 |
| 8 | 流動負債に対する現金預金の百分率で、当座の支払能力をみるために計算される。 |
| 9 | 総資本が1年間に何回転したかを表すもので、資本の利用度を表すものである。したがって、この率は、高いほうが良い。 |
| 10 | 資本金が1年間に何回転したかを表すもので、資本金の利用度を表すものである。 |
| 11 | 固定資産が1年間に何回転したかを表すもので、固定資産の利用度を表すものである。 |
| 12 | 流動資産が1年間に何回転したかを表すものである。 |
| 13 | 現金預金が1年間に何回転したかを表すものである。この率が大きくなることは、それだけ現金預金保有高が経営規模に比して小さいことを示す。 |
| 14 | 未収金が1年間に何回転したかを表すものである。 |
| 15 | 貯蔵品が1年間に何回転したかを表すものである。 |

（注）算式に用いた用語は次のとおりである。

・平均＝（期首＋期末）／2

| 分析項目 | | 算式 | 2 | 元 | 30 |
|------|-----------------|---|-------|--------|--------|
| 16 | 減価償却率 | 当年度減価償却費 | | | |
| | | $\frac{\text{期末償却資産} + \text{当年度減価償却費}}{\{\text{期末償却資産} = \text{固定資産} - (\text{土地} + \text{建設仮勘定})\}}$ | 0.06 | 0.06 | 0.06 |
| 17 | 総資本利益率 | 当年度純利益 | | | |
| | | $\frac{\text{当年度純利益}}{\text{平均総資本}} \times 100$ | 0.14 | 1.66 | 4.50 |
| | | 総収益対総費用比率 | | | |
| | | $\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$ | 99.75 | 96.97 | 91.24 |
| 19 | 営業収益対 営業費用比率 | 営業収益-受託工事収益 | | | |
| | | $\frac{\text{営業収益-受託工事収益}}{\text{営業費用-受託工事費用}} \times 100$ | 72.64 | 81.99 | 80.78 |
| 20 | 経営資本営業 利益率 | 営業利益 | | | |
| | | $\frac{\text{営業利益}}{\text{経営資本}} \times 100$ (経営資本 = 総資本 - (建設仮勘定 + 投資その他の資産 + 繰延勘定)) | 14.35 | 9.80 | 10.01 |
| 21 | 利子負担率 | 支払利息+企業債取扱諸費 | | | |
| | | $\frac{\text{支払利息} + \text{企業債取扱諸費}}{\text{企業債} + \text{長期借入金} + \text{一時借入金} + \text{リース債務}} \times 100$ | 1.47 | 1.61 | 1.68 |
| 22 | 職員一人当たり 営業収益 | 営業収益 | 千円 | 千円 | 千円 |
| | | $\frac{\text{営業収益}}{\text{損益勘定所属職員数}}$ | 9,925 | 12,587 | 11,808 |

| 説 | 明 |
|----|--|
| 16 | 償却資産が1年間にどれだけ償却されているかを表すものである。 |
| 17 | 総資本の何%に当たる利益を上げたか、つまり企業の収益性を表すものである。損失が生じた場合は負数()となる。 |
| 18 | 総収益が総費用の何%に当たるかを表すものである。 |
| 19 | 営業収益が営業費用の何%に当たるかを表すものである。 |
| 20 | 経営資本営業利益率は、本来の営業活動に投下されている経営資本と、本来の営業活動から生み出される営業利益の比率であり、この比率は高い方が良い。 |
| 21 | 損益計算書が示す借入資本利子と、貸借対照表に示された借入資本金とを比較することにより、利子率を計算したものである。 |
| 22 | 職員一人当たりどの位の営業収益を上げたかを表すものである。 |

(注) 算式に用いた用語は次のとおりである。

・平均 = (期首+期末) / 2

付 表 5 (小高診療所)

經營分析比較表

(單位：%，回)

| 分 析 項 目 | 算 式 | 2 | 元 | 30 | | |
|------------------|------------------|---|----------------------------|--------|----------|------|
| 構 成 比 率 | 1 固定資產構成比率 | $\frac{\text{固定資產}}{\text{總資產}} \times 100$ | (總資產 = 固定資產 + 流動資產 + 繰延勘定) | 26.37 | 13.60 | 0.00 |
| | 2 固定負債構成比率 | $\frac{\text{固定負債}}{\text{總資本}} \times 100$ | (總資本 = 負債 + 資本) | 2.39 | 2.63 | 0.00 |
| | 3 自己資本構成比率 | $\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{繰延収益}}{\text{總資本}} \times 100$ | | 86.73 | 95.80 | 0.00 |
| 財 務 比 率 | 4 固定資產對長期資本比 | $\frac{\text{固定資產}}{\text{固定負債} + \text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}} \times 100$ | | 29.59 | 13.37 | 0.00 |
| | 5 固 定 比 率 | $\frac{\text{固定資產}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{繰延収益}} \times 100$ | | 30.41 | 13.73 | 0.00 |
| | 6 流 動 比 率 | $\frac{\text{流動資產}}{\text{流動負債}} \times 100$ | | 676.56 | 5,522.58 | 0.00 |
| | 7 酸 性 試 驗 比 率 | $\frac{\text{現金預金} + (\text{未収金} - \text{貸倒引当金})}{\text{流動負債}} \times 100$ | | 676.51 | 5,522.21 | 0.00 |
| | 8 現 金 比 率 | $\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$ | | 642.39 | 5,294.19 | 0.00 |
| 回 轉 率 | 9 總 資 本 回 轉 率 | $\frac{\text{營業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{平均總資本}}$ | | 0.01 | 0.01 | 0.00 |
| | 10 自 己 資 本 回 轉 率 | $\frac{\text{營業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{平均自己資本}}$ | | 0.01 | 0.01 | 0.00 |
| | 11 固 定 資 產 回 轉 率 | $\frac{\text{營業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{平均固定資產}}$ | | 0.06 | 0.06 | 0.00 |
| | 12 流 動 資 產 回 轉 率 | $\frac{\text{營業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{平均流動資產}}$ | | 0.02 | 0.02 | 0.00 |
| | 13 現 金 預 金 回 轉 率 | $\frac{\text{当年度支出額}}{\text{平均現金預金}}$ | | 0.74 | 0.20 | 0.00 |
| | 14 未 収 金 回 轉 率 | $\frac{\text{營業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{平均營業未収金}}$ | | 5.01 | 4.60 | 0.00 |
| | 15 貯 藏 品 回 轉 率 | $\frac{\text{期首貯} + \text{当年度購入額} + \text{当年度発生額} - \text{期末貯}}{\text{平均貯藏品}}$ | | 13.29 | 8.83 | 0.00 |

| 説 | 明 |
|----|--|
| 1 | 資産総額に対する固定資産の百分率で、公営企業においては流動資産の額が小さいため、この率は必然的に大きくなる。 |
| 2 | 総資本に占める固定負債の百分率で、公営企業の場合は、設備投資を全面的に企業債に依存している ので、この率は大きくなる。 |
| 3 | 総資本に占める自己資本の割合を示すものであり、この比率が高いほど経営が安定している。 |
| 4 | 固定資産のうち、自己資本（自己資本金 + 剰余金）と長期借入金（借入資本金 + 固定負債）によって 調達されている部分がどれだけあるかを示すのであり、一般に100%以下、かつ低いことが望ましい。 |
| 5 | 自己資本金に対する固定資産の百分率で、一般に100%以下が望ましいとされているが、公営企業によ うに設備投資を企業債に依存する企業では、この率は必然的に大きくなる。 |
| 6 | 流動比率は、1年以内に現金化できる資産と、1年以内に返済すべき負債とを比較するもので、短期 支払能力を判定するために利用される。 |
| 7 | 流動資産のうち現金預金及び未収金などの当座資産と流動負債を対比させたもので、通常100%以上 であれば良いとされている。 |
| 8 | 流動負債に対する現金預金の百分率で、当座の支払能力をみるために計算される。 |
| 9 | 総資本が1年間に何回転したかを表すもので、資本の利用度を表すものである。したがって、この率 は、高いほうが良い。 |
| 10 | 資本金が1年間に何回転したかを表すもので、資本金の利用度を表すものである。 |
| 11 | 固定資産が1年間に何回転したかを表すもので、固定資産の利用度を表すものである。 |
| 12 | 流動資産が1年間に何回転したかを表すものである。 |
| 13 | 現金預金が1年間に何回転したかを表すものである。この率が大きくなることは、それだけ現金預金 保有高が経営規模に比して小さいことを示す。 |
| 14 | 未収金が1年間に何回転したかを表すものである。 |
| 15 | 貯蔵品が1年間に何回転したかを表すものである。 |

（注）算式に用いた用語は次のとおりである。

・平均 = (期首+期末) / 2

| 分 析 項 目 | | 算 式 | 2 | 元 | 30 |
|---------|--------------------------|---|-------------|-------------|---------|
| 16 | 減 価 償 却 率 | 当年度減価償却費 | | | |
| | | $\frac{\text{期末償却資産} + \text{当年度減価償却費}}{\{\text{期末償却資産} = \text{固定資産} - (\text{土地} + \text{建設仮勘定})\}}$ | 0.05 | 0.13 | 0.00 |
| 17 | 総 資 本 利 益 率 | 当年度純利益 | | | |
| | | $\frac{\text{当年度純利益}}{\text{平均総資本}} \times 100$ | 1.81 | 13.94 | 0.00 |
| | | 総収益対総費用比率 | | | |
| | | $\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$ | 74.49 | 29.57 | 0.00 |
| 18 | (総 収 支 比 率) | 総収益 | | | |
| | | $\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$ | 74.49 | 29.57 | 0.00 |
| 19 | 営 業 収 益 対 営 業 費 用 比 率 | 営業収益-受託工事収益 | | | |
| | | $\frac{\text{営業収益-受託工事収益}}{\text{営業費用-受託工事費用}} \times 100$ | 22.24 | 6.54 | 0.00 |
| 20 | 経 営 資 本 営 業 利 益 率 | 営業利益 | | | |
| | | $\frac{\text{営業利益}}{\text{経営資本}} \times 100$ (経営資本 = 総資本 - (建設仮勘定 + 投資その他の資産 + 繰延勘定)) | 4.84 | 20.08 | 0.00 |
| 21 | 利 子 負 担 率 | 支払利息+企業債取扱諸費 | | | |
| | | $\frac{\text{支払利息} + \text{企業債取扱諸費}}{\text{企業債} + \text{長期借入金} + \text{一時借入金} + \text{リース債務}} \times 100$ | 0.02 | 0.66 | 0.00 |
| 22 | 職 員 一 人 当 た り 営 業 収 益 | 営業収益 | | | |
| | | $\frac{\text{営業収益}}{\text{損益勘定所属職員数}}$ | 千円 2,677 | 千円 3,206 | 千円 0 |

| 説 | 明 |
|----|--|
| 16 | 償却資産が1年間にどれだけ償却されているかを表すものである。 |
| 17 | 総資本の何%に当たる利益を上げたか、つまり企業の収益性を表すものである。損失が生じた場合は負数()となる。 |
| 18 | 総収益が総費用の何%に当たるかを表すものである。 |
| 19 | 営業収益が営業費用の何%に当たるかを表すものである。 |
| 20 | 経営資本営業利益率は、本来の営業活動に投下されている経営資本と、本来の営業活動から生み出される営業利益の比率であり、この比率は高い方が良い。 |
| 21 | 損益計算書が示す借入資本利子と、貸借対照表に示された借入資本金とを比較することにより、利子率を計算したものである。 |
| 22 | 職員一人当たりどの位の営業収益を上げたかを表すものである。 |

(注) 算式に用いた用語は次のとおりである。

・平均 = (期首+期末) / 2

工業用水道事業会計

1 業務の実績

(1) 供給状況

令和2年度末における年間総給水量（契約水量）は12,081,500m³で、業務予定量と同数となっており、年間実使用水量は11,301,203m³で元年度と比較して254,507m³（2.3%）の増となっている。

また、給水対象事業所は7事業所で、業務予定と同数となっており、元年度実績比較でも同数となっている。

2 予算の執行状況

(1) 収益的収入及び支出

《収益的収入》

（単位：円 %）

| 区 分 科 目 | 予 算 現 額 | 決 算 額 | 差 引 増 減 | 執行率 | 構 成 比 率 |
|------------|-------------|-------------|-----------|-------|---------|
| 工業用水道事業収益 | 424,735,000 | 423,081,214 | 1,653,786 | 99.6 | 100.0 |
| 工水営業収益 | 414,787,000 | 413,141,641 | 1,645,359 | 99.6 | 97.7 |
| 工水営業外収益 | 9,943,000 | 9,939,573 | 3,427 | 100.0 | 2.3 |
| 特 別 利 益 | 5,000 | 0 | 5,000 | 0.0 | 0.0 |

決算額には、仮受消費税及び地方消費税37,558,326円を含む。

《収益的支出》

（単位：円 %）

| 区 分 科 目 | 予 算 現 額 | 決 算 額 | 不 用 額 | 執行率 | 構 成 比 率 |
|------------|-------------|-------------|-----------|-------|---------|
| 工業用水道事業費用 | 374,329,000 | 368,955,415 | 5,373,585 | 98.6 | 100.0 |
| 工水営業費用 | 350,759,000 | 348,389,589 | 2,369,411 | 99.3 | 94.4 |
| 工水営業外費用 | 20,568,000 | 20,565,826 | 2,174 | 100.0 | 5.6 |
| 特 別 損 失 | 2,000 | 0 | 2,000 | 0.0 | 0.0 |
| 予 備 費 | 3,000,000 | 0 | 3,000,000 | - | 0.0 |

決算額には、仮払消費税及び地方消費税7,540,585円、消費税及び地方消費税納付額20,497,300円を含む。

収益的収入の決算額は、423,081,214円で予算現額424,735,000円に対して1,653,786円（0.4%）の収入減となっており、収入減の主なものは、給水収益の減などによるものである。

また、収益的支出の決算額は、368,955,415円で予算現額374,329,000円に対して98.6%の執行率で、不用額は5,373,585円となっている。不用額の主なものは、総係費の1,528,319円などである。

(2) 資本的収入及び支出

《資本的収入》

(単位：円 %)

| 科目 \ 区分 | 予算現額 | 決算額 | 差引増減 | 執行率 | 構成比率 |
|----------|------------|------------|-----------|-------|-------|
| 資本的収入 | 26,271,000 | 33,021,660 | 6,750,660 | 125.7 | 100.0 |
| 工事負担金 | 0 | 6,497,930 | 6,497,930 | - | 19.7 |
| 固定資産売却代金 | 1,000 | 0 | 1,000 | 0.0 | 0.0 |
| 国庫補助金 | 26,270,000 | 26,523,730 | 253,730 | 101.0 | 80.3 |

《資本的支出》

(単位：円 %)

| 科目 \ 区分 | 予算現額 | 決算額 | 翌年度繰越額 | 不用額 | 執行率 | 構成比率 |
|---------|-------------|-------------|--------|-----------|-------|-------|
| 資本的支出 | 147,352,000 | 140,549,630 | 0 | 6,802,370 | 95.4 | 100.0 |
| 建設改良費 | 143,548,000 | 137,745,800 | 0 | 5,802,200 | 96.0 | 98.0 |
| 企業債償還金 | 2,804,000 | 2,803,830 | 0 | 170 | 100.0 | 2.0 |
| 予備費 | 1,000,000 | 0 | 0 | 1,000,000 | - | 0.0 |

決算額には、仮払消費税及び地方消費税12,522,345円を含む。

資本的収入の決算額は33,021,660円で、予算現額26,271,000円に対し125.7%の執行率となっている。

また、資本的支出の決算額は、140,549,830円で予算現額147,352,000円に対し95.4%の執行率で、不用額は6,802,370円となっている。不用額の主なものは、原水及び浄水設備費5,802,200円などである。

なお、資本的収入額が資本的支出額に不足する額107,527,970円は、2年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額9,520,377円、減債積立金2,803,830円、過年度分損益勘定留保資金95,203,763円で補てんされている。

(3) その他

予算第5条には、予定支出の各項の経費の金額の流用目的について定められているが、2年度の流用はなかった。

予算第6条には、流用を制限された職員給与費が12,572,000円と定められており、その支出額は12,037,221円となっている。なお、本条に抵触する流用はなかった。

3 経営成績

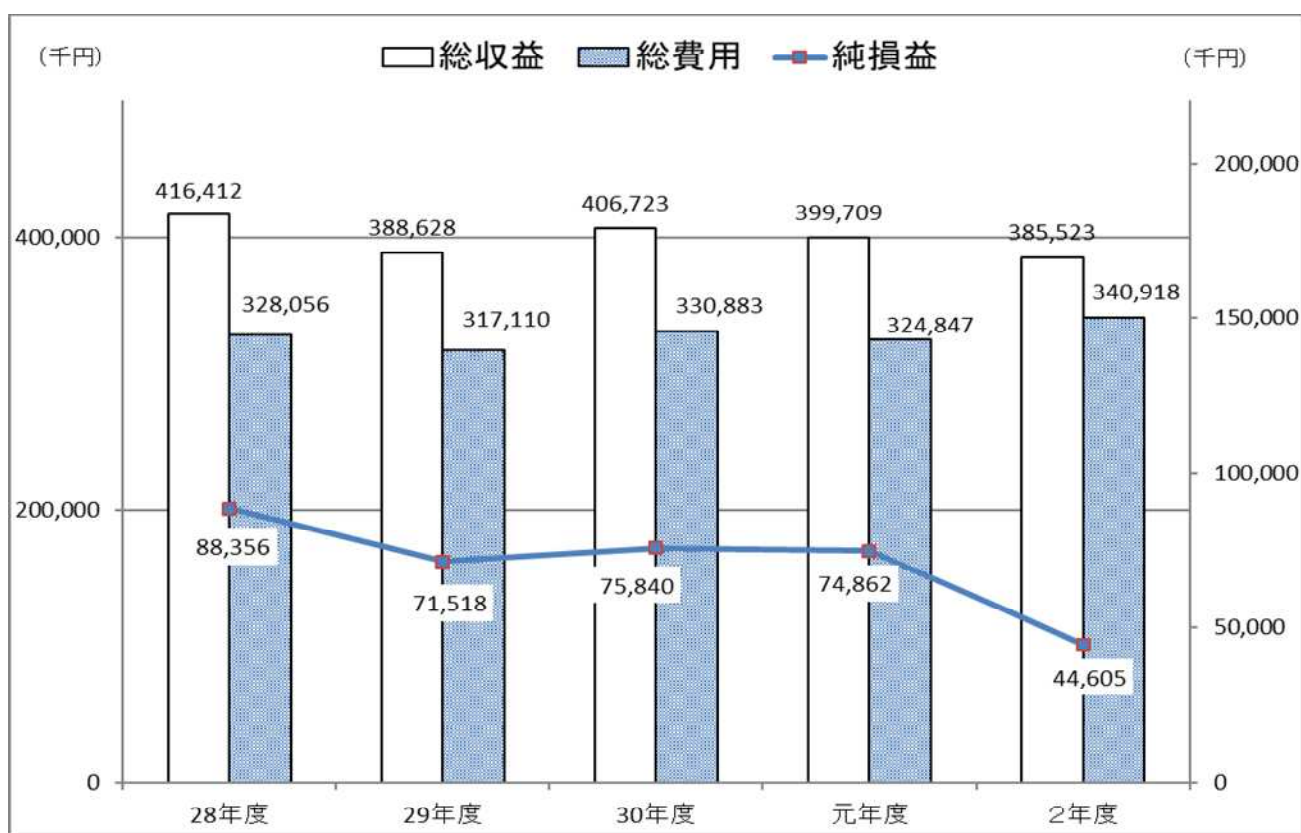
(1) 経営の概要

2年度の経営成績は、総収益385,522,952円に対して 総費用340,917,530円で、差し引き44,605,422円の純利益が生じている。元年度と比較すると、付表1及び2のとおりであるが、原子力損害賠償金の減などで、総収益14,186,177円(3.5%)の減、原水及び浄配水費の増などで、総費用16,070,104円(4.9%)の増となっている。

なお、企業活動の経済性を示す収益率については、次のとおりである。

・ 営業収支比率 $\frac{\text{営業収益}}{\text{営業費用}} \times 100 = 110.2\%$ (元年度 111.9%)

・ 総収支比率 $\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100 = 113.1\%$ (元年度 123.0%)



(2) 収益について

工水営業収益

工水営業収益の総額は、375,583,315円で、元年度と比較して12,401,489円(3.4%)の増で、元年度は、横川ダム渇水のため、節水実施に係る減免等による減収がなくなったことによるものである。総収益に占める割合は、97.4%(元年度90.9%)となっている。

工水営業外収益

工水営業外収益の総額は、9,939,637円で、元年度と比較して1,886,676円(23.4%)の増で、総収益に占める割合は、2.6%(元年度2.0%)となっている。これは、国庫補助金が増加したことなどによるものである。

特別利益

特別利益は、0円で、元年度の原子力損害賠償金28,474,342円が皆減となったことによるものである。

工水営業費用

工水営業費用の総額は、340,849,004円で、元年度と比較して16,159,055円(5.0%)の増で、総費用に占める割合は、99.98%(元年度99.9%)となっている。これは、原水及び浄配水費で、委託料、修繕費等が増加したことなどによるものである。

なお、職員給与費は12,032,865円で、工水営業費用に占める割合は3.5%(元年度4.2%)となっている。これは、退職給付費が減少したことなどによるものである。

工水営業外費用

工水営業外費用の総額は、68,526円で元年度と比較して88,951円(56.5%)の減で、総費用に占める割合は0.02%(元年度0.05%)となっている。これは、企業債利息が減少したことによるものである。

4 財政状態

2年度における資産、負債及び資本の変動状況は、付表3に示すとおりである。資産の総額と負債及び資本の合計は、8,354,946,859円で、元年度と比較して91,200,432円(1.1%)の増となっている。

(1) 資産

固定資産

固定資産は、5,496,113,732円で、元年度と比較して98,037,238円(1.8%)の減で、資産総額に占める割合は、65.8%(元年度67.7%)となっている。これは、機械及び装置24,755,121円(6.2%)増加したものの、構築物134,360,833円(3.0%)が減少したことなどによるものである。

流動資産

流動資産は、2,858,833,127円で、元年度と比較して189,237,670円(7.1%)の増で、資産総額に占める割合は、34.2%(元年度32.3%)となっている。これは、現金・預金211,504,752円(8.2%)が増加したことなどによるものである。

(2) 負債・資本

負債

負債は、312,581,927円で、元年度と比較して46,595,010円(17.5%)の増で、負債・資本合計に占める割合は、3.7%(元年度3.2%)となっている。これは、工事負担金、国庫補助金などの繰延収益49,229,213円(24.7%)が増加したことなどによるものである。

資本

資本は、8,042,364,932円で、元年度と比較して44,605,422円（0.6%）の増で、負債・資本合計に占める割合は、96.3%（元年度96.8%）となっている。これは、当年度純利益などにより利益剰余金41,890,543円（4.7%）が増加したことなどによるものである。

（3）資金の状況

キャッシュ・フロー計算書

（単位：円）

| 項 目 | 令和2年度 | 令和元年度 | 比較増減 |
|----------------------------|---------------|---------------|-------------|
| 1. 業務活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 当年度純利益 | 44,605,422 | 74,861,703 | 30,256,281 |
| 減価償却費 | 249,965,693 | 242,883,933 | 7,081,760 |
| 繰延勘定償却費 | 0 | 0 | 0 |
| 退職給付引当金の増減額（ は減少） | 0 | 842,000 | 842,000 |
| 賞与引当金の増減額（ は減少） | 23,000 | 26,000 | 3,000 |
| 法定福利費引当金の増減額（ は減少） | 32,000 | 126,000 | 94,000 |
| 長期前受金戻入額 | 9,530,479 | 7,627,982 | 1,902,497 |
| 受取利息及び配当金 | 384,454 | 411,741 | 27,287 |
| 支払利息 | 68,526 | 157,477 | 88,951 |
| 固定資産除却損 | 2,035,000 | 2,732,586 | 697,586 |
| 未収金の増減額（ は増加） | 4,555,155 | 24,140,001 | 19,584,846 |
| 未払金の増減額（ は減少） | 12,500,587 | 9,189,819 | 21,690,406 |
| たな卸資産の増減額（ は増加） | 0 | 3,914,940 | 3,914,940 |
| 特定収入消費税雑収益計上分控除 | 0 | 0 | 0 |
| 消費税特定収入圧縮記帳に伴う金額修正 | 3,001,968 | 3,791,067 | 789,099 |
| その他の流動資産の増減額 | | | |
| ・前払費用の増減額（ は増加） | 16,501 | 12,534 | 29,035 |
| その他流動負債の増減額 | | | |
| ・預り金の増減額（ は減少） | 4,160 | 4,220 | 8,380 |
| 小 計 | 300,783,821 | 320,598,905 | 19,815,084 |
| 受取利息及び配当金の受取額 | 384,454 | 411,741 | 27,287 |
| 利息の支払額 | 68,526 | 157,477 | 88,951 |
| 業務活動によるキャッシュ・フロー | 301,099,749 | 320,853,169 | 19,753,420 |
| 2. 投資活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | 125,223,455 | 182,508,186 | 57,284,731 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 0 | 903,249 | 903,249 |
| 国庫補助金による収入 | 26,523,730 | 34,454,281 | 7,930,551 |
| 工事負担金による収入 | 6,497,930 | 8,894,628 | 2,396,698 |
| 未収金の増減額（ は増加） | 17,728,428 | 44,252,158 | 61,980,586 |
| 未払金の増減額（ は減少） | 12,317,800 | 16,665,080 | 4,347,280 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 86,791,167 | 199,173,266 | 112,382,099 |
| 3. 財務活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 建設改良費等の財源に充てるための企業債償還による支出 | 2,803,830 | 2,714,879 | 88,951 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 2,803,830 | 2,714,879 | 88,951 |
| 資金増加額 | 211,504,752 | 118,965,024 | 92,539,728 |
| 資金期首残高 | 2,577,397,390 | 2,458,432,366 | 118,965,024 |
| 資金期末残高 | 2,788,902,142 | 2,577,397,390 | 211,504,752 |

資金は貸借対照表の資産のうち、現金・預金と一致する。

2年度末における資金（現金・預金）の残高は、2,788,902,142円で、年度期間中に211,504,752円増（元年度118,965,024円増）となっている。これは、当年度純利益、減価償却費等の内部留保資金など業務活動によるもので19,753,420円減少、有形固定資産の取得、未払金の支払など投資活動によるもので112,382,099円増加及び企業債償還など財務活動によるもので88,951円減少したことによるものである。

5 経営分析

企業の財政状態及び経営成績に対する判断の方法として経営分析があるが、これを付表4に示したので参照されたい。その概要については、次のとおりである。

(1) 構成比率

自己資本構成比率は99.23%（元年度99.19%）で、総資本に対する自己資本の割合を示し、企業経営上は、この比率が高い方が良いとされる。2年度末で企業債償還を完了し、企業債残高が0であること及び元年度を0.04ポイント上回っているのは、資本金、剰余金が増加したことによるものである。

(2) 財務比率

短期的支払能力を判定する流動比率18,735.88%（元年度14,919.94%）は、200%以上が理想比率とされ、また、当座資産と流動負債の対比から支払能力を判定する酸性試験比率18,683.93%（元年度14,875.73%）は、通常100%以上であることを理想としているが、これらの比率はいずれも高い数値となっている。

固定比率は、100%を下回っており、固定資産が自己資本等で調達されていること、酸性試験比率は、100%を大きく超えており、短期支払い能力が十分であることを示している。

(3) 回転率

未収金回転率10.26回（元年度7.13回）が3.13回上回っているのは、営業未収金が減少したことによるものである。

工業用水道事業は、多額の資本を要する事業であるため、年間の回転率が低いものとなっている。

(4) 収益率

総収益対総費用比率113.08%（元年度123.05%）は、100%を超えている。また、元年度を9.97ポイント下回っているのは、特別利益の原子力損害賠償金が減少したことによるものである。特別利益の原子力損害賠償金が減少したことによるものである。

6 むすび

令和2年度南相馬市工業用水道事業会計における決算の概要は、以上の記述のとおりである。

業務実績をみると、年間総給水量は12,081,500^mで元年度と比較して33,100^m（0.3%）減少しており、年間実使用水量は11,301,203^mで、元年度と比較して254,507^m（2.3%）増加している。なお、給水対象事業所は7社（元年度同）となっている。

令和2年度は、中長期施設等更新計画（アセットマネジメント計画）に基づき、導水管の更新に向けた詳細設計業務委託等を実施した。

また、経営成績では、総収益は385,522,952円となり、元年度と比較して14,186,177円（3.5%）の減少となった。この主な要因は、元年度に横川ダム湧水による各事業所の自主節水実施に係る減額を実施していたこと等もあり、給水収益が12,401,489円（3.4%）増加したものの、特別利益（原子力損害賠償金）28,474,342円が皆減となったことなどによるもので

ある。

一方、総費用は340,917,530円となり、元年度と比較して16,070,104円（4.9%）の増加となった。この主な要因は、工水営業費用の総係費10,523,143円（40.9%）が減少したものの、原水及び浄配水費20,298,024円（38.1%）が増加し、減価償却費7,081,760円（2.9%）が増加したことなどによるものである。その結果、収支差引44,605,422円の当年度純利益が生じた。

工業用水道事業は、給水先事業所を維持することにより、昨年に引き続き純利益を計上している。

財政運営においては、健全な状態を維持しているが、今後、施設の老朽化に伴い更新・耐震化事業が増加することを踏まえると、多額の投資が必要となることから、アセットマネジメント計画に基づき、更新に係る費用と財政状況を的確に把握し、健全な事業運営を維持していくことが求められる。

工業用水は、産業活動等に欠くことのできないインフラであり、突発的な事故等への備えを講じておくとともに、水の安定供給を継続するため、今後とも計画的かつ効率的な経営を行い、経営基盤を強化するよう努められたい。

工業用水道事業会計付表

損 益 計 算 年 度 比 較 表

(単位：円 %)

| 科目 | 年度 2 | 元 | 30 | 前年度 対 比 | す う 勢 比 率 | |
|---------------|-------------|-------------|-------------|------------|-----------|-------|
| | | | | | 2 | 元 |
| 工 水 営 業 収 益 | 375,583,315 | 363,181,826 | 377,403,113 | 103.4 | 99.5 | 96.2 |
| 工 水 営 業 外 収 益 | 9,939,637 | 8,052,961 | 8,318,893 | 123.4 | 119.5 | 96.8 |
| 特 別 利 益 | 0 | 28,474,342 | 21,000,747 | 皆減 | - | 135.6 |
| 総 収 益 | 385,522,952 | 399,709,129 | 406,722,753 | 96.5 | 94.8 | 98.3 |
| 工 水 営 業 費 用 | 340,849,004 | 324,689,949 | 329,498,175 | 105.0 | 103.4 | 98.5 |
| 工 水 営 業 外 費 用 | 68,526 | 157,477 | 1,384,805 | 43.5 | 4.9 | 11.4 |
| 特 別 損 失 | 0 | 0 | 0 | - | - | - |
| 総 費 用 | 340,917,530 | 324,847,426 | 330,882,980 | 104.9 | 103.0 | 98.2 |
| 当 年 度 純 損 益 | 44,605,422 | 74,861,703 | 75,839,773 | 59.6 | 58.8 | 98.7 |

すう勢比率は、平成30年度を100とした数値である。

比較損益計算書

(単位：円 %)

| 科目 | 年度 | 2 | | 元 | | 比較増減 | 前年度 |
|---------|-------------------|-------------|-------|-------------|-------|------------|-------|
| | | 金額(A) | 構成比 | 金額(B) | 構成比 | (A)-(B) | 対比 |
| 工水営業収益 | 給水収益 | 375,583,315 | 100.0 | 363,181,826 | 100.0 | 12,401,489 | 103.4 |
| | 他会計負担金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | 合計 | 375,583,315 | 100.0 | 363,181,826 | 100.0 | 12,401,489 | 103.4 |
| 工水営業費用 | 原水及び浄配水費 | 73,617,910 | 21.6 | 53,319,886 | 16.5 | 20,298,024 | 138.1 |
| | 総係費 | 15,230,401 | 4.5 | 25,753,544 | 7.9 | 10,523,143 | 59.1 |
| | 減価償却費 | 249,965,693 | 73.3 | 242,883,933 | 74.8 | 7,081,760 | 102.9 |
| | 資産減耗費 | 2,035,000 | 0.6 | 2,732,586 | 0.8 | 697,586 | 74.5 |
| | 合計 | 340,849,004 | 100.0 | 324,689,949 | 100.0 | 16,159,055 | 105.0 |
| 営業損益 | | 34,734,311 | - | 38,491,877 | - | 3,757,566 | 90.2 |
| 工水営業外収益 | 受取利息及び配当金 | 384,454 | 3.9 | 411,741 | 5.1 | 27,287 | 93.4 |
| | 長期前受金戻入 | 9,530,479 | 95.9 | 7,627,982 | 94.7 | 1,902,497 | 124.9 |
| | 雑収益 | 24,704 | 0.2 | 13,238 | 0.2 | 11,466 | 186.6 |
| | 合計 | 9,939,637 | 100.0 | 8,052,961 | 100.0 | 1,886,676 | 123.4 |
| 工水営業外費用 | 支払利息及び 企業債取扱諸費 | 68,526 | 100.0 | 157,477 | 100.0 | 88,951 | 43.5 |
| | 雑支出 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | 繰延勘定償却 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | 合計 | 68,526 | 100.0 | 157,477 | 100.0 | 88,951 | 43.5 |
| 経常利益 | | 44,605,422 | - | 46,387,361 | - | 1,781,939 | 96.2 |
| 特別利益 | | 0 | - | 28,474,342 | - | 28,474,342 | 皆減 |
| 特別損失 | | 0 | - | 0 | - | 0 | - |
| 当年度純利益 | | 44,605,422 | - | 74,861,703 | - | 30,256,281 | 59.6 |

比較貸借対照表

(単位：円 %))

| 科目 | 年度 | 2 | | 元 | | 比較増減 (A) - (B) | 前年度 対比 | |
|---------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-------------------|-------------|-------|
| | | 金額(A) | 構成比 | 金額(B) | 構成比 | | | |
| 資産 | 固定資産 | 土地 | 435,083,668 | 5.2 | 435,083,668 | 5.3 | 0 | 100.0 |
| | | 建物 | 71,705,557 | 0.9 | 75,675,083 | 0.9 | 3,969,526 | 94.8 |
| | | 構築物 | 4,416,405,397 | 52.9 | 4,550,766,230 | 55.1 | 134,360,833 | 97.0 |
| | | 機械及び装置 | 421,700,345 | 5.0 | 396,945,224 | 4.8 | 24,755,121 | 106.2 |
| | | 車両運搬具 | 48,950 | 0.0 | 48,950 | 0.0 | 0 | 100.0 |
| | | 工具、器具及び備品 | 209,930 | 0.0 | 209,930 | 0.0 | 0 | 100.0 |
| | | リース資産 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | 建設仮勘定 | 115,583,000 | 1.4 | 100,045,000 | 1.2 | 15,538,000 | 115.5 |
| | | 計 | 5,460,736,847 | 65.4 | 5,558,774,085 | 67.3 | 98,037,238 | 98.2 |
| | 無形固定資産 | 35,376,885 | 0.4 | 35,376,885 | 0.5 | 0 | 100.0 | |
| | 固定資産計 | 5,496,113,732 | 65.8 | 5,594,150,970 | 67.8 | 98,037,238 | 98.2 | |
| | 流動資産 | 現金・預金 | 2,788,902,142 | 33.4 | 2,577,397,390 | 31.2 | 211,504,752 | 108.2 |
| | | 未収金 | 62,004,370 | 0.7 | 84,287,953 | 1.0 | 22,283,583 | 73.6 |
| 貯蔵品 | | 7,536,140 | 0.1 | 7,536,140 | 0.0 | 0 | 100.0 | |
| 前払費用 | | 390,475 | 0.0 | 373,974 | 0.0 | 16,501 | 104.4 | |
| 前払金 | | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - | |
| 未収収益 | | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - | |
| その他流動資産 | | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - | |
| 流動資産計 | | 2,858,833,127 | 34.2 | 2,669,595,457 | 32.2 | 189,237,670 | 107.1 | |
| 繰延勘定 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - | | |
| 資産合計 | 8,354,946,859 | 100.0 | 8,263,746,427 | 100.0 | 91,200,432 | 101.1 | | |

| 科目 | | 年度 | 2 | | 元 | | 比較増減 | 前年度 |
|---------|---------|---------------|------------|---------------|------------|-------------|-----------|------------|
| | | | 金額(A) | 構成比 | 金額(A) | 構成比 | (A)-(B) | 対比 |
| 負債・資本の部 | 固定負債 | 企業債 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | 他会計借入金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | リース債務 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | 引当金 | 48,860,416 | 0.6 | 48,860,416 | 0.6 | 0 | 100.0 |
| | | その他固定負債 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | 計 | 48,860,416 | 0.6 | 48,860,416 | 0.6 | 0 | 100.0 |
| | 流動負債 | 一時借入金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | 企業債 | 0 | 0.0 | 2,803,830 | 0.0 | 2,803,830 | 皆減 |
| | | 他会計借入金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | リース債務 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | 未払金 | 14,183,809 | 0.2 | 14,001,022 | 0.2 | 182,787 | 101.3 |
| | | 未払費用 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | 前受金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | 前受収益 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | 引当金 | 1,026,000 | 0.0 | 1,035,000 | 0.0 | 9,000 | 99.1 |
| | | 預り金 | 48,790 | 0.0 | 52,950 | 0.0 | 4,160 | 92.1 |
| | | その他流動負債 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | 計 | 15,258,599 | 0.2 | 17,892,802 | 0.2 | 2,634,203 | 85.3 |
| | | | 繰延収益 | 248,462,912 | 3.0 | 199,233,699 | 2.4 | 49,229,213 |
| | 負債合計 | 312,581,927 | 3.7 | 265,986,917 | 3.2 | 46,595,010 | 117.5 | |
| | 資本金 | 7,073,201,272 | 84.7 | 7,070,486,393 | 85.6 | 2,714,879 | 100.0 | |
| 剰余金 | 資本剰余金 | 30,233,298 | 0.4 | 30,233,298 | 0.4 | 0 | 100.0 | |
| | 利益剰余金 | 938,930,362 | 11.2 | 897,039,819 | 10.8 | 41,890,543 | 104.7 | |
| | 計 | 969,163,660 | 11.6 | 927,273,117 | 11.2 | 41,890,543 | 104.5 | |
| | 資本合計 | 8,042,364,932 | 96.3 | 7,997,759,510 | 96.8 | 44,605,422 | 100.6 | |
| | 負債・資本合計 | 8,354,946,859 | 100.0 | 8,263,746,427 | 100.0 | 91,200,432 | 101.1 | |

經 營 分 析 比 較 表

(単 位 : % , 回)

| 分 析 項 目 | 算 式 | 2 | 元 | 30 | |
|------------|--------------|---|--|-----------|----------|
| 構 成 比 率 | 1 固定資産構成比率 | $\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}} \times 100$ (総資産 = 固定資産 + 流動資産 + 繰延勘定) | 65.78 | 67.70 | 69.13 |
| | 2 固定負債構成比率 | $\frac{\text{固定負債}}{\text{総資本}} \times 100$ (総資本 = 負債 + 資本) | 0.58 | 0.59 | 0.62 |
| | 3 自己資本構成比率 | $\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{繰延収益}}{\text{総資本}} \times 100$ | 99.23 | 99.19 | 98.84 |
| 財 務 比 率 | 4 固定資産対長期資本比 | $\frac{\text{固定資産}}{\text{固定負債} + \text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}} \times 100$ | 65.90 | 67.84 | 69.50 |
| | 5 固定比率 | $\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{繰延収益}} \times 100$ | 66.29 | 68.25 | 69.94 |
| | 6 流動比率 | $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$ | 18,735.88 | 14,919.94 | 5,774.52 |
| | 7 酸性試験比率 | $\frac{\text{現金預金} + (\text{未収金} - \text{貸倒引当金})}{\text{流動負債}} \times 100$ | 18,683.93 | 14,875.73 | 5,765.36 |
| | 8 現金比率 | $\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$ | 18,277.58 | 14,404.66 | 5,618.69 |
| | 回 転 率 | 9 総資本回転率 | $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{平均総資本}}$ | 0.05 | 0.04 |
| 10 自己資本回転率 | | $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{平均自己資本}}$ | 0.05 | 0.05 | 0.05 |
| 11 固定資産回転率 | | $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{平均固定資産}}$ | 0.07 | 0.06 | 0.07 |
| 12 流動資産回転率 | | $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{平均流動資産}}$ | 0.14 | 0.14 | 0.16 |
| 13 現金預金回転率 | | $\frac{\text{当年度支出額}}{\text{平均現金預金}}$ | 0.10 | 0.13 | 0.09 |
| 14 未収金回転率 | | $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{平均営業未収金}}$ | 10.26 | 7.13 | 6.46 |

| 説 | 明 |
|----|--|
| 1 | 資産総額に対する固定資産の百分率で、公営企業においては流動資産の額が小さいため、この率は必然的に大きくなる。 |
| 2 | 総資本に占める固定負債の百分率で、公営企業の場合は、設備投資を全面的に企業債に依存しているため、この率は大きくなる。 |
| 3 | 総資本に占める自己資本の割合を示すものであり、この比率が高いほど経営が安定している。 |
| 4 | 固定資産のうち、自己資本（自己資本金＋剰余金）と長期借入金（借入資本金＋固定負債）によって調達されている部分がどれだけあるかを示すのであり、一般に100%以下、かつ低いことが望ましい。 |
| 5 | 自己資本金に対する固定資産の百分率で、一般に100%以下が望ましいとされているが、公営企業のように設備投資を企業債に依存する企業では、この率は必然的に大きくなる。 |
| 6 | 流動比率は、1年以内に現金化できる資産と、1年以内に返済すべき負債とを比較するもので、短期支払能力を判定するために利用される。 |
| 7 | 流動資産のうち現金預金及び未収金などの当座資産と流動負債を対比させたもので、通常100%以上であれば良いとされている。 |
| 8 | 流動負債に対する現金預金の百分率で、当座の支払能力をみるために計算される。 |
| 9 | 総資本が1年間に何回転したかを表すもので、資本の利用度を表すものである。したがって、この率は、高いほうが良い。 |
| 10 | 資本金が1年間に何回転したかを表すもので、資本金の利用度を表すものである。 |
| 11 | 固定資産が1年間に何回転したかを表すもので、固定資産の利用度を表すものである。 |
| 12 | 流動資産が1年間に何回転したかを表すものである。 |
| 13 | 現金預金が1年間に何回転したかを表すものである。この率が大きくなることは、それだけ現金預金保有高が経営規模に比して小さいことを示す。 |
| 14 | 未収金が1年間に何回転したかを表すものである。 |

（注）算式に用いた用語は次のとおりである。

・平均 = (期首+期末) / 2

| 分 析 項 目 | | 算 式 | 2 | 元 | 30 |
|--------------------------|--|---|---------|---------|---------|
| 15 | 減 価 償 却 率 | 当年度減価償却費 | | | |
| | | $\frac{\text{期末償却資産} + \text{当年度減価償却費}}{\{ \text{期末償却資産} = \text{固定資産} - (\text{土地} + \text{建設仮勘定}) \}}$ | 0.05 | 0.05 | 0.05 |
| 16 17 18 19 | 総 資 本 利 益 率 | 当年度純利益 | | | |
| | | $\frac{\text{当年度純利益}}{\text{平均総資本}} \times 100$ | 0.54 | 0.91 | 0.93 |
| | 総 収 益 対 総 費 用 比 率 | 総収益 | | | |
| | | $\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$ | 113.08 | 123.05 | 122.92 |
| 営 業 収 益 対 営 業 費 用 比 率 | 営業収益-受託工事収益 | | | | |
| | $\frac{\text{営業収益-受託工事収益}}{\text{営業費用-受託工事費用}} \times 100$ | 110.19 | 111.85 | 114.54 | |
| 19 | 経 営 資 本 営 業 率 | 営業利益 | | | |
| | | $\frac{\text{営業利益}}{\text{経営資本}} \times 100$ (経営資本 = 総資本 - (建設仮勘定 + 投資その他の資産 + 繰延勘定)) | 0.42 | 0.47 | 0.59 |
| 20 | 利 子 負 担 率 | 支払利息+企業債取扱諸費 | | | |
| | | $\frac{\text{支払利息} + \text{企業債取扱諸費}}{\text{企業債} + \text{長期借入金} + \text{一時借入金} + \text{リース債務}} \times 100$ | 0.00 | 5.62 | 4.41 |
| 21 | 職 員 一 人 当 たり 営 業 収 益 | 営業収益 | 千円 | 千円 | 千円 |
| | | 損益勘定所属職員数 | 187,792 | 181,591 | 188,702 |

| 説 | 明 |
|----|--|
| 15 | 償却資産が1年間にどれだけ償却されているかを表すものである。 |
| 16 | 総資本の何%に当たる利益を上げたか、つまり企業の収益性を表すものである。損失が生じた場合は負数()となる。 |
| 17 | 総収益が総費用の何%に当たるかを表すものである。 |
| 18 | 営業収益が営業費用の何%に当たるかを表すものである。 |
| 19 | 経営資本営業利益率は、本来の営業活動に投下されている経営資本と、本来の営業活動から生み出される営業利益の比率であり、この比率は高い方が良い。 |
| 20 | 損益計算書が示す借入資本利子と、貸借対照表に示された借入資本金とを比較することにより、利子率を計算したものである。 |
| 21 | 職員一人当たりどの位の営業収益を上げたかを表すものである。 |

(注) 算式に用いた用語は次のとおりである。

・平均 = (期首+期末) / 2

下水道事業会計

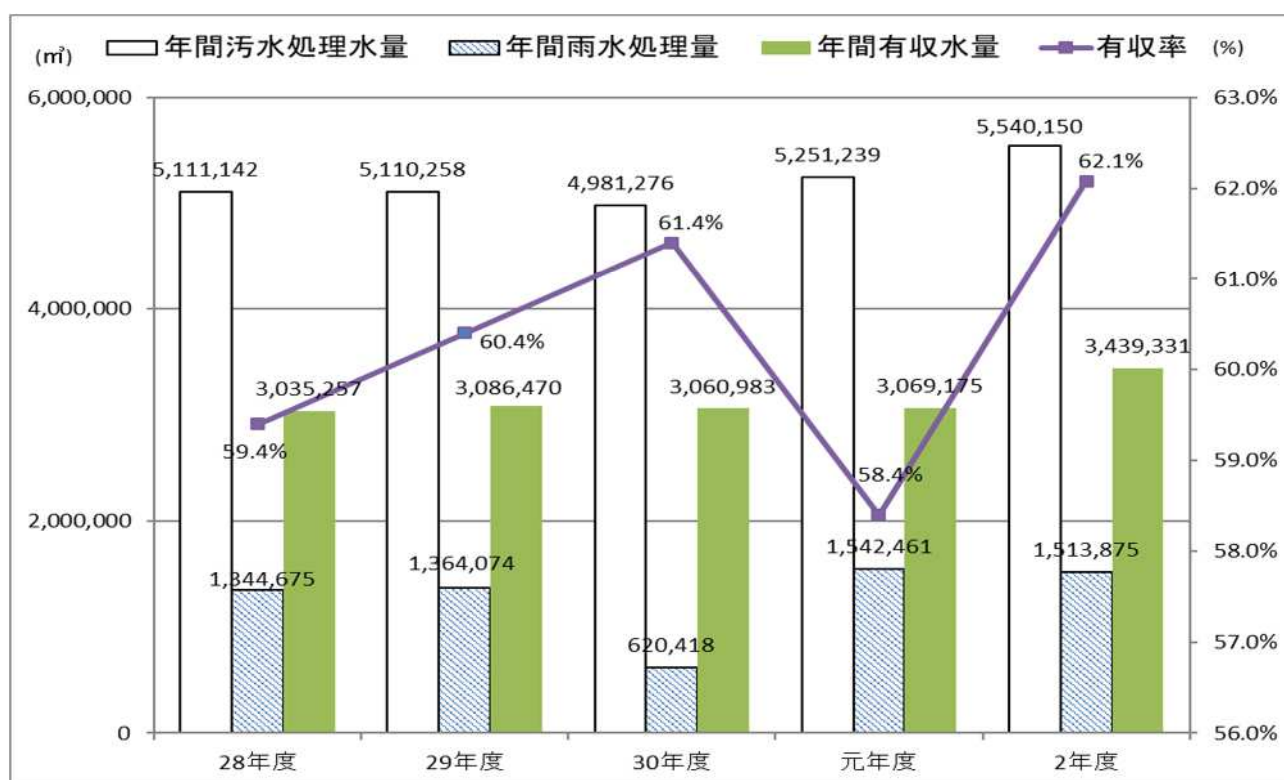
1 業務の実績

(1) 業務量

令和2年度末における水洗便所設置済人口は、33,766人で、業務予定の34,151人に対して385人(1.1%)の減、元年度実績と比較して3,114人(10.2%)の増となっている。

また、年間総処理水量は、7,054,025^mで、業務予定の7,121,000^mに対して66,975^m(0.9%)の減、元年度実績と比較して260,325^m(3.8%)の増となっている。一日平均処理水量は、19,326^mで、業務予定の19,510^mに対して184^m(0.9%)の減、元年度と比較して764^m(4.1%)の増となっている。普及率は、62.5%で、元年度と比較して6.6ポイントの増、水洗化率は92.0%で、元年度と比較して0.3ポイントの減となっている。業務量の状況を元年度と比較すると次のとおりである。

| 区分 | 年度等 | 令和2年度 | 令和元年度 | 比較増減 | 前年度対比 |
|-----------|-----|------------------------|------------------------|----------------------|--------|
| 行政区域内人口 | | 58,703人 | 59,460人 | 757人 | 98.7% |
| 処理区域内人口 | | 36,700人 | 33,227人 | 3,473人 | 110.5% |
| 普及率 | | 62.5% | 55.9% | 6.6ポイント | 111.8% |
| 水洗便所設置済人口 | | 33,766人 | 30,652人 | 3,114人 | 110.2% |
| 水洗便所設置済戸数 | | 16,358戸 | 15,091戸 | 1,267戸 | 108.4% |
| 水洗化率 | | 92.0% | 92.3% | 0.3ポイント | 99.7% |
| 年間総処理水量 | | 7,054,025 ^m | 6,793,700 ^m | 260,325 ^m | 103.8% |
| 汚水処理水量 | | 5,540,150 ^m | 5,251,239 ^m | 288,911 ^m | 105.5% |
| 雨水処理水量 | | 1,513,875 ^m | 1,542,461 ^m | 28,586 ^m | 98.1% |
| 一日平均処理水量 | | 19,326 ^m | 18,562 ^m | 764 ^m | 104.1% |
| 有収水量 | | 3,439,331 ^m | 3,069,175 ^m | 370,156 ^m | 112.1% |
| 有収率 | | 62.1% | 58.4% | 3.7ポイント | 106.3% |



2 予算の執行状況

(1) 収益的収入及び支出

《収益的収入》

(単位：円 %)

| 区 分 科 目 | 予 算 現 額 | 決 算 額 | 差 引 増 減 | 執行率 | 構 成 比 率 |
|---------------------|---------------|---------------|-----------|-------|------------|
| 公共下水道事業収益 | 1,674,613,000 | 1,679,033,049 | 4,420,049 | 100.3 | 87.4 |
| 営業収益 | 639,591,000 | 641,307,437 | 1,716,437 | 100.3 | 33.4 |
| 営業外収益 | 959,742,000 | 963,758,994 | 4,016,994 | 100.4 | 50.2 |
| 特別利益 | 75,280,000 | 73,966,618 | 1,313,382 | 98.3 | 3.8 |
| 特定環境保全 公共下水道事業収益 | 64,612,000 | 64,489,234 | 122,766 | 99.8 | 3.4 |
| 営業収益 | 16,304,000 | 16,182,059 | 121,941 | 99.3 | 0.8 |
| 営業外収益 | 47,070,000 | 47,070,493 | 493 | 100.0 | 2.5 |
| 特別利益 | 1,238,000 | 1,236,682 | 1,318 | 99.9 | 0.1 |
| 農業集落排水 事業収益 | 176,704,000 | 177,784,814 | 1,080,814 | 100.6 | 9.2 |
| 営業収益 | 47,224,000 | 48,284,598 | 1,060,598 | 102.2 | 2.5 |
| 営業外収益 | 129,477,000 | 129,500,216 | 23,216 | 100.0 | 6.7 |
| 特別利益 | 3,000 | 0 | 3,000 | 0.0 | 0.0 |
| 収益的収入合計 | 1,915,929,000 | 1,921,307,097 | 5,378,097 | 100.3 | 100.0 |

決算額には、仮受消費税及び地方消費税52,075,190円、還付消費税及び地方消費税16,437,180円を含む。

《収益的支出》

(単位：円 %)

| 区 分 科 目 | 予 算 現 額 | 決 算 額 | 翌年度繰越額 | 不 用 額 | 執行率 | 構 成 比 率 |
|-----------------|---------------|---------------|--------|------------|-------|------------|
| 小高区公共下水道事業費用 | 186,364,000 | 180,581,218 | 0 | 5,782,782 | 96.9 | 10.8 |
| 営業費用 | 160,413,000 | 155,637,552 | 0 | 4,775,448 | 97.0 | 9.3 |
| 営業外費用 | 24,898,000 | 24,894,990 | 0 | 3,010 | 100.0 | 1.5 |
| 特別損失 | 52,000 | 48,676 | 0 | 3,324 | 93.6 | 0.0 |
| 予備費 | 1,000,000 | 0 | 0 | 1,000,000 | 0.0 | 0.0 |
| 返還金 | 1,000 | 0 | 0 | 1,000 | 0.0 | 0.0 |
| 鹿島区公共下水道事業費用 | 224,711,000 | 219,463,276 | 0 | 5,247,724 | 97.7 | 13.1 |
| 営業費用 | 192,771,000 | 188,577,276 | 0 | 4,193,724 | 97.8 | 11.3 |
| 営業外費用 | 30,888,000 | 30,884,680 | 0 | 3,320 | 100.0 | 1.8 |
| 特別損失 | 52,000 | 1,320 | 0 | 50,680 | 2.5 | 0.0 |
| 予備費 | 1,000,000 | 0 | 0 | 1,000,000 | 0.0 | 0.0 |
| 原町区公共下水道事業費用 | 1,058,525,000 | 1,029,281,940 | 0 | 29,243,060 | 97.2 | 61.7 |
| 営業費用 | 954,429,000 | 933,344,829 | 0 | 21,084,171 | 97.8 | 56.0 |
| 営業外費用 | 100,857,000 | 95,607,613 | 0 | 5,249,387 | 94.8 | 5.7 |
| 特別損失 | 502,000 | 329,498 | 0 | 172,502 | 65.6 | 0.0 |
| 予備費 | 2,737,000 | 0 | 0 | 2,737,000 | 0.0 | 0.0 |
| 特定環境保全公共下水道事業費用 | 57,863,000 | 53,687,313 | 0 | 4,175,687 | 92.8 | 3.3 |
| 営業費用 | 52,411,000 | 49,340,817 | 0 | 3,070,183 | 94.1 | 3.0 |
| 営業外費用 | 4,400,000 | 4,346,496 | 0 | 53,504 | 98.8 | 0.3 |
| 特別損失 | 52,000 | 0 | 0 | 52,000 | 0.0 | 0.0 |
| 予備費 | 1,000,000 | 0 | 0 | 1,000,000 | 0.0 | 0.0 |
| 農業集落排水事業費用 | 192,487,000 | 184,133,658 | 0 | 8,353,342 | 95.7 | 11.1 |
| 営業費用 | 174,771,000 | 169,420,683 | 0 | 5,350,317 | 96.9 | 10.2 |
| 営業外費用 | 16,664,000 | 14,700,401 | 0 | 1,963,599 | 88.2 | 0.9 |
| 特別損失 | 52,000 | 12,574 | 0 | 39,426 | 24.2 | 0.0 |
| 予備費 | 1,000,000 | 0 | 0 | 1,000,000 | 0.0 | 0.0 |
| 収益的支出合計 | 1,719,950,000 | 1,667,147,405 | 0 | 52,802,595 | 96.9 | 100.0 |

決算額には、仮払消費税及び地方消費税36,629,287円、確定消費税及び地方消費税847,494円を含む。

収益的収入の決算額は1,921,307,097円で予算現額1,915,929,000円に対して5,378,097円(0.3%)の収入増となっており、その主な要因は、消費税及び地方消費税還付金が増加したことなどによるものである。

また、収益的支出の決算額は、1,667,147,405円で予算現額1,719,950,000円に対して96.9%の執行率となり、不用額は52,802,595円となっている。不用額の主なものは、原町区公共下水道事業処理場費16,071,937円、原町区公共下水道事業消費税及び地方消費税5,000,000円などである。

(2) 資本の収入及び支出

《資本の収入》

(単位：円%)

| 区 分 科 目 | 予 算 現 額 | 決 算 額 | 差 引 増 減 | 執 行 率 | 構 成 率 |
|--|---------------|---------------|-------------|-------|-------|
| 公 共 下 水 道 事 業 資 本 的 収 入 | 1,555,400,000 | 1,035,986,260 | 519,413,740 | 66.6 | 91.3 |
| 企 業 債 | 888,200,000 | 642,150,000 | 246,050,000 | 72.3 | 56.6 |
| 固 定 資 産 売 却 代 金 | 1,000 | 0 | 1,000 | 0.0 | 0.0 |
| 負 担 金 | 50,069,000 | 50,756,260 | 687,260 | 101.4 | 4.5 |
| 補 助 金 | 541,480,000 | 267,430,000 | 274,050,000 | 49.4 | 23.5 |
| 出 資 金 | 75,650,000 | 75,650,000 | 0 | 100.0 | 6.7 |
| 特 定 環 境 保 全 公 共 下 水 道 事 業 資 本 的 収 入 | 26,689,000 | 26,688,000 | 1,000 | 100.0 | 2.3 |
| 固 定 資 産 売 却 代 金 | 1,000 | 0 | 1,000 | 0.0 | 0.0 |
| 出 資 金 | 26,688,000 | 26,688,000 | 0 | 100.0 | 2.3 |
| 農 業 集 落 排 水 事 業 資 本 的 収 入 | 72,366,000 | 72,512,000 | 146,000 | 100.2 | 6.4 |
| 企 業 債 | 27,400,000 | 27,400,000 | 0 | 100.0 | 2.4 |
| 固 定 資 産 売 却 代 金 | 1,000 | 0 | 1,000 | 0.0 | 0.0 |
| 負 担 金 | 1,026,000 | 1,173,000 | 147,000 | 114.3 | 0.1 |
| 補 助 金 | 9,000,000 | 9,000,000 | 0 | 100.0 | 0.8 |
| 出 資 金 | 34,939,000 | 34,939,000 | 0 | 100.0 | 3.1 |
| 資 本 的 収 入 合 計 | 1,654,455,000 | 1,135,186,260 | 519,268,740 | 68.6 | 100.0 |

《資本の支出》

(単位：円%)

| 区 分 科 目 | 予 算 現 額 | 決 算 額 | 翌 年 度 繰 越 額 | 不 用 額 | 執 行 率 | 構 成 率 |
|--|---------------|---------------|-------------|------------|-------|-------|
| 公 共 下 水 道 事 業 資 本 的 支 出 | 2,183,029,000 | 1,580,985,039 | 583,520,000 | 18,523,961 | 72.4 | 90.5 |
| 建 設 改 良 費 | 1,376,074,000 | 774,684,629 | 583,520,000 | 17,869,371 | 56.3 | 44.3 |
| 企 業 債 償 還 金 | 806,301,000 | 806,300,410 | 0 | 590 | 100.0 | 46.2 |
| 予 備 費 | 653,000 | 0 | 0 | 653,000 | 0.0 | 0.0 |
| 返 還 金 | 1,000 | 0 | 0 | 1,000 | 0.0 | 0.0 |
| 特 定 環 境 保 全 公 共 下 水 道 事 業 資 本 的 支 出 | 43,297,000 | 43,295,885 | 0 | 1,115 | 100.0 | 2.5 |
| 企 業 債 償 還 金 | 43,296,000 | 43,295,885 | 0 | 115 | 100.0 | 2.5 |
| 返 還 金 | 1,000 | 0 | 0 | 1,000 | 0.0 | 0.0 |
| 農 業 集 落 排 水 事 業 資 本 的 支 出 | 124,610,000 | 122,512,827 | 0 | 2,097,173 | 98.3 | 7.0 |
| 建 設 改 良 費 | 17,213,000 | 16,118,101 | 0 | 1,094,899 | 93.6 | 0.9 |
| 企 業 債 償 還 金 | 106,393,000 | 106,392,030 | 0 | 970 | 100.0 | 6.1 |
| 予 備 費 | 1,000,000 | 0 | 0 | 1,000,000 | 0.0 | 0.0 |
| 返 還 金 | 1,000 | 0 | 0 | 1,000 | 0.0 | 0.0 |
| 積 立 金 | 3,000 | 2,696 | 0 | 304 | 89.9 | 0.0 |
| 資 本 的 支 出 合 計 | 2,350,936,000 | 1,746,793,751 | 583,520,000 | 20,622,249 | 74.3 | 100.0 |

決算額には、仮払消費税及び地方消費税68,829,615円を含む。

資本的収入の決算額は、1,135,186,260円で予算現額1,654,455,000円に対し519,268,740円(31.4%)の収入減となっている。

資本的支出の決算額は、1,746,793,751円で予算現額2,350,936,000円に対し74.3%の執行率となり、翌年度繰越額583,520,000円を差し引いた不用額は20,622,249円となっている。

なお、資本的収入額が資本的支出額に不足する額611,607,491円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額41,949,673円、過年度分損益勘定留保資金306,219,204円、当年度分損益勘定留保資金263,438,614円で補てんされている。

(3) その他

予算第5条には、債務負担行為をすることができる事項、期間及び限度額を定めているが、予算に定められた事項、期間及び限度額の範囲で行われている。

| 事 項 | 期 間 | 限度額 |
|-------------------------------|--------------------|---|
| 排水設備設置工事資金利子補給金 (令和2年度貸付分) | 令和3年度から 令和7年度まで | 借入期間中における融資残高に対し約定利率により計算した利子相当額 |
| 同上損失補償 (令和2年度貸付分) | 令和3年度から 令和7年度まで | 融資元本の最終償還期限後、約定に基づく期限を経過してもなお元本及び遅延利子の全部又は一部が回収されなかった場合における当該回収されなかった金額 |
| 南相馬市水道料金徴収等業務委託 | 令和3年度から 令和7年度まで | 受託事業者との契約額 |

予算第6条には、企業債の借入目的、限度額等が定められており、2年度の借入額は、669,550,000円であった。

企業債の借入状況

| 起債の目的 | 限度額 | 借入額 |
|---|--------------|--------------|
| 公共下水道事業 | 530,700,000円 | 285,450,000円 |
| 資本費平準化 (公共下水道事業) | 161,500,000円 | 161,500,000円 |
| 資本費平準化 (農業用集落排水事業) | 27,400,000円 | 27,400,000円 |
| 下水道事業 (特別措置分) | 57,400,000円 | 57,400,000円 |
| 下水道事業 (借換債) 地方公営企業法第26条の規定 によるもの | 137,800,000円 | 137,800,000円 |

予算第7条には、一時借入金の限度額が100,000,000円と定められているが、2年度中の借入は行われなかった。なお、一時借入金285,450,000円は企業債の前借りによるもので、実質的には企業債であるため、予算7条の一時借入金の限度額の制約は受けない。

予算第8条には、予定支出の各項の経費の金額を流用することができる場合を定められているが、2年度の流用はなかった。

予算第9条には、流用を制限された職員給与費が89,658,000円と定められており、その支出額は86,815,417円となっている。なお、本条に抵触する流用はなかった。

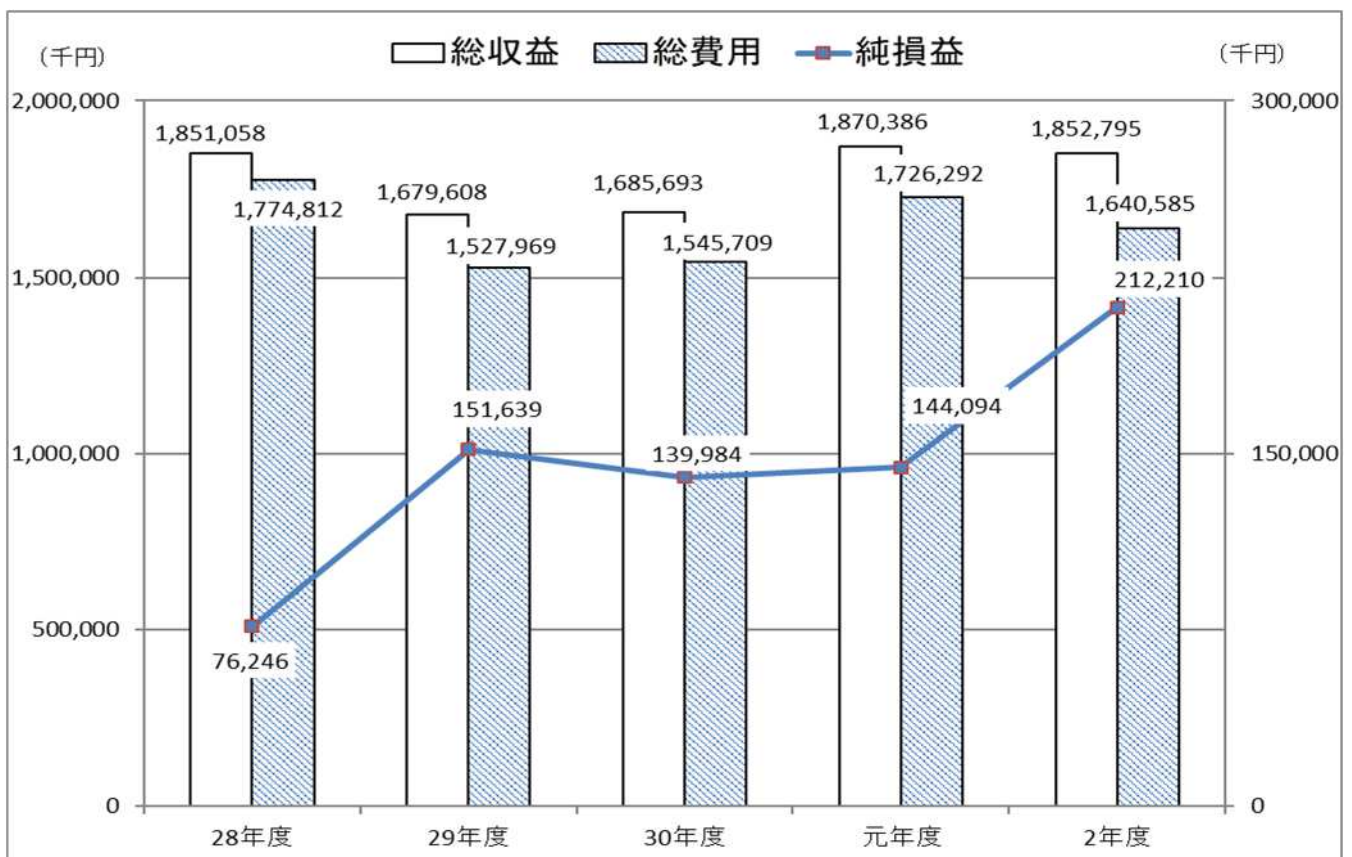
3 経営成績

(1) 経営の概要

2年度の経営成績は、総収益1,852,794,727円に対して総費用1,640,584,708円で、差し引き212,210,019円の純利益が生じている。

なお、企業活動の経済性を示す収益率については、次のとおりである。

- ・ 営業収支比率 $\frac{\text{営業収益}}{\text{営業費用}} \times 100 = 44.8\%$ (元年度 45.7%)
- ・ 総収支比率 $\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100 = 112.9\%$ (元年度 108.3%)



(2) 収益について

営業収益

営業収益の総額は、653,699,376円で、元年度と比較して41,701,960円(6.8%)の増で、総収益に占める割合は、35.3%(元年度32.7%)となっている。これは、下水道使用料50,345,960円(10.7%)が増加したことなどによるものである。

収入済額は570,635,156円で、元年度と比較して63,157,547円(12.4%)の増となって

おり、収入率は84.6%と元年度と比較して0.1ポイントの増となっている。

営業外収益

営業外収益の総額は、1,123,892,051円で、元年度と比較して24,542,087円(2.1%)の減で、総収益に占める割合は、60.7%(元年度61.4%)となっている。これは他会計負担金51,300,832円(10.6%)が増加したものの、長期前受金戻入75,795,392円(11.4%)が減少したことなどによるものである。

特別利益

特別利益の総額は、75,203,300円で元年度と比較して34,751,691円(31.6%)の減で、総収益に占める割合は、4.1%(元年度5.9%)となっている。これは、その他特別利益(原子力損害賠償金)34,721,688円(31.6%)が減少したことなどによるものである。

営業費用

営業費用の総額は、1,459,704,606円で、元年度と比較して119,838,940円(8.9%)の増で、総費用に占める割合は、89.0%(元年度77.6%)となっている。これは、資産減耗費23,795,543円(90.2%)が減少したものの、処理場費30,129,211円(10.3%)、減価償却費116,323,463円(12.8%)が増加したことなどによるものである。

なお、職員給与費は、58,411,799円で、元年度と比較して8,506,281円(17.0%)増加しており、営業費用に占める割合は4.0%(元年度3.7%)となっている。

営業外費用

営業外費用の総額は、180,500,770円で、元年度と比較して4,324,939円(2.3%)の減で、総費用に占める割合は11.0%(元年度10.7%)となっている。これは支払利息及び企業債取扱諸費1,782,863円(1.0%)、雑支出2,582,076円(19.1%)が減少したことなどによるものである。

特別損失

特別損失の総額は379,332円で元年度と比較して201,221,438円(99.8%)の減で、総費用に占める割合は0.02%(元年度11.7%)となっている。これはその他特別損失130,210,922円(皆減)、臨時損失71,148,186円(皆減)が減少したことなどによるものである。

4 財政状態

2年度における資産、負債及び資本の変動状況は、付表3に示すとおりである。資産の総額と負債及び資本の合計は、27,135,673,474円で、元年度と比較して3,935,983,695円(17.0%)の増となっている。

(1) 資産

固定資産

固定資産は、25,539,073,184円で、元年度と比較して3,745,734,600円(17.2%)の増で、資産総額に占める割合は、94.1%(元年度93.9%)となっている。これは構築物3,629,793,044円(22.0%)、機械及び装置96,605,608円(3.0%)が増加したことなどによるものである。

流動資産

流動資産は、1,596,600,290円で、元年度と比較して190,249,095円(13.5%)の増で、資産総額に占める割合は、5.9%(元年度6.1%)となっている。これは前払金51,047,000円(45.7%)減少したものの、現金預金226,598,610円(19.2%)、未収金14,697,485円(12.7%)が増加したことによるものである。

下水道使用料不納欠損額は、54件（元年度184件）177,500円で、元年度と比較して364,269円（67.2%）の減となっている。

（2）負債・資本

負債

負債は、24,247,650,775円で、元年度と比較して2,825,184,682円（13.2%）の増で、負債・資本合計に占める割合は、89.4%（元年度92.3%）となっている。これは固定負債の企業債315,484,059円（3.5%）、流動負債の企業債108,892,619円（12.8%）、一時借入金285,450,000円（皆増）、繰延収益2,010,573,997円（18.2%）が増加したことなどによるものである。

資本

資本は、2,888,022,699円で、元年度と比較して1,110,799,013円（62.5%）増加し、負債・資本合計に占める割合は、10.6%（元年度7.7%）となっている。

(3) 資金の状況

キャッシュ・フロー計算書

(単位：円)

| 項 目 | 令和2年度 | 令和元年度 | 比較増減 |
|------------------------|---------------|---------------|-------------|
| 1. 業務活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 当年度純利益 | 212,210,019 | 144,094,400 | 68,115,619 |
| 減価償却費 | 1,027,676,451 | 911,352,988 | 116,323,463 |
| 資産減耗費 | 2,597,802 | 177,901,453 | 175,303,651 |
| 貸倒引当金の増減額(は減少) | 180,639 | 58,336 | 238,975 |
| 退職給与引当金の増減額(は減少) | 1,067,844 | 1,759,342 | 2,827,186 |
| 賞与引当金の増減額(は減少) | 827,000 | 483,000 | 344,000 |
| 長期前受金戻入額 | 589,145,950 | 664,941,342 | 75,795,392 |
| 受取利息及び配当金 | 10,967 | 7,718 | 3,249 |
| 支払利息 | 169,505,515 | 171,288,378 | 1,782,863 |
| 未収金の増減額(は増加) | 1,121,442 | 11,907,862 | 13,029,304 |
| 未払金の増減額(は減少) | 18,402,395 | 16,702,089 | 1,700,306 |
| その他流動負債の増減額(は減少) | 88,850 | 18,740 | 107,590 |
| 小 計 | 807,716,250 | 709,724,790 | 97,991,460 |
| 利息及び配当金の受取額 | 10,967 | 7,718 | 3,249 |
| 利息の支払額 | 169,505,515 | 171,288,378 | 1,782,863 |
| 業務活動によるキャッシュ・フロー | 638,221,702 | 538,444,130 | 99,777,572 |
| 2. 投資活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出 | 721,973,115 | 670,817,943 | 51,155,172 |
| 基金積立による支出 | 2,696 | 0 | 2,696 |
| 国庫補助金による収入 | 250,148,183 | 243,386,946 | 6,761,237 |
| 県補助金による収入 | 1,151,819 | 3,099,091 | 1,947,272 |
| 受益者負担金による収入 | 28,089,672 | 16,921,190 | 11,168,482 |
| 他会計負担金による収入 | 22,076,513 | 21,411,911 | 664,602 |
| 未収金の増減額(は増加) | 6,802,700 | 1,684,500 | 5,118,200 |
| 未払金の増減額(は減少) | 81,923,444 | 151,493,654 | 233,417,098 |
| 前受金の増減額(は減少) | 0 | 9,550,000 | 9,550,000 |
| 前払金の増減額(は増加) | 51,047,000 | 92,667,000 | 143,714,000 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 294,341,880 | 641,393,959 | 347,052,079 |
| 3. 財務活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 建設改良企業債による収入 | 669,550,000 | 694,000,000 | 24,450,000 |
| 建設改良企業債の償還による支出 | 955,988,325 | 860,178,967 | 95,809,358 |
| 他会計からの出資による収入 | 137,277,000 | 97,936,000 | 39,341,000 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 149,161,325 | 68,242,967 | 80,918,358 |
| 資金増加額 | 194,718,497 | 171,192,796 | 365,911,293 |
| 資金期首残高 | 1,210,616,531 | 1,349,929,214 | 139,312,683 |
| 資金期末残高 | 1,405,335,028 | 1,178,736,418 | 226,598,610 |

資金は貸借対照表の資産のうち、現金・預金と一致する。

元年度資金期末残高と2年度資金期首残高の差異31,880,113円は、元年度に農業集落排水事業特別会計からの繰越金で、本会計へ引き継がれたことによるものである。

2年度末における資金（現金・預金）の残高は、1,405,335,028円で、年度期間中に226,598,610円の増（元年度171,192,796円減）となっている。これは、当年度純利益や減価償却費等の内部留保資金など業務活動によるもので99,777,572円、有形固定資産の取得や未払金の支払など投資活動によるもので347,052,079円増加し、企業債償還など財務活動によるもので80,918,358円減少したことによるものである。

5 経営分析

企業の財政状態及び経営成績に対する判断の方法として経営分析があるが、これを付表4に示したので参照されたい。その概要については、次のとおりである。

（1）構成比率

総資本に対する自己資本の割合を示す自己資本構成比率は、58.85%（元年度55.38%）で、元年度に比べ3.47ポイント上回っている。これは、2年度から同比の高い農業集落排水事業が加わったことによるものである。企業経営上は、この比率が高い方が良いとされているが、下水道事業は、建設投資の財源の多くを企業債により調達しているため、比率は低くなっている。

（2）財務比率

短期的支払能力を判定する流動比率95.82%（元年度120.39%）は、200%以上が理想比率とされているが、下水道事業は建設投資の財源の多くを企業債により調達しているため、流動負債に計上される企業債の償還金が大きく、比率は低くなる。固定比率は、159.92%で、設備投資を企業債に依存しているため、大きな値となっている。また、当座資金と流動負債の対比から支払能力を判定する酸性試験比率は、通常100%以上であれば良いとされているが、2年度は92.18%（元年度110.82%）で18.6ポイント下回っているのは、一時借入金から長期資金に振替えた分の企業債が増加したことによるものである。

（3）回転率

現金預金回転率は、1.75回で元年度2.00回を0.25回下回っているのは、現金預金が増加したことによるものである。

未収金回転率は、6.69回で元年度6.78回を0.09回下回っているのは、未収金が増加したことによるものである。

（4）収益率

総収益対総費用比率は、112.94%で元年度108.35%より4.59ポイント上回っているのは、特別損失（下水汚泥の保管庫及び被災管に係る除却費等）が減少したことによるものである。

経営資本営業利益率は、2.99%で元年度3.16%に比べ0.17ポイント上回っているのは、営業損失が生じていること、農業集落排水事業が加わったことによる経営資本の増加によるものである。

6 むすび

令和2年度より南相馬市下水道事業会計は、農業集落排水事業を公営企業化し統合した。下水道事業における決算の概要は、以上の記述のとおりである。

業務実績をみると、処理区域内人口は、36,700人で、元年度実績と比較して3,473人(10.5%)増加している。また、年間総処理水量は、7,054,025 m^3 で、元年度実績と比較して260,325 m^3 (3.8%)増加しており、一日平均処理水量は、19,326 m^3 で、元年度と比較して764 m^3 (4.1%)増加している。普及率は、62.5%で、元年度と比較して6.6ポイント増加、水洗化率は92.0%で、元年度と比較して0.3ポイント減少している。

また、経営成績では、総収益は1,852,794,727円、総費用は1,640,584,708円となっており、収支差引212,210,019円の純利益が生じた。前年度繰越欠損金563,379,893円に当年度純利益を加えた結果、当年度未処理欠損金は351,169,874円となっている。

令和2年度に完了した主な建設改良工事は、原町区雨水関連下水管移設工事、原町区雨水管渠築造第1区工事、鹿島区下水管渠築造第1区工事、原町第一下水処理場第1消化槽耐震補強工事等である。

経営状況については、平成26年度から7年度続けて純利益を計上しているものの、依然として累積欠損金を抱えており引き続き財政状況の改善が必要となっている。とりわけ、今後、人口減少、污水管渠の整備、浸水対策や40年以上経過した原町第一下水処理施設の更新など取り組むべき課題があり、本事業を取りまく経営環境はより一層厳しさを増すものと推測される。

公共下水道は、汚水の処理により、生活環境の改善や公共用水域の水質を保全するとともに、雨水を速やかに排水し、浸水被害を軽減するという市民生活に欠かすことのできない重要なライフラインである。

今後も下水道ストックマネジメント計画に基づき、着実に整備を進めるとともに、事故等への備えも万全を期すなど、事業・サービスの提供を安定的に継続できるよう、中長期的な視点に立って健全な経営を図るよう望むものである。

下水道事業会計付表

損益計算年度比較表

(単位：円 %))

| 科目 | 年度等 2 | 元 | 30 | 前年度 対 比 | すう勢比率 | |
|--------|---------------|---------------|---------------|------------|-------|-------|
| | | | | | 2 | 元 |
| 営業収益 | 653,699,376 | 611,997,416 | 615,032,516 | 106.8 | 106.3 | 99.5 |
| 営業外収益 | 1,123,892,051 | 1,148,434,138 | 1,021,056,599 | 97.9 | 110.1 | 112.5 |
| 特別利益 | 75,203,300 | 109,954,991 | 49,603,737 | 68.4 | 151.6 | 221.7 |
| 総収益 | 1,852,794,727 | 1,870,386,545 | 1,685,692,852 | 99.1 | 109.9 | 111.0 |
| 営業費用 | 1,459,704,606 | 1,339,865,666 | 1,320,558,282 | 108.9 | 110.5 | 101.5 |
| 営業外費用 | 180,500,770 | 184,825,709 | 193,450,406 | 97.7 | 93.3 | 95.5 |
| 特別損失 | 379,332 | 201,600,770 | 31,700,316 | 0.2 | 1.2 | 636.0 |
| 総費用 | 1,640,584,708 | 1,726,292,145 | 1,545,709,004 | 95.0 | 106.1 | 111.7 |
| 当年度純損益 | 212,210,019 | 144,094,400 | 139,983,848 | 147.3 | 151.6 | 102.9 |

すう勢比率は、平成30年度を100とした数値である。

付 表 2

比較損益計算書

(単位：円 %))

| 科目 | 年度等 | 2 | | 元 | | 比較増減 (A) - (B) | 前年度 対比 |
|--------|---------------|---------------|---------------|---------------|-------------|-------------------|-----------|
| | | 金額(A) | 構成比 | 金額(B) | 構成比 | | |
| 営業収益 | 下水道使用料 | 521,367,376 | 79.7 | 471,021,416 | 77.0 | 50,345,960 | 110.7 |
| | 他会計負担金 | 131,902,000 | 20.2 | 140,876,000 | 23.0 | 8,974,000 | 93.6 |
| | その他営業収益 | 430,000 | 0.1 | 100,000 | 0.0 | 330,000 | 430.0 |
| | 合計 | 653,699,376 | 100.0 | 611,997,416 | 100.0 | 41,701,960 | 106.8 |
| 営業費用 | 管渠費 | 32,113,864 | 2.2 | 36,602,411 | 2.7 | 4,488,547 | 87.7 |
| | ポンプ場費 | 5,323,738 | 0.4 | 9,319,968 | 0.7 | 3,996,230 | 57.1 |
| | 処理場費 | 323,113,645 | 22.1 | 292,984,434 | 21.9 | 30,129,211 | 110.3 |
| | 総係費 | 68,879,106 | 4.7 | 63,212,520 | 4.7 | 5,666,586 | 109.0 |
| | 減価償却費 | 1,027,676,451 | 70.4 | 911,352,988 | 68.0 | 116,323,463 | 112.8 |
| | 資産減耗費 | 2,597,802 | 0.2 | 26,393,345 | 2.0 | 23,795,543 | 9.8 |
| | 合計 | 1,459,704,606 | 100.0 | 1,339,865,666 | 100.0 | 119,838,940 | 108.9 |
| 営業損益 | 806,005,230 | - | 727,868,250 | - | 78,136,980 | 110.7 | |
| 営業外収益 | 受取利息及び配当金 | 10,967 | 0.0 | 7,718 | 0.0 | 3,249 | 142.1 |
| | 他会計負担金 | 534,647,680 | 47.6 | 483,346,848 | 42.1 | 51,300,832 | 110.6 |
| | 県補助金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | 他会計補助金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | 長期前受金戻入 | 589,145,950 | 52.4 | 664,941,342 | 57.9 | 75,795,392 | 88.6 |
| | 雑収益 | 87,454 | 0.0 | 138,230 | 0.0 | 50,776 | 63.3 |
| | 国庫補助金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| 合計 | 1,123,892,051 | 100.0 | 1,148,434,138 | 100.0 | 24,542,087 | 97.9 | |
| 営業外費用 | 支払利息及び企業債取扱諸費 | 169,505,515 | 93.9 | 171,288,378 | 92.7 | 1,782,863 | 99.0 |
| | 補助金 | 40,000 | 0.0 | 0 | 0.0 | 40,000 | 皆増 |
| | 雑支出 | 10,955,255 | 6.1 | 13,537,331 | 7.3 | 2,582,076 | 80.9 |
| | 合計 | 180,500,770 | 100.0 | 184,825,709 | 100.0 | 4,324,939 | 97.7 |
| 経常損益 | 137,386,051 | - | 235,740,179 | - | 98,354,128 | 58.3 | |
| 特別利益 | 75,203,300 | - | 109,954,991 | - | 34,751,691 | 68.4 | |
| 特別損失 | 379,332 | - | 201,600,770 | - | 201,221,438 | 0.2 | |
| 当年度純損益 | 212,210,019 | - | 144,094,400 | - | 68,115,619 | 147.3 | |

比較貸借対照表

(単位：円 %)

| 科目 | | 年度等 | 2 | | 元 | | 比較増減 (A) - (B) | 前年度 対比 |
|---------|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|-------------------|-----------|
| | | | 金額(A) | 構成比 | 金額(B) | 構成比 | | |
| 資産 | 固定資産 | 土地 | 840,466,591 | 3.1 | 815,123,607 | 3.5 | 25,342,984 | 103.1 |
| | | 建物 | 1,000,707,226 | 3.7 | 1,000,539,011 | 4.3 | 168,215 | 100.0 |
| | | 構築物 | 20,151,124,859 | 74.3 | 16,521,331,815 | 71.2 | 3,629,793,044 | 122.0 |
| | | 機械及び装置 | 3,358,152,657 | 12.4 | 3,261,547,049 | 14.1 | 96,605,608 | 103.0 |
| | | 車両運搬具 | 1,236,704 | 0.0 | 1,919,091 | 0.0 | 682,387 | 64.4 |
| | | 工具器具及び備品 | 8,398,281 | 0.0 | 8,563,165 | 0.0 | 164,884 | 98.1 |
| | | リース資産 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | 建設仮勘定 | 151,931,048 | 0.5 | 184,224,636 | 0.8 | 32,293,588 | 82.5 |
| | | 計 | 25,512,017,366 | 94.0 | 21,793,248,374 | 93.9 | 3,718,768,992 | 117.1 |
| | 無形固定資産 | 72,000 | 0.0 | 72,000 | 0.0 | 0 | 100.0 | |
| | 投資その他の資産 | 26,983,818 | 0.1 | 18,210 | 0.0 | 26,965,608 | 148,181.3 | |
| | 固定資産計 | 25,539,073,184 | 94.1 | 21,793,338,584 | 93.9 | 3,745,734,600 | 117.2 | |
| | 流動資産 | 現金預金 | 1,405,335,028 | 5.2 | 1,178,736,418 | 5.1 | 226,598,610 | 119.2 |
| | | 未収金 | 130,545,262 | 0.5 | 115,847,777 | 0.5 | 14,697,485 | 112.7 |
| 前払金 | | 60,720,000 | 0.2 | 111,767,000 | 0.5 | 51,047,000 | 54.3 | |
| その他流動資産 | | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - | |
| 流動資産計 | | 1,596,600,290 | 5.9 | 1,406,351,195 | 6.1 | 190,249,095 | 113.5 | |
| 資産合計 | | 27,135,673,474 | 100.0 | 23,199,689,779 | 100.0 | 3,935,983,695 | 117.0 | |

| 科目 | | 年度等 | 2 | | 元 | | 比較増減 | 前年度 |
|---------|---------------|----------------|---------------|----------------|---------------|---------------|-------------|-------|
| | | | 金額(A) | 構成比 | 金額(B) | 構成比 | (A) - (B) | 対比 |
| 負債・資本の部 | 固定負債 | 企業債 | 9,424,814,043 | 34.7 | 9,109,329,984 | 39.3 | 315,484,059 | 103.5 |
| | | 他会計借入金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | 引当金 | 74,406,402 | 0.3 | 73,338,558 | 0.3 | 1,067,844 | 101.5 |
| | | その他固定負債 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | 計 | 9,499,220,445 | 35.0 | 9,182,668,542 | 39.6 | 316,551,903 | 103.4 |
| | 流動負債 | 企業債 | 958,488,914 | 3.5 | 849,596,295 | 3.7 | 108,892,619 | 112.8 |
| | | 一時借入金 | 285,450,000 | 1.1 | 0 | 0.0 | 285,450,000 | 皆増 |
| | | 未払金 | 415,212,593 | 1.5 | 312,412,280 | 1.3 | 102,800,313 | 132.9 |
| | | 預り金 | 299,590 | 0.0 | 210,740 | 0.0 | 88,850 | 142.2 |
| | | 前受金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | 引当金 | 6,772,000 | 0.0 | 5,945,000 | 0.0 | 827,000 | 113.9 |
| | | その他流動負債 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| | | 計 | 1,666,223,097 | 6.1 | 1,168,164,315 | 5.0 | 498,058,782 | 142.6 |
| | 繰延収益 | 13,082,207,233 | 48.2 | 11,071,633,236 | 47.7 | 2,010,573,997 | 118.2 | |
| | 負債合計 | 24,247,650,775 | 89.3 | 21,422,466,093 | 92.3 | 2,825,184,682 | 113.2 | |
| 資本金 | 1,889,480,542 | 7.0 | 1,035,505,000 | 4.5 | 853,975,542 | 182.5 | | |
| 剰余金 | 資本剰余金 | 1,349,712,031 | 5.0 | 1,305,098,579 | 5.6 | 44,613,452 | 103.4 | |
| | 利益剰余金 | 351,169,874 | 1.3 | 563,379,893 | 2.4 | 212,210,019 | 62.3 | |
| | 計 | 998,542,157 | 3.7 | 741,718,686 | 3.2 | 256,823,471 | 134.6 | |
| 資本合計 | 2,888,022,699 | 10.7 | 1,777,223,686 | 7.7 | 1,110,799,013 | 162.5 | | |
| 負債・資本合計 | | 27,135,673,474 | 100.0 | 23,199,689,779 | 100.0 | 3,935,983,695 | 117.0 | |

付 表 4

經 營 分 析 比 較 表

(単 位 : % , 回)

| 分 析 項 目 | 算 式 | 2 | 元 | 30 | |
|---------|---------------|---|--------|--------|--------|
| 構 成 比 率 | 1 固定資産構成比率 | $\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}} \times 100$ (総資産 = 固定資産 + 流動資産 + 繰延勘定) | 94.12 | 93.94 | 93.79 |
| | 2 固定負債構成比率 | $\frac{\text{固定負債}}{\text{総資本}} \times 100$ (総資本 = 負債 + 資本) | 35.01 | 39.58 | 39.44 |
| | 3 自己資本構成比率 | $\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{繰延収益}}{\text{総資本}} \times 100$ | 58.85 | 55.38 | 54.84 |
| 財 務 比 率 | 4 固定資産対長期資本比 | $\frac{\text{固定資産}}{\text{固定負債} + \text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}} \times 100$ | 100.27 | 98.92 | 99.48 |
| | 5 固 定 比 率 | $\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{繰延収益}} \times 100$ | 159.92 | 169.61 | 171.03 |
| | 6 流 動 比 率 | $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$ | 95.82 | 120.39 | 108.50 |
| | 7 酸 性 試 験 比 率 | $\frac{\text{現金預金} + (\text{未収金} - \text{貸倒引当金})}{\text{流動負債}} \times 100$ | 92.18 | 110.82 | 107.09 |
| | 8 現 金 比 率 | $\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$ | 84.34 | 100.91 | 99.55 |
| 回 転 率 | 9 総資本回転率 | $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{平均総資本}}$ | 0.03 | 0.03 | 0.03 |
| | 10 自己資本回転率 | $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{平均自己資本}}$ | 0.28 | 0.37 | 0.45 |
| | 11 固定資産回転率 | $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{平均固定資産}}$ | 0.03 | 0.03 | 0.03 |
| | 12 流動資産回転率 | $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{平均流動資産}}$ | 0.44 | 0.43 | 0.43 |
| | 13 現金預金回転率 | $\frac{\text{当年度支出額}}{\text{平均現金預金}}$ | 1.75 | 2.00 | 1.58 |
| | 14 未収金回転率 | $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{平均営業未収金}}$ | 6.69 | 6.78 | 6.90 |

| 説 | 明 |
|----|---|
| 1 | 資産総額に対する固定資産の百分率で、公営企業においては流動資産の額が小さいため、この率は必然的に大きくなる。 |
| 2 | 総資本に占める固定負債の百分率で、公営企業の場合は、設備投資を全面的に企業債に依存しているため、この率は大きくなる。 |
| 3 | 総資本に占める自己資本の割合を示すものであり、この比率が高いほど経営が安定している。 |
| 4 | 固定資産のうち、自己資本（自己資本金 + 剰余金）と長期借入金（借入資本金 + 固定負債）によって調達されている部分がどれだけあるかを示すものであり、一般に100%以下、かつ低いことが望ましい。 |
| 5 | 自己資本金に対する固定資産の百分率で、一般に100%以下が望ましいとされているが、公営企業のように設備投資を企業債に依存する企業では、この率は必然的に大きくなる。 |
| 6 | 流動比率は、1年以内に現金化できる資産と、1年以内に返済すべき負債とを比較するもので、短期支払能力を判定するために利用される。 |
| 7 | 流動資産のうち現金預金及び未収金などの当座資産と流動負債を対比させたもので、通常100%以上であれば良いとされている。 |
| 8 | 流動負債に対する現金預金の百分率で、当座の支払能力をみるために計算される。 |
| 9 | 総資本が1年間に何回転したかを表すもので、資本の利用度を表すものである。したがって、この率は、高いほうが良い。 |
| 10 | 資本金が1年間に何回転したかを表すもので、資本金の利用度を表すものである。 |
| 11 | 固定資産が1年間に何回転したかを表すもので、固定資産の利用度を表すものである。 |
| 12 | 流動資産が1年間に何回転したかを表すものである。 |
| 13 | 現金預金が1年間に何回転したかを表すものである。この率が大きくなることは、それだけ現金預金保有高が経営規模に比して小さいことを示す。 |
| 14 | 未収金が1年間に何回転したかを表すものである。 |

（注）算式に用いた用語は次のとおりである。

・平均 = (期首+期末) / 2

| 分 析 項 目 | | 算 式 | 2 | 元 | 30 | |
|---------|-----------------------|---|--|---------|--------|--------|
| 15 | 減 価 償 却 率 | 当年度減価償却費 | | | | |
| | | $\frac{\text{期末償却資産} + \text{当年度減価償却費}}{\{ \text{期末償却資産} = \text{固定資産} - (\text{土地} + \text{建設仮勘定}) \}}$ | 0.04 | 0.04 | 0.04 | |
| 16 | 総 資 本 利 益 率 | 当年度純利益 | | | | |
| | | $\frac{\text{当年度純利益}}{\text{平均総資本}} \times 100$ | 0.84 | 0.61 | 0.59 | |
| | | 17 総 収 益 対 総 費 用 比 率 | $\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$ | 112.94 | 108.35 | 109.06 |
| | | 18 営 業 収 益 対 営 業 費 用 比 率 | $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{営業費用} - \text{受託工事費用}} \times 100$ | 44.78 | 45.68 | 46.57 |
| 19 | 経 営 資 本 営 業 利 益 率 | $\frac{\text{営業利益}}{\text{経営資本}} \times 100$ (経営資本 = 総資本 - (建設仮勘定 + 投資その他の資産 + 繰延勘定)) | 2.99 | 3.16 | 3.00 | |
| 20 | 利 子 負 担 率 | 支払利息+企業債取扱諸費 | | | | |
| | | $\frac{\text{支払利息} + \text{企業債取扱諸費}}{\text{企業債} + \text{長期借入金} + \text{一時借入金} + \text{リース債務}} \times 100$ | 1.59 | 1.72 | 1.84 | |
| 21 | 職 員 一 人 当 た り 営 業 収 益 | 営業収益 | 千円 | 千円 | 千円 | |
| | | $\frac{\text{営業収益}}{\text{損益勘定所属職員数}}$ | 108,950 | 102,000 | 87,862 | |

| 説 | 明 |
|----|--|
| 15 | 償却資産が1年間にどれだけ償却されているかを表すものである。 |
| 16 | 総資本の何%に当たる利益を上げたか、つまり企業の収益性を表すものである。損失が生じた場合は負数()となる。 |
| 17 | 総収益が総費用の何%に当たるかを表すものである。 |
| 18 | 営業収益が営業費用の何%に当たるかを表すものである。 |
| 19 | 経営資本営業利益率は、本来の営業活動に投下されている経営資本と、本来の営業活動から生み出される営業利益の比率であり、この比率は高い方が良い。 |
| 20 | 損益計算書が示す借入資本利子と、貸借対照表に示された借入資本金とを比較することにより、利子率を計算したものである。 |
| 21 | 職員一人当たりどの位の営業収益を上げたかを表すものである。 |

(注) 算式に用いた用語は次のとおりである。

・平均 = (期首+期末) / 2